



報会師剤薬新大

No.286. 2017(平成29年) 1・2月号



沖縄県薬剤師会

薬剤師綱領

「薬剤師は国から付託された資格に基づき、医薬品の製造、調剤、供給において、その固有の任務を遂行することにより、医薬水準の向上に資することを本領とする」

「薬剤師は広く薬事衛生をつかさどる専門職としてその職能を発揮し、国民の健康増進に寄与する社会的責務を担う」

「薬剤師はその業務が人の生命健康にかかわることに深く思いを致し、絶えず薬学、医学の成果を吸収して、人類の福祉に貢献するよう努める」

日本薬剤師会

会員 太田節子書

日本薬剤師会
昭和48年10月10日制定

・表紙

「Ritter Apotheke」

photo by 前濱 朋子（つる調剤薬局）

題字：豊平峰雲^{とよ ひら ほう うん}

騎士の家（zum Ritter）は1492年に建てられ（1566年に増築）壁画は1568年から70年に掛けてシャフハウゼン出身の画家Tobias Stimmerによって描かれたそうです。1階部分が薬局と香水のお店になっています。

目次

薬剤師綱領	
年 頭 挨 拶	新年のご挨拶……………亀谷 浩昌…(2) 新年ご挨拶……………山本 信夫…(4) 新年のあいさつ……………砂川 靖…(6) 年頭にあたって……………藤井 基之…(7) 新年ご挨拶……………松本 純…(8) 新年の挨拶……………とかしきなおみ…(9) 年頭ご挨拶……………國場幸之助…(10) 祝辞……………宮崎 政久…(11) 新年のご挨拶……………比嘉奈津美…(12) 年頭ご挨拶……………西銘恒三郎…(14)
祝 賀 会	平成28年度薬事功労受賞者合同祝賀会開催……………大城 喜仁…(16) ・ ・ ・受賞者プロフィール……………(18) ・ ・ ・祝賀会スナップ写真……………(23)
学 術 研 修	ジェネリック医薬品の適正使用および評価に関する研修会報告……………宮城 幸枝…(26)
啓発・普及活動	沖縄テレビ放送公開収録シンポジウムに我喜屋常務理事が出演！……………大城 喜仁…(28) 第3回グッジョブ☆にしたら わくわくワーク参加報告……………金城 春樹…(30) 南風原町立南星中学校における学習支援事業「職業人講話」実施報告…金城 尚子…(32)
月例相談会	第138回健康とおくすり相談会報告(那覇地区薬剤師会)……………(33) 第139回健康とおくすり相談会報告(中部地区薬剤師会)……………我那覇ももこ…(34) 第140回健康とおくすり相談会報告(地域保健開局委員会・那覇地区薬剤師会)…草壁 瑞恵…(35)
ぶれいくたいむ	宜保匠さん&島袋陽子さん ご結婚おめでとう！……………白 まゆみ…(36)
D I	薬事情報おきなわNo. 243……………薬事情報センター…(37)
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報……………(47)
医 療 保 険	調剤報酬請求業務Q&A(第1回)……………医療保険委員会…(48) ・ ・ ・調剤報酬請求業務Q&A質問用紙……………(49)
薬 草 学	身近な薬草を知ろう 第30回 ギンネム：ギンゴウカン：ニブイギ……………狩俣 イソ…(50)
リレー随筆	『なんくるないさー』……………座覇 里奈…(52)
薬連だより	国会レポート ～平成29年度予算案～……………藤井もとゆき…(53)
日 薬 通 達	セルフメディケーション税制に関するQ&A……………(54) 正会員向け保険制度のご案内……………(58) (賠償責任保険・個人情報漏えい保険・休業補償保険・長期休業補償保険)
国保・社保通達	平成29年度レセプト受付日と診療報酬等支払日……………沖縄県国民健康保険団体連合会…(60) 平成29年度診療(調剤)報酬請求書等受付並びに返戻レセプト等発送予定日 ………………社会保険診療報酬支払基金沖縄支部…(61)
理 事 会	平成28年度第4回定例理事会議事概要……………(62) 平成28年度第5回定例理事会議事概要……………(69) 平成28年度第6回定例理事会議事概要……………(78)
転 載 記 事	市販薬購入で減税 レシート捨てないで 1万2千円超で減税……………(84) 沖縄タイムス「ぼくも 私も」コーナーに笠原大吾先生が紹介されました……………(84) 沖縄タイムス社 週刊ほ～むぷらざ「彩職賢美」に前濱朋子副会長が紹介されました…(85)
会 務 報 告	平成28年12月分……………(88) 沖縄県薬剤師連盟会務報告(平成28年12月分)……………(89)
一 包 一 話	朗らかに笑って福を呼ぶ……………橋 の 下…(90)
会 員 作 品	誌上ギャラリー(裏表紙)について…平成28年誌上ギャラリー大賞&優秀賞決定！……………(92)
編 集 後 記	……………(92)
お 知 ら せ	会報原稿募集のご案内……………(27) 県薬が会員に販売している印刷物等……………(89) 会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について……………(89)



新年のごあいさつ

沖縄県薬剤師会

会長 亀谷 浩 昌



新年明けましておめでとうございます。沖縄県薬剤師会（以下、本会と記す）及び薬剤関係者の皆様におかれましては2017年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より本会の諸事業にご理解とご支援を賜っておりますことに心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年4月14日には熊本地震があり、157人もの多数の死者を出す大被害をもたらしました。未だ震災の爪痕は各地に見られ、早期の復旧を心より祈るものです。悲しいニュースの反面、嬉しいニュースもありました。6月には参議院選挙があり、私達薬剤師の代表である藤井基之先生が見事に3期目の当選を果たされました。沖縄県薬剤師連盟を先頭に県下全地区の会員及び関係者の皆様在必死になって頑張った結果だと思えます。有難うございました。

厚生労働省の「患者のための薬局ビジョン」に沿って昨年4月に調剤報酬改定が行われ、10月1日以降には健康サポート薬局の届出も始まりました。「門前」から「かかりつけ」、そして「地域へ」との方向性が示され、さらには地域包括ケアシステムの構築に向け、医療提供体制が「医療機関完結型」、から「地域完結型」へ変わっていく中で、薬局薬剤師の業務は地域住民に対する健康相談や在宅対応を含め、病院薬剤師との連携の下、地域医療の中で幅広く貢献することが求められています。今後、薬剤師の業務量は一段と増すことが想定されますが、本会が行政とタイアップして進めている薬学生へ沖縄県（以下、本県

と記す）での就職を勧める活動はここ数年継続していますが、なかなか満足する成果が上がらない状況です。薬剤師不足の厳しい現在の状況を会員の皆様の知恵もお借りしながら、創意と工夫で乗り越えて行きたいと考えています。

現在、本県では団塊の世代が後期高齢者となる2025年の医療提供はどうあるべきかを地域医療構想検討会議を開催し、討議しています。持続可能な社会保障制度の実現を目指した構想が打ち出さなければいけません。薬局は住民に一番近い医療機関であり、アクセスのしやすさ、コストの低さからもっと構想の中で取り上げられるべきものと思います。私達は厚労省の打ち出した「患者のための薬局ビジョン」および「健康サポート薬局」の実現を目指しながら、安全で有効な薬物療法の実現とともに、薬局の役割である地域住民による主体的な健康の保持増進への積極的な支援をして行こうではありませんか。また、国が推進する医療費低減策の一つにセルフメディケーション構想があります。これは世界保健機構（WHO）において「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義されています。我々は県民への適切な情報提供と薬品の供給を通じてセルフメディケーションを推進し、同時に、必要な場合は医療機関への早期受診をお勧めして重症化を防ぎます。これらの活動は本県の長寿日本一の復活にも貢献するものと思われます。



薬剤師が長年続けている取り組みの中に学校薬剤師としての活動があります。学校環境衛生の見守りは勿論、薬の専門家として、医薬品の適正使用と併せて青少年への薬物乱用防止対策にも力をいれていきます。学校薬剤師の皆様には長い目で見て薬剤師応援団にもつながるような活動をお願いします。

今年は酉年です。鳥の目ははるか上空から全体を俯瞰すると同時に、地上の小動物も

しっかり捉えることができるそうです。この鳥の目のように、我々も医療の方向性を見据え、県民個々の健康に関する様々なニーズも見逃さず、与えられた役目を果たして行きたいと思います。引き続きご協力をお願いします。

結びに、会員の皆様及び関係者の皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。





新年ご挨拶

公益社団法人 日本薬剤師会
会長 山本 信夫



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より日本薬剤師会の諸事業に格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。また、昨年6月、新執行部が発足いたしました。が、薬剤師職能の原点に立ち戻って、会員の薬剤師・薬局が期待される役割を全うできるよう会務を進めてまいり所存ですので、あらためましてよろしくお願い申し上げます。

世界に類を見ない速さで少子高齢化が進む中、国民皆保険・皆年金を維持し、これを次世代に引き渡すことを目指した改革への取組が本格化しています。高齢化が進んでも、社会保障制度が期待される機能を十分に果たしていることは国民の願いです。その実現に向けて、医療・介護提供体制の適正化、負担能力に応じた公平な負担、給付の適正化等に係る改革等や、住み慣れた地域で医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。

こうした中、平成27年10月に厚生労働省が公表した「患者のための薬局ビジョン」では、薬局を患者本位の「かかりつけ薬局」とするための道筋と、地域包括ケアシステムの一翼を担う薬局と薬剤師の目指すべき姿が明確に示され、昨年4月に実施された調剤報酬改定は、本ビジョンに示された方向性が強く打ち出されたものとなりました。そして、かかりつけ薬剤師・薬局が持つべき機能に加え、国

民による主体的な健康の保持増進を積極的に支援する薬局が、昨年4月より「健康サポート薬局」として、医薬品医療機器等法上に位置付けられることとなり、昨年10月からその届出が始まりました。

健康サポート薬局は、調剤や一般用医薬品等の販売、在宅医療に必要な医療・衛生材料や介護用品等の供給、在宅患者訪問による服薬指導・管理、地域住民による主体的な健康の保持・増進の積極的な支援、健康や介護などに関する相談を幅広く受け付けるなど、地域包括ケアシステムの中で重要な役割を担います。さらに、健康サポート薬局に常駐が義務付けられた薬剤師の資質確保のための「健康サポート薬局研修」制度がはじまり、本会では、昨年9月より研修の提供を開始しました。貴会におかれましては、技能習得型研修の実施に係る協力機関としての機能を担っていただいておりますことに感謝申し上げますとともに、引き続きご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

一方、医薬分業については、その本旨を推進していくことは明確にされましたが、規制改革実施計画（平成27年6月に閣議決定）を踏まえ、保険薬局の指定に係る留意事項通知の一部改正に伴うルールが、昨年10月より適用されました。薬物療法の安全性と有効性を効果的に確保するためには、処方箋の確認と調剤は、医療機関から独立した薬局において実施されなければならないものです。保険薬局の指定においては、留意事項通知の厳格な適用を求めていくようお願いいたします。

超高齢社会に向けて、社会保障に関わる制度や規制の改革が進められる一方、医療の高度化・複雑化の進展など、薬剤師・薬局を取り巻く環境は大きく変化しています。薬剤師・薬局は、最適な薬物療法を提供する医療の担い手として、他職種や関係機関との連携・協働のもと地域住民の健康を支援する地域社会のリソースとして、その役割はますます重要になってくると思います。

皆様におかれましては、地域におけるチーム医療の一員として、さらには安心して立ち

寄りやすい身近な薬局として、地域に過不足なく医薬品等を供給するとともに、地域包括ケアシステムの中で多職種と連携して地域住民の気軽な相談役としての役割を果たし、国民の健康な生活を確保する任務に邁進いただくようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げますとともに、今後とも本会事業にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げ、新年の挨拶いたします。





新年のあいさつ

沖縄県保健医療部
部長 砂川 靖



平成29年の新春を迎え、心よりお慶び申し上げます。

沖縄県薬剤師会の皆様には、日頃から本県の薬務行政の推進に格別の御支援と御協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

近年、健康に対する意識の高まりを背景に、国民の医薬品等に対する関心はますます高くなっており、同時に、急速な少子高齢化の進行、医療技術の高度化等、薬剤師を取り巻く環境が変化している中で、最適な薬物療法の提供や医療安全対策等、幅広い分野において、医療の担い手としての役割を果たすことが、薬剤師に対してより一層求められています。

厚生労働省においても、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目処に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、地域において医療や介護等の支援が一体的に提供されるシステム（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。薬局や薬剤師においても、かかりつけ機能の充実や高度薬学管理機能の実施など、他職種との連携のもとでそのシステムの一翼を担うことが期待されています。

こうした状況を踏まえ、厚生労働省は平成27年に策定した「患者のための薬局ビジョン」において、今後の薬局のあるべき姿を明らかにしております。このビジョンの中で、患者ニーズに対応した業務の実施、患者とのコミュニケーション能力の向上、服薬情報の一元管理、他職種との連携等、患者本位の医薬分業の実現が求められており、団塊の世代が85歳以上を迎える2035年までに全ての薬局をかかりつけ薬局に再編することを提示しています。

また、昨年は「健康サポート薬局」の届出制度が施行され、かかりつけ薬局の機能に加

え、地域住民のセルフメディケーションを支援する機能を備えた薬局は届出を行うことで「健康サポート薬局」として表示する事が出来るようになりました。

今後、薬局や薬剤師の皆様は地域住民の健康支援の担い手として、これまで以上に重要な役割を担っていくものと期待しております。

薬物乱用防止対策につきましては、本県の薬物事犯による検挙人員は増加傾向にあり、予断を許さない状況が続いております。特に昨今は、若年層の大麻乱用が大幅に増加しており、青少年への薬物乱用の拡がり懸念されています。沖縄県においても、例外ではなく、青少年への薬物乱用防止対策の充実強化が求められています。

県では、引き続き、薬物乱用防止対策に努めてまいりますので、皆様におかれましても、薬の専門家である薬剤師として、医薬品の適正使用と併せて、今後とも、薬物乱用防止対策に一層の御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

皆様には、県民の意識や生活スタイル、医療の要請が絶えず変化していることを踏まえつつ、自らも時代に即して、県民が期待する社会的使命を果たされますよう、今後とも、地域住民あるいは医療関係者から信頼され、保健医療に貢献できる薬剤師を目指し、不断の研鑽に努めていただきたいと思います。

医薬品の安定供給や適正使用の推進等を通じ、県民の健康増進に御尽力を賜りますとともに、薬務行政の円滑な推進につきましては、今後とも変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、新春の門出にあたり、沖縄県薬剤師会の限りない御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。



年頭にあたって

参議院議員・自民党総務副会長
藤井基之



新年明けましておめでとうございます。薬剤師会の会員の皆様には、お健やかに輝かしい新たな年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年夏に行われました参議院議員選挙では、ご支援頂く皆様方の大きなお力添えにより、無事3期目の当選を果たすことができました。皆様方から頂いた熱い思いを胸に、医療や介護などの社会保障の充実に努め、誰もが安心して暮らせる心豊かな社会づくりに尽力して参りたいと思います。

私は、参議院選挙後の党役員人事において自民党の総務副会長を命じられました。総務会は衆参両院の25名の国会議員で構成され、党大会、両院議員総会に次ぐ自民党の意思決定機関で、党内に常設する最高位の決定機関であります。党運営や国会活動に関する重要事項について、責任をもって審議に当たり適切な決定をして参りたいと思います。また国会では、参議院の厚生労働委員会及び決算委員会の委員に加え、沖縄・北方問題特別委員会の委員長に指名されました。昨年末に日ロ首脳会談が行われた北方領土問題や沖縄の基地問題などの長年懸案の政治課題を抱える委員会であり、委員長として、その職責をしっかり果たしていきたいと思います。

さて、昨年は薬剤師・薬局に関わる大きな節目の年となりました。4月の診療報酬・調剤報酬の改定では、厚生労働省が示した「患者のための薬局ビジョン」を受けて、これま

での薬を主体とした対物業務から、服薬指導や重複投薬防止など患者に着目した対人業務を評価する抜本的な見直しが行われ、かかりつけ薬剤師・薬局の機能を高く評価するものとなりました。また、薬剤師が地域の健康情報の拠点となり、住民の主体的な健康の維持・増進を支援する「健康サポート薬局」の制度もスタートしました。

更に、本年1月からは、一定額以上のスイッチOTC薬を購入した場合に税額控除する、いわゆる「セルフメディケーション税制」もスタートします。高齢化など社会変化に対応した地域包括ケアシステムの構築が進められるなか、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局が地域の医療・介護施設等と密接に連携し、住民の適切な薬物治療や健康管理に寄与していくことに期待が寄せられています。

来年の診療報酬と介護報酬の同時改定を控え、年末に向けて激しい議論が交わされるものと思われます。高齢化や医療技術の高度化に伴い医療費が年々増大するなか、医療提供のあり方や薬剤師をはじめ医療提供者の働き方が見極められる、大切な年になると思います。世の中の薬剤師への期待にしっかり応え、患者や地域住民の理解を得ていくことが何よりも大切になると思います。

貴薬剤師会のご隆盛と薬剤師の先生方の益々のご活躍、ご健勝を祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。本年もよろしくお願い申し上げます。



新年ご挨拶

国務大臣・衆議院議員

松本 純



新年明けましておめでとうございます。亀谷浩昌会長はじめ一般社団法人沖縄県薬剤師並びに沖縄県薬剤師連盟の皆様には平成29年の初春をお健やかにお迎えのこと心からお慶び申し上げます。また、旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

昨年8月3日の第3次安倍晋三第2次改造内閣の発足に伴い、国家公安委員会委員長、海洋政策・領土問題担当大臣、国土強靱化担当大臣、内閣府特命消費者及び食品安全担当大臣、内閣府特命防災担当大臣に任命され、重責を担い、国民の安全・安心に密接に関連し、危機管理を要諦とする分野を担当することとなり、就任以来5か月、幅広い課題に取り組んでまいりました。

昨年は革新的な新薬に係る薬剤費について社会保障制度における財政負担の観点から政治的にも大きな問題として取り上げられましたが、急速な医療技術の高度化と併せて標準的な薬物療法は、日々刻々と変化しています。医薬品情報の提供や医療安全の確保の点で、薬剤に関する最先端の専門的知識を有する薬剤師が担う役割は益々重要なものとなっております。

そのような中、薬剤師は期待されている社会的使命を全うし、国民・患者さんに身近な立場で、健康の維持・増進を図り、安全・安心を提供できる「かかりつけ薬剤師」「かかりつけ薬局」としてその職能を発揮していかなければなりません。

世界にも例のない少子高齢化が進む中、国としては社会保障制度を維持していく為に

も、医療・介護・生活支援等を包括的に確保する「地域包括ケアシステム」を構築することが目下の課題となっていて、薬剤師の皆様にとって地域における医療や介護、生活支援などの中で安全確保と医療の質の向上を図る為に患者さんから選ばれた「かかりつけ薬剤師」「かかりつけ薬局」として、かかりつけ医を中心とする多職種と連携し、その責務を果たしていくことが大切です。国民・患者さんの健康維持・増進という目的達成のため共に頑張りましょう。

また、薬局薬剤師について進められている「かかりつけ薬剤師」「かかりつけ薬局」に関しても、医療機能の分化や入院医療から在宅医療への円滑な移行が求められる中で、患者に対する切れ目のない適切な薬物療法を実現するためには、これまで以上に病院薬剤師と薬局薬剤師の連携が不可欠になります。皆様方には患者の入退院時の情報交換等、地域での連携を進めていただき、地域の薬局の機能強化にもオール薬剤師として取り組んで参りましょう。

経済再生には、政治を安定させることが不可欠で、経済を引き上げることその経済成長の上で社会保障制度が堅持されなければならないことを胸に本年も全力で頑張っ参ります。

引き続き皆様からの変わらぬご指導、ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。本年も亀谷会長をはじめ役員並びに会員の皆様にとりましてさらに良い年でありますようご祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。



新年の挨拶

自民党 厚生労働部会長・衆議院議員・薬剤師
とかしき なおみ



明けましておめでとうございます。亀谷浩昌会長をはじめ会員の先生方におかれましては健やかに新年をお迎えになりましたこと、心よりお慶び申し上げます。

私は皆様の力強いご支援により2012年に国政に復帰させて頂き、その後すぐに厚生労働大臣政務官、2015年10月からは厚生労働副大臣、現在は自民党厚生労働部会長を拝命しております。

厚生労働行政には課題が山積していますが、特に年金や医療制度改革の議論で、私は国が薬局の役割に対して、大きな期待を寄せているのを改めて感じています。それは2015年10月に厚労省が初めて特定の医療職種に方向性を打ち出した「患者のための薬局ビジョン」にも示されており、日本の医療体制の価値観を薬の業界から変えて欲しいというメッセージが明確に表れています。

国が推進している『地域包括ケアシステム』における薬剤師の役割は「服薬情報の一元化」「在宅対応」「健康サポート機能」「医療と介護等の橋渡し役」など多岐に渡ります。私はこれらに加えて、これからの薬剤師は調剤で職能を発揮する時代は終わり、カウンセリングで職能を発揮する時代になるのではないかと考えています。患者さんの人生に寄り添い、人間の摂理にかなった「薬の飲む量を少なく、飲む期間も短く」する為に薬剤師は力を尽くす。将来的に薬剤師は「病気を発症させないようにする医療」の一翼を担う存在を目指すべきではないかと考えています。皆様の双肩に、我が国の社会保障制度の未来がかかっていると申し上げても過言ではありません。

本年も引き続きご尽力頂きます事をお願い申し上げます、結びに沖縄県薬剤師会の益々の発展をお祈り申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。





年頭ご挨拶

衆議院議員（沖縄1区）
國場 幸之助



新たな年を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

沖縄県薬剤師会の皆様には、日頃よりご支援ご協力をいただきありがとうございます。国会で活動に専念できるのも、会員の皆様をはじめ薬業関係者の皆様のご理解の賜であり御礼申し上げます。

薬剤師の先生方におかれましては、薬学の専門家として、調剤および医薬品の供給等を通じて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって県民・国民が健康な生活を送れるよう、日夜尽力されておられる事に敬意を表します。

さて、平成29年度医薬関係予算案において、「革新的な医薬品の実用化促進」や、医療情報データベース推進事業等を含めた「医薬品等の安全対策の充実、きめの細かい対応」、「医薬品の安全、信頼性の確保」などが主要事項に挙げられており、医薬品の安全性の確保と医薬品に関する情報管理への取り組みが重視されて参ります。

薬剤業界を取り巻く環境も変革の時期を迎え、制度的には、かかりつけ医や、かかりつけ薬剤師・薬局の更なる活用や地域包括ケアシステムの構築が求められております。

そのような中、今年1月からセルフメディケーション税制（医療費控除の特例）が施行されたことで、国民の医薬品に関する情報収集、使用への注意が高まっていくでしょう。これまでも、お薬手帳に代表される、丁寧な

医薬品使用の指導と食事等のアドバイスなどのサービス展開を手がけられてきましたが、一般医薬品の選択及び使用等への相談はもとより、利用者ひとりひとりへのきめ細かい対応による健康把握や受診勧告、健康教育への参加など、かかりつけ薬局としての役割は益々大きなものとなっていくでしょう。現場の皆様にはご苦勞をおかけすることになりますが、国民の健康増進のため、より一層の取り組みをご期待申し上げます。

結びになりますが、国民の命と安心安全を担う医療政策については、今後も精力的に取り組んでいきたいと考えており、そのためにも現場でご活躍されている皆様方の声を聞き、取り組みにつなげていきたいと存じますのでご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

新春に当たり、貴会並びに薬剤師の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶と致します。

平成29年1月吉日





祝 辞

衆議院議員（沖縄2区）

宮崎 政久



新年あけましておめでとうございます。

亀谷会長をはじめとする沖縄県薬剤師会の皆様、ご関係のすべての皆様にはお健やかに新たな年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

平素は、皆様から格別なるご指導、ご支援を賜り衷心より御礼を申し上げます。旧年中は、貴会ならびに会員の皆様からひとかたならぬご支援ご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。こうして貴会からのご支援を賜りまして、私は衆議院議員として2期目の活動に専念させていただくことができます。2016年末には、沖縄関連税制改正や次年度予算編成に向けて、沖縄のため日本のため、職務に取り組んでおります。

改めまして、沖縄県薬剤師会の会員の皆様におかれましては、日頃より私たちの健康を維持するためのお仕事にご尽力頂き、心より感謝申し上げます。皆様お一人、お一人が私たち県民の健康を支えてくださっています。

お年寄りから小さなお子さんまで、薬を服用したことのない方はおそらくまれでしょう。その薬が開発・製造され、病院や薬局を通じて生活者の手に届くまで、すべての段階において薬学の専門家として薬の安全性に責任を負っているのが薬剤師です。また、薬剤師に求められている社会的役割ははるかに広いものです。

医療法という法律では、薬剤師が医師、歯科医師とともに「医療の担い手」とされています。具体的には、調剤や医薬品の供給、在

宅医療への貢献などを通じて、薬剤師は医療人としての存在感を高めてまいります。

薬剤師には、街の薬局を訪ねれば、いつでも会うことができます。薬学は薬という化学物質を扱うため、かつての薬剤師は「街の化学者」と呼ばれましたが、薬剤師は気軽に相談できる身近な「街の医療人」でもあります。さらには、ホームページにおいても皆様へ「おくすりQ&A」「こどもの誤飲・誤食110番」、さらに「医薬分業Q&A」、「かかりつけ薬局検索」システム等、薬と健康に関する様々な最新の情報を提供して頂いておりますので、私たちにとって薬はより身近なものとなっております。

しかしながら、医薬業界を取り巻く環境には厳しいものがあります。消費税が増税となり、薬価改定の問題も含め、薬剤師の皆様の生活安定のため、政治の役割をしっかりと果たさねばならないと考えております。

私も、現場のご意見や皆様のご要望をしっかりと受け止め、薬剤師会の皆様のご意思に沿うよう全力を尽くして職務にあたる所存です。

今後とも変わらぬ御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、沖縄県薬剤師会の益々のご発展と、亀谷会長はじめとする役員の皆様、そして会員の皆様の一層のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成29年1月吉日



新年のご挨拶

環境大臣政務官
衆議院議員（沖縄3区）
比嘉 奈津美



明けましておめでとうございます。沖縄県薬剤師会の皆様方におかれましては、ご壮健で良き新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より温かいご指導を賜り、厚く御礼を申し上げますとともに、薬の専門家として県民の健康増進のため、ご尽力されておりますことに深く敬意を表します。

我が国においては、団塊の世代がすべて75歳以上になる2025年を前にして、地域において切れ目のない医療・介護サービスを提供できる体制を充実させることが喫緊の課題となっています。そのような中で、薬剤師、薬局が果たす役割への期待は非常に大きなものであります。平成28年度診療報酬改定では、患者の服薬状況を一元的・継続的に把握する「かかりつけ薬局・薬剤師」の機能が評価されることとなりました。また、昨年10月よりかかりつけ薬局・薬剤師の基本的な機能を備えた薬局のうち、健康の維持・増進に関する相談を幅広く受け付け、必要に応じ、かかりつけ医を始め適切な専門職種や関係機関に紹介する「健康サポート薬局」の認定が始まりました。

日本一の長寿県の復活を目指す沖縄県におきましても、こうした取組を進めることを通じて、県民が健康管理・増進について気軽に相談できる機会が増えることを期待しております。

薬の服用に関しては、複数の持病をお持ちの方が、多くの種類の薬を処方され、その薬を一度に服用した結果、副作用を生じてしま

う問題や、医師から処方された薬を患者が飲み忘れたり、自己判断で服用を中止したりして飲み残してしまうような問題を耳にすることが増えています。特に高齢者は身体の各機能が衰え、体調も変わりやすく、薬の効果も人によってまちまちです。こうしたケースを防ぐには、患者それぞれの体調に応じて、薬の種類や用量を慎重に見極める必要があることは言うまでもありません。その中で、薬について誰よりも熟知されている薬剤師の皆様が、地域の医師の方々などと連携し、患者の服薬を管理していただくことは、県民が安心して薬を服用する上で欠かすことのできないものであります。

また、薬の名前や用法等に関する情報を過去のアレルギーや副作用の経験の有無と併せて経時的に記録する「お薬手帳」をより多くの方に知っていただき、広く普及させることも、薬の適正使用を促進することにつながります。近年では、家へ置き忘れることの少ない電子版のお薬手帳も利用されはじめており、日本薬剤師会では運営主体が異なっている、薬局で一元的にその電子お薬手帳の情報を閲覧できる「電子お薬手帳相互閲覧サービス」を提供されていると伺っております。こうした取組も含め今後も「お薬手帳」の利用しやすい環境づくりを推進していく必要があります。

今日、医薬品に関して様々な情報があふれており、正しい情報を患者の皆様が取捨選択することが難しくなっています。薬剤師の皆様におかれましては、これまでも薬が必



要な方からの相談に大変親身になって対応いただいております、心より感謝申し上げます。今後も、県民の皆様が安全に、安心して正しく薬を服用していくことができますよう、薬の専門家である皆様のお力をいただければ幸いに存じます。私といたしましても、医療人の

ひとりとして、皆様とともに健康長寿の沖縄の復活に向けて、一層努めてまいります所存です。

最後になりましたが、沖縄県薬剤師会の益々のご発展、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。





年頭ご挨拶

衆議院国土交通委員長

衆議院議員（沖縄4区） 西銘 恒三郎



平成二十九年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

沖縄県薬剤師会のみな様におかれましては、日頃より暖かいご支援・ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。調剤をはじめ、薬事衛生をつかさどる専門職として、県民の健康の維持・増進のためにご尽力をいただき、衷心より感謝の意を表します。

さて、みな様ご承知のとおり、我が国では少子高齢化が急速に進展しており、医療・介護サービスの需要の増大・多様化が見込まれております。そのため、効率的かつ質の高い医療提供体制や、住み慣れた地域で医療、介護サービス等を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築が急務となっております。この中で、薬剤師のみな様には、医師・歯科医師とともに地域の在宅医療の一翼を担うという最も重要な役割が求められております。

政府は、一昨年10月に「患者のための薬局ビジョン」を策定するなど地域で暮らす患者本位の医薬分業の実現に向けて、「かかりつけ薬局」「かかりつけ薬剤師」の機能強化に取り組んでおります。また、健康寿命を延ばすため、県民自らが健康づくりや病気の発症・重症化予防に取り組むことが重要であり、その一環としてセルフメディケーションを推進しています。そのセルフメディケーションを強力に推進していくためにも、薬局・薬剤師のみな様がもっと住民に寄り添い、「かかりつけ薬局」「かかりつけ薬剤師」として医薬品や健康全般に関する相談に応じるなど、その活躍の場を広げていく取組が必要不可欠であると考えております。沖縄県においてもこうした取組を一層進めて、平均寿命だけでは

なく健康寿命の日本一の県を目指していただきたいと思えます。

平成28年度は診療報酬改定の年でありました。改定率は全体としてはマイナスでしたが、みな様方のご尽力によりまして、診療報酬本体はプラス0.49%、調剤報酬でプラス0.17%を確保することができました。今般の改定では、かかりつけ薬局・薬剤師の機能評価や薬局における対面業務の充実が図られました。

平成30年度は診療報酬・介護報酬の同時改定の年であり、医療・介護施策において大きな節目の年となります。その節目を目前に控えた今年は、国会をはじめ様々な場で薬価制度を含めた大きな議論が想定されます。

私といたしましても、引き続き、国政活動を通じ、みな様が安心してご活躍いただくことのできる環境づくりに励んでまいります。

厚生労働省の統計によると、47都道府県中、人口10万人あたりの薬剤師数が最も少ないのが沖縄県です。現在、沖縄県内には薬学部がなく沖縄出身者が県外の薬学部に進学すると、そのまま県外で就職する傾向にあります。そのような状況下で沖縄県の薬局・病院で働く魅力をいかに伝えて行くかが、大変重要な課題となっています。健康寿命日本一を目指すためにも、沖縄の資源を活用し、創薬研究者の人材育成ができるよう県内に薬学部を設置する必要があると考えますので、実現に向けて全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、沖縄県薬剤師会の益々のご発展と、関係者のみな様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

平成二十九年元旦

会運営にご理解ご協力を賜わりお礼申し上げます
のご健康とご繁栄を心よりお祈り申し上げます

理事

会 長
副 会 長
常務理事

会 営 薬 局
う え は ら
と よ み
会 営 薬 局
医 療 セ ン タ ー 前
薬 事 情 報
セ ン タ ー
式 食 査

法社一
人団般

相談役 新垣正次 我喜屋 宏

神村武之

監事 大城桂子 友利弘一

會長 龜谷浩昌

副会長 江夏京子 前濱朋子

外間惟夫

常務理事 山里 勇 宮城敦子

村田美智子 我喜屋美香

川満直紀

理事 成川賢一 佐藤雅美

姫野耕一 新垣秀幸

下地 仁 幸地 良信

笠原大吾 荒井千春

吉富弓江 吉田洋史

石川恵市

会館薬局
うえはら
仲真良重

会館藥局
島袋陽子

会宮藥局
城間盛光

藥事情報

吉田典子

試驗檢查
小泉宝之
也哉員一同

セントラル・カレッジ・オブ・エデュケーション

沖繩県薬剤師連盟

沖繩県藤井もとゆき薬剤師後援会

會長 龜谷浩昌

幹事長 吉田久子 他幹事一同

平成28年度

薬事功労受賞者



(後列) 左より 村上市子氏、吉田久子氏、渡慶次美保子氏、古波蔵廣美氏、渡嘉敷見氏、神谷朝雄氏、仲座方利氏、松本圭五氏
(前列) 左より 太田節子氏、平尾秀子氏、米村一成氏、神村武之氏、下地 仁氏、松山朝雄氏、川平浩子氏

平成29年1月15日(日) 午後6時より、ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー白鳳において、沖縄県薬業連合会主催の平成28年度薬事功労受賞者合同祝賀会・新年会(以下、祝賀会)が、本会会営薬局うえはらの上里美矢子氏の司会進行のもと開催された。

祝賀会には多数の関係者および招待者が出席され、180余名の盛大な宴となった。薬事功労表彰の栄に浴されたのは、日本薬剤師会賞、厚生労働大臣表彰、文部科学大臣表彰などを受賞された22名の先生方である。

祝賀会の幕開けは、琉球舞踊渡嘉敷流の久手堅絹子氏がかぎやで風を披露された。渡嘉敷流は昔から形を崩さず両手使いの踊りで、その見事な舞踊は会場を華やかな雰囲気にした。一旦、幕が閉じ、壇上には受賞者が着席され、大きな拍手のもと再び幕が上がった。

稲嶺侃沖縄県薬業連合会副会長による開会のことばの後、主催者の亀谷浩昌沖縄県薬業連合会会長が、受賞者のこれまでの労をねぎらうと共に今回の栄誉を祝福。その挨拶の中で、「持続可能な社会保障制度の実現を目指した改革が現在進行中で、その実現のために医療・介護の提供体制や給付・負担の適正化等の改革とともに、地域包括ケアシステムの構築が進められています。薬局の役割の一つに地域住民による主体的な健康の保持増進の

積極的な支援があり、積極的に支援する薬局が健康サポート薬局として医薬品医療機器等法上に位置付けられています。また、薬業連合会全体に関わる事項として、国が推進するセルフメディケーション構想があり、我々は国民への適切な情報提供と薬品の供給を通じてこの構想を推進していきます。同時に、必要な場合は医療機関への早期受診を勧め、重症化を防いでいきます。薬業連合会は国民の自発的な健康管理や疾病予防の取り組みを促進することのみならず、医療費の適正化にも貢献していきたいと思えます。政治・行政並びに関係各位にはこの趣旨をご理解いただき、ご支援をお願いするものであります。」と述べられ、医療・薬業界にとって課題も山積しているが、これらの諸課題は薬業連合会関係各位のご支援、ご協力、そして政治力も必要であり、一丸となって諸事業を積極的に取り組んでいきたいとの内容であった。

司会より受賞者一人一人が紹介された後、翁長雄志沖縄県知事の祝辞が浦崎唯昭沖縄県副知事により代読され、続いて安里哲好沖縄県医師会長からもご挨拶をいただいた。ご臨席いただいている来賓の方々の紹介の後、受賞者が舞台一列に並ばれ花束の贈呈がなされた。会場からのカメラのフラッシュと拍手で一層華やかになった。

合同祝賀会開催

祝賀式典

会期：平成29年1月15日(日) 午後6時～

会場：ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

司会 沖縄県薬剤師会

上里 美矢子

1. 幕開け ～受賞者登壇～
2. 開会のことば 沖縄県薬業連合会副会長 稲嶺 侃
3. 主催者あいさつ 沖縄県薬業連合会会長 亀谷 浩昌
4. 受賞者紹介
5. 来賓あいさつ 沖縄県知事 翁長 雄志
沖縄県医師会会長 安里 哲好
6. 花束贈呈
7. 受賞者代表挨拶 神村 武之
8. 乾 杯 沖縄県歯科医師会会長 比嘉 良喬

懇 談

1. 余 興
2. 閉会のことば 沖縄県薬業連合会理事 長浜 眞球

◆◆◆ 受賞者 ◆◆◆

【日 本 薬 剤 師 会 賞】

神村 武之

【薬事功労者厚生労働大臣表彰】

米村 一成 下地 仁

【学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰】

村田 美智代

【日 本 薬 剤 師 会 有 功 賞】

宜野座 安伸 平尾 秀子

【沖縄県薬事功労者知事表彰】

新垣 秀幸

【厚生労働省医薬・生活衛生局長表彰】

吉田 久子

【那覇市制施行95周年記念特別表彰】

太田 節子 渡嘉敷 見

【沖縄県薬剤師会創立90周年記念特別表彰】

神村 武之 松山 朝雄 山城 志津

【沖 縄 県 薬 剤 師 会 長 表 彰】

神谷 朝雄 仲座 方利 川平 浩子

武富 弘益 方 智子 松本 圭五

【沖 縄 県 学 校 保 健 会 長 表 彰】

宮里 咲子 小波蔵 廣美 渡慶次 美保子

【沖 縄 県 公 衆 衛 生 大 会 長 表 彰】

村上市子

- ◆来賓 ○浦崎 唯昭(副知事) ○比嘉 良喬(歯科医師会会長) ○國場 幸之助(衆議院議員)
○砂川 靖(保健医療部長) ○仲座 明美(看護協会会長) ○比嘉 奈津美(衆議院議員)
○安里 哲好(医師会会長) ○宮城 雅也(小児保健協会会長)

受賞者を代表して、神村武之氏より、「今年度も多くの方が各々の分野で受賞されております。日々の活動と功績が認められ栄えある賞を頂く事が出来ました。これは常日頃より皆様の協力を頂き活動したことが受賞に繋がっております。私の日本薬剤師会賞は個人の努力、力量で貰えるような賞ではありません。先輩方々からご指導を得て皆様と共に、薬剤師の為、薬剤師会の為に活動してきた証であり、私が代表して頂いた賞でありまして、感謝の気持ちで一杯です。今後も続けて後輩薬剤師が受賞されますよう微力ではありますが協力させていただきます。」と、謝辞と共に今後の抱負も語られた。

沖縄県歯科医師会会長の比嘉良喬氏の乾杯のご発声にて祝宴に入った。盛り上がる歓談のひとつ、お祝いに駆けつけた方々が受賞者と握手を交わす姿や写真撮影を行なう姿も多く見られ、会場は和やかな雰囲気包まれ

た。会場には受賞者の賞状と記念品が展示され、大勢の方が鑑賞された。

会も半ば、司会より多数の祝電が入っていることが告げられ、続けてご臨席いただいている比嘉奈津美衆議院議員から挨拶を賜った。賑わいをみせる中、余興に入った。那覇市内で活動しているフラサークル「ホヌ」が、新春の宴を華やかに彩る爽やかなラベンダー色の衣装を纏い、ハワイの伝統曲「Na Ka Pueo」「Ka Uluwehi O Ke Kai」と、ハワイを代表するシンガーがBEGINの「涙そうそう」に心動かされて作った「Ka Nohona Pili Kai」の美しいメロディに乗せて歌唱、華麗なダンスで参加者を魅了した。再び受賞者が登壇し、記念撮影が行われ、会場から一斉にフラッシュが焚かれた。

和やかな歓談の一時も過ぎ、沖縄県薬業連合会理事の長濱眞球氏の挨拶で幕となった。

(文：沖縄県薬剤師会事務局 大城 喜仁)

祝賀会

受賞者プロフィール

〔日本薬剤師会賞〕

かみ むら たけ し
神 村 武 之

沖縄県薬剤師会理事10年、副会長6年、会長10年の26年に亘りその要職を歴任し、本会会務の運営、及び沖縄県における薬事・薬業の発展に尽力した。豊富な経験と卓越した識見で医薬分業を推進し、院外処方せん発行側と応需側の体制を整備させ、全国でも上位の分業率を達成させた。また、独自の組織対策、事業を次々に企画、組織の結束を固め、薬剤師の資質及び職能の向上に大きく寄与した功績は誠に顕著である。会員の願いであった薬剤師会新会館を建設し、同会館に県内初の休日・夜間調剤センターを開設した。

〔薬事功労者厚生労働大臣表彰〕

よね むら いっ せい
米 村 一 成

昭和59年9月、薬種商認定試験に合格して以後、現在まで35年4ヶ月の間、沖縄市泡瀬地区に置いて薬種商販売業（平成21年より薬事法改正で医薬品登録販売者）を営み地域住民の健康保持、増進に貢献する一方、薬種商協会においては、氏の信望と積極的な活動が認められ、平成元年4月より理事に就任、平成9年4月より庶務理事に就任、以来薬種商協会会員相互の意思の疎通、社会的地位の向上を図るべく、組織強化への呼びかけ、会員の指導、資質向上に努め、薬種商協会の基盤づくりに果たした功績は、大いなるものがある。更に、社会福祉にも関心が高く、『薬と健康の週間』行事の一環として平成21年まで行われた福祉施設への医薬品寄贈についても情報の収集、品目の選定に努めた。平成14年10月には薬種商協会団体賞として県知事表彰を受賞した。また、薬種商協会理事、副会長として19年、薬種商協会の発展に多大なる貢献をした。

しも じ ひとし
下 地 仁

昭和56年、宮古島にシモジ薬局開局。地域住民への医薬品供給、健康情報の提供に努める。平成8年より宮古地区薬剤師会役員として、会運営の舵取りを担う。

平成11年の宮古地区医薬分業開始と同時に、医薬分業へのスムーズな移行を行い、地域医療の質の向上に貢献した。また、地区薬剤師会の運営実行委員として県、市への要望、医薬品情報の収集、県立病院との折衝、地域住民への啓蒙活動など、宮古地区の医薬分業開始そして、その後の推進に大きく貢献した。

平成25年の県立宮古病院の新築移転に向けて、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会の新たな連携作りにも尽力した。

受賞者プロフィール

〔学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰〕

むら た みちよ
村 田 美智代

昭和56年より学校薬剤師に委嘱され、以来複数校を担当し、本島のみならず交通の不便な古宇利島等の離島で学校薬剤師として献身的に活動を行ってきた。又、学校環境衛生検査等の実施を通して、学校長及び養護教諭との連携を密にして専門的な立場から指導助言を行い、学校保健活動を通して学校環境衛生の改善、健康教育等の充実に貢献した。現在も沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会北部地区支部長として活動され、支部での組織の強化、伝達講習などを通し会員の資質の向上に努めている。

〔日本薬剤師会有功賞〕

ぎ の ざ あん しん
宜野座 安 伸

長年、沖縄県薬剤師会理事、専務理事として会のために多大な貢献をした。那覇市内にて薬局を開設し、地域の健康相談薬局として健康面のみならず生活全般の相談もあずかり、近隣住民の信望も厚く、地域医療に大きく貢献した。

ひら お ひで こ
平 尾 秀 子

長年、那覇市内にて薬局を開設し、医薬品の安全な使用のための情報提供を行い、健康相談薬局として地域住民の健康増進に尽力した。

〔厚生労働省医薬・生活衛生局長表彰〕

よし だ ひさ こ
吉 田 久 子

23年間にわたり、沖縄県覚せい剤等薬物乱用防止推進員（現沖縄県薬物乱用防止指導員）として、地域における薬物乱用防止普及啓発活動や学校等における講演の講師を務める等、熱心に本活動に取り組んでいる。また沖縄県の実施する「ダメ。ゼッタイ。」普及運動ヤング街頭キャンペーン、麻薬・覚醒剤乱用防止運動街頭キャンペーンなど各種運動、月間の取り組みにも積極的に参加し、麻薬行政の推進に貢献した。11年間にわたり、沖縄県麻薬中毒者等相談員として麻薬中毒者及び向精神薬乱用者に対する指導等に尽力した。12年間にわたり、沖縄県薬物乱用防止協会役員を努め、組織強化や薬物乱用防止指導員に対する指導等に尽力した。

受賞者プロフィール

〔沖縄県薬事功労者知事表彰〕

あら かき ひで ゆき
新 垣 秀 幸

平成11年より糸満市にて薬局の管理薬剤師として勤務し、かかりつけ薬局として医薬品の安定供給と地域住民の保健福祉、公衆衛生に尽力するとともに、医薬品の安全な使用の為に正しい情報提供を行っている。平成15年より南部地区薬剤師会会長として、組織の強化と会員の資質向上に貢献した。平成17年に沖縄県薬剤師会理事として両組織の発展にも大きく貢献した。長年にわたり学校薬剤師として活動し、県立向陽高等学校、市立糸満小学校、糸満幼稚園を担当し、学校環境衛生の向上、児童生徒の健康増進に貢献した。

〔那覇市制施行95周年記念特別表彰〕

おお た せつ こ
太 田 節 子

学校薬剤師を昭和49年より務め、学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言、情報提供を行い、学校保健の向上に貢献した。

と か し き けん
渡 嘉 敷 見

学校薬剤師を昭和58年より務める。また、沖縄県学校薬剤師会会長を務め、学校環境衛生の改善に尽力し、学校保健の向上に貢献した。

〔沖縄県薬剤師会創立90周年記念特別表彰〕

かみ むら たけ し
神 村 武 之

長年、沖縄県薬剤師会の役員を歴任し、特に会長職を5期10年と歴代会長としては最も長く務め、会員の資質向上並びに会の発展に多大なる貢献をした。

まつ やま あさ お
松 山 朝 雄

長年、沖縄県薬剤師会副会長ならびに沖縄県病院薬剤師会副会長を務め、組織の発展・強化、会員の資質向上に多大な貢献をした。

やま しろ し づ
山 城 志 津

長年、沖縄県薬剤師会の事務局長として会員の資質向上並びに会の発展に多大なる貢献をした。

受賞者プロフィール

〔沖縄県薬剤師会長表彰〕

かみ や あさ お
神 谷 朝 雄

長年、沖縄県薬剤師会理事として財務を担当し、会の健全な運営を果たした功績は大である。また、日本医薬品卸勤務薬剤師会では11年の長きに渡り、沖縄県支部長の職務に尽力した。

なか ざ まさ とし
仲 座 方 利

中部地区薬剤師会副会長として地区会長を補佐し、組織の強化及び、地区会員の育成に尽力した。地区の医薬分業対策委員長として県立病院、広域病院との連携に力を入れ、中部地区医薬分業の推進に貢献した。また、沖縄県薬剤師会代議員として貢献した。

かわ ひら ひろ こ
川 平 浩 子

平成21年から、日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師として尽力した。平成22年から、認定実務実習指導認定薬剤師、平成25年から、沖縄県病院薬剤師会感染症分科会世話人として尽力した。

たけ とみ ひろ えき
武 富 弘 益

平成11年～18年の間に那覇地区薬剤師会理事を3期、監事を2期務め、会の発展と事業の円滑な運営に貢献した。平成17年から3期にわたり小禄支部の副支部長も務め、支部の活性化に尽力した。

ほう さと こ
方 智 子

宮古地区学校薬剤師として学習環境の改善に努め、また麻薬覚せい剤に関する講演を行うなど薬害教育に取り組み、専門的な立場から積極的に助言し学校環境、くすり教育の向上に寄与した。介護認定審査会委員として、高齢化の進む地域の介護問題に取り組んでいる。地区薬剤師会の役員として組織の活動や運営に貢献した。

まつ もと けい ご
松 本 圭 五

長年、南部地区薬剤師会の役員として中心的な役割を担っている。また、沖縄県薬剤師会においては、地域保健開局委員会の委員として、今年度より開始された健康サポート研修会の講師として尽力した。

受賞者プロフィール

〔沖縄県学校保健会長表彰〕

みや ざと てる こ
宮 里 眺 子

平成13年4月に陽明高等学校、平成15年10月に松川幼稚園、同小学校の学校薬剤師として委嘱され、現在も担当している。学校薬剤師として、専門的な立場から学校環境衛生検査を通して学校長及び養護教諭との連携を密にし、学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言、資料提供を行い、学校保健活動の向上に貢献した。又、学校保健委員会を通して学校環境衛生の重要性を説き、特に日常検査が大切であることを指導助言し、学校保健の発展に寄与した。

こ は ぐら ひろ み
小波蔵 廣 美

昭和56年、宜野湾市立大山幼稚園、同小学校の学校薬剤師として委嘱され、以来、大平高等学校（現：陽明高等学校）、普天間高等学校、宜野湾高等学校、そして現在は普天間高等学校を担当している。学校薬剤師としての専門的な立場から学校環境衛生検査を通して学校長及び養護教諭との連携を密にし、学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言、資料提供等を行い、学校保健活動の向上に貢献した。又、学校保健委員会を通して学校環境衛生の重要性を説き、特に日常検査が大切であることを指導助言し、学校保健の発展に寄与した。

と け し み ほ こ
渡慶次 美保子

昭和56年に嘉数幼稚園、同小学校の学校薬剤師として委嘱され、以来、宜野湾幼稚園、同小学校、普天間幼稚園、同小学校と歴任し、現在は普天間幼稚園、同小学校を担当している。学校薬剤師としての専門的な立場から学校環境衛生検査を通して学校長及び養護教諭との連携を密にし、学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言、資料提供を行い学校保健活動の向上に貢献した。又、学校保健委員会を通して学校環境衛生の重要性を説き、特に日常検査が大切であることを指導助言し、学校保健の発展に寄与した。

〔沖縄県公衆衛生大会長表彰〕

むら かみ いち こ
村 上 市 子

平成15年4月に国頭村立楚洲小学校、安田小学校、安波小学校の学校薬剤師として委嘱され、以来、複数の学校から学校薬剤師に委嘱され、積極的に学校薬剤師活動に尽力した。学校薬剤師としての専門的立場から学校環境衛生検査を通して、学校長及び養護教諭と連携し関係職員に指導助言を行った。学校保健委員会を通して、学校環境衛生、特に日常点検の重要性を説き又、薬物乱用防止教育活動にも積極的に関わり、公衆衛生的見地から指導助言を行い、学校保健の発展に寄与した。

祝賀会スナッフ写真



幕開けは、琉球舞踊渡嘉敷流の久手堅絹子氏がかざりで風を披露



開会のことば
稲嶺 侃氏



主催者あいさつ
亀谷 浩昌会長



来賓あいさつ
浦崎 唯昭氏



来賓あいさつ
安里 哲好氏



花束贈呈のあと、受賞者代表謝辞をする 神村 武之氏



比嘉良喬氏のユーモアな音頭で乾杯



祝賀会スナッフ写真



司会
上里 美矢子氏



受賞者席



来賓席



那覇地区関係者



中部地区関係者



宮古地区関係者

祝賀会スナッフ写真



南部地区関係者



学校薬剤師部会関係者



病院薬剤師部会関係者



医薬品卸業協会関係者



医薬品登録販売者協会関係者



歓談の半ば、来賓の比嘉奈津美氏からも挨拶を頂いた



余興では、フラサークル「ホヌ」がハワイの美しいメロディに乗せて華麗なダンスで魅了した



閉会のことはば
長浜 眞球氏

学術研修

ジェネリック医薬品の適正使用および評価に関する研修会報告

日時：平成28年11月27日（日） 13:00 ～ 14:30

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

<式次第>

○あいさつ

司会進行：学術研修委員会 委員長 外間 惟夫

沖縄県薬剤師会 会長 亀谷 浩昌

○『後発品の評価方法－適正使用及び評価について－』

千葉県勤労者医療協会 船橋二和病院 薬剤科

日本薬剤師会 編集委員会 医薬品情報評価検討会 委員長 中村 建 先生

去る11月27日（日）に、学術研修委員会主催のジェネリック医薬品に関する研修会「後発品の評価方法－適正使用及び評価について－」が開催されました。講師は医療安全講習会で好評だった船橋二和病院の中村建先生で、ジェネリック医薬品をどう評価して使用していくのかの基本的な考え方を分かり易くお話しされました。

まず、ジェネリック医薬品の基本的概念の説明がありました。先発品の特許取得から通常20年は先発企業の知的財産が守られていますが、市販後調査が終わり、成分特許が切れた後は、その成分に関する有効性・安全性の情報は先発企業の知的財産ではなくなり、公共の財産となってジェネリック医薬品が製造され、その十分に揃った財産を元に医薬品主成分の有効性・安全性を担保しているということ、また最近ではジェネリック医薬品も製



学術研修委員会
宮城 幸枝

造特許を申請することもあり、製剤として改良されて発売されることもあるようです。

新規化合物を含有する医薬品は、患者を対象とした有効性・安全性に関するデータが必要ですが、既承認化合物を含有する医薬品では、患者を対象としたデータを取り直す必要はなく、既承認の医薬品と有効性・安全性が同等であることを示すデータが必要となります。その臨床上的同等性の証明となるのは生物学的同等性試験です。これは、既承認医薬品ではすでに薬物血中濃度と臨床上的総合的な作用・効果の関係は確立しているので、血中濃度が重なっていることが確認できれば、理論的には臨床上的総合的な作用・効果は同じであるはずということから、それを実証する試験となっているようです。

添加物については、先発メーカー及び各後発メーカーすべてではなく、添加物の添付文書への記載についても29成分以外は記載除外できるため、添付文書では比較できない場合があります。

ジェネリック医薬品は、①安全性試験、②溶出試験、③生物学的同等性試験、④製造基



司会進行
外間 惟夫
学術研修委員会委員長



あいさつ
亀谷 浩昌
会長

準（GMPなど）承認基準は、世界的に見ても非常に厳しい水準にあり、すべて同じであることが求められ、基準を満たしていないものは許可にはなりません。生物学的同等性の新しいガイドラインができてからのジェネリック医薬品の品質は高く、ここ27年間では、金の混入によるネオヨジंगाーグルの回収以外は、致命的なことは一度も無いとのこと。

フロアから、精神科の薬や抗がん剤など、患者さんの中には先発品へのこだわりがある

方への対応はとの問いに対して、良いからと患者さんにごり押しするのではなく、きちんと説明をして納得していただいた上で使用をしていくという対応を先生自身はなされているということでした。

薬は社会的な商品であり、高いから良いわけではなく、患者さんにとって安くて良い薬をジェネリック医薬品を含めて考えてみることに、ジェネリック医薬品をどう評価するのかを学ぶ良い機会となりました。



講師 中村 建 先生



「後発品の評価方法 ー適正使用及び評価についてー」

会 報 原 稿 募 集 の ご 案 内

広 報 委 員 会

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいませようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します（薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です）。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております（手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します）。



☆原稿送付先（会報に関する問い合わせ）

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

啓発・普及活動

沖縄テレビ放送公開収録シンポジウムに我喜屋常務理事が出演！

日時：平成28年12月11日（日） 14:30 ～ 16:15 会場：沖縄県立博物館・美術館 講堂
主催：沖縄テレビ放送 協賛：日本製薬工業協会 後援：沖縄県医師会、沖縄県薬剤師会



「ぬちぐすい命薬なお話し～聞いて安心お薬について～」と題して、会場の一般参加者と、健康と密接な繋がりのある薬について、正しい知識や使い方、地域医療、画期的な新薬がどのようなプロセスで創られて医療に貢献しているかなどについて、VTRを観ながら学んでいくという公開収録が、上記の日程で開催されました。

進行は、地元タレントの崎山一葉氏と沖縄テレビアナウンサーの古川貴裕氏。ゲストは、地元演出家・お笑いタレントのひーぷーこと真栄平仁氏と地元ポップミュージックグループMAXのNANA氏。パネリストに、日本製薬工業協会（以下、製薬協）広報委員会委員長の加藤琢磨氏、琉球大学大学院医学研究科教授の益崎裕章氏、そして本会から我喜屋美香常務理事が出演しました。

最初に、薬は医療用医薬品と一般用医薬品に大きく分類され、医療用医薬品には、新薬とジェネリック医薬品があることが製薬協の加藤氏から説明がなされ、「薬と健康」についてゲストのエピソードを交えての会話で始まりました。沖縄の食文化の特徴、長寿県沖縄という神話は崩壊してしまっている現状、沖縄ではメタボリックシンドローム予備軍の割合が全国最高水準となっていることが益崎医師より説明がありました。さらに益崎医師

は、メタボリックシンドロームの診断基準を舞台スクリーンのデータで説明、メタボリックシンドロームを引き起こすのが生活習慣病であり、その中でも糖尿病は重い病気の一つで、かかり始めが分かりにくく命に関わる合併症を引き起こすことがあるとも述べられました。糖尿病ではどんな治療が行われているのか、またどんな新薬が登場したのか、VTRで放映されました。参加者が、新薬の登場によって治療の選択肢が広がったことを学んだところで、我喜屋常務理事が薬は正しく使ってこそ安全に本来の効果を発揮することができると説明しました。糖尿病の三大合併症と言われる網膜症、腎症、神経障害についても、これまで多くの製薬企業が新薬の開発に取り組んできたが今後も革新的な新薬の登場が待たれる疾患であることが益崎医師より追加で説明がありました。

次に、僻地・離島・地域医療について、伊良部島の診療所の話題がVTRで紹介されました。伊良部島では小さな診療所が住民の健康を守る取り組みをしており、離島診療で大切な事、訪問医療の様子、薬剤師の役割、離島医療での薬の大切さを伝える内容でした。地域医療においてもやはり薬剤師が大切な存在であることが分かる内容となっていました。

ここで我喜屋常務理事から、地域医療を支える薬剤師の重要性について、「かかりつけ薬剤師」「健康サポート薬局」などの参加者には普段聞き慣れない言葉を分かり易く説明しながら、薬剤師職能のPRも兼ねて話されました。

続いて、創薬・産学連携について、薬を創るうえで注目されているのが産学連携で、民間企業と大学が共同で研究や製品開発等の事業を行うことであることの説明がなされました。この連携が薬の開発にも広がっていることが益崎医師より述べられ、琉球大学医学部では産学連携に力を入れ新薬の開発に取り組んでいる内容のVTRが放映されました。今までどのような薬を開発したか、産学連携の重要性、そのメリットなど、分かり易く解説された内容となっていました。新薬ができるまでの道のりは、大変長い時間と多額の費用を要する。基礎研究を通じて薬の種となる化合物を発見し、有効性や安全性をヒト以外で確認する非臨床試験が行われ、その後、実際に患者に投与して適切な投与量・投与方法とともに、有効性や安全性を確認する治験と呼ばれる臨床試験が行われる。それを経て、そこで得られた膨大なデータをもとに、最終的には厚生労働省から販売するための許可を得る必要がある。新薬として患者に届けるまでには実に9年から16年もの長い年月がかかっているという過程を、本来長くて難しく思える説明ですが、益崎医師の優しく丁寧な説明は参加者にも十分に理解されていると伝わってきました。ゲストお二人からは何度も益崎医師の優しい人柄について述べられ、参加者は

和んでいる様子でした。

ここで一息、我喜屋常務理事が参加者と薬についてのQ&Aを行いました。薬の正しい保管方法や飲み方、お薬手帳の役割、サプリメントの情報をお薬手帳に入れたほうが良いかなど、フレンドリーな問いかけと回答で参加者を引きつけていました。ゲストお二人からは既に「ガッキー」の愛称で呼ばれ、我喜屋常務理事の魅力が存分に伝わる楽しいコーナーとなりました。

最後に、新薬を開発するために必要不可欠な治験について、厚生労働省から薬として承認を受けるために行う臨床試験であることの説明がなされ、琉球大学医学部附属病院における治験の流れ、治験コーディネーターの役割、治験参加者にインタビューした内容のVTRが放映されました。新薬の開発の裏に患者の治験への参加や協力があること、新薬を待っている患者のために治験は必要など、益崎医師から治験が新薬開発に不可欠のプロセスであることが述べられました。

このように、長くて難しくなりがちな内容のシンポジウムも、益崎医師のデータを駆使した分かり易い説明と、テーマごとのVTRの活用、お馴染みのタレントやアナウンサーを起用することで、楽しく学べるものとなっていました。

公開収録されたこのシンポジウムは、平成29年1月22日(日)の午後4時から沖縄テレビで放送されます。我喜屋常務理事のフレンドリー且つプロフェッショナルなトークに注目です。
(報告：事務局 大城 喜仁)



パネリスト

左より、益崎裕章氏、我喜屋美香氏、加藤琢磨氏



左より、崎山一葉氏、古川貴裕氏、真栄平仁氏、NANA氏、益崎裕章氏、我喜屋美香氏、加藤琢磨氏

啓発・普及活動

第3回グッジョブ☆にしはら わくわくワーク参加報告

日時：平成28年11月20日(日) 10:00～15:00

会場：西原町町民交流センター

去る11月20日に「第3回グッジョブ☆にしはら わくわくワーク」が開催され、薬剤師会の一員として参加させていただいたのでここに報告したいと思います。

本取り組みは、西原町の企業や産業団体、教育機関、行政、PTA等地域の大人たちが連携し、地域子ども達に「夢」と「希望」を与え、「職業観」や「チャレンジ精神」を育むための「場」づくり「気運」づくりを目的に開催されています。当日の会場では、「お仕事・物づくり体験」など23もの体験ブースが用意され、様々な職業・職種の方が参加して行われました。地域の小学生を中心に450名の小学生・保護者をご来場されたようです。

薬剤師会としては昨年に続き2回目となる参加でしたが、今回も昨年同様に、参加小学生に白衣を着てもらい、薬剤師の業務・簡単な実験を体験してもらいました。午前中は体験者がとても多く、各ブースとも混乱していましたが、しばらくすると実験手順・説明にも慣れてきてスムーズな運営ができました。



こくら虹薬局
金城 春樹

低学年の子には少し難しい説明もあったようで首をかしげながら実験や説明を聞いている子もいました。高学年になると「ちゃんと毎日薬飲んでます!!」「今日も朝、忘れずに飲んでできました!!」と自慢げに話す子もいて、服用中のお薬の説明になる場面もあり、時間内で説明ができないこともありました。また、参加した子ども達から思いがけない質問もあり、答えに困っている先生方もいたようです。

当日は、午前10時に開始して1コマ1時間として午後3時まで行いました。5コマで小学生低学年～高学年、約50名の参加がありました。体験の順序として、2名ずつ4つのグループに分かれてもらい、1グループに薬剤師の先生が付き、それぞれ説明を行いながら4つのブースを体験してもらいました。

体験コーナーは次の通りです。



薬剤師になろう講座 啓発活動員

左より、ボランティア高校生2人、上里美矢子氏、浜元善仁氏、儀間祐希氏、金城春樹氏、宮里威一郎氏、神山侑子氏、石川有美子氏、座覇里奈氏、宮城勇己氏

①液剤の配合変化、カプセル

鉄剤と緑茶を混ぜ、色が黒く変わるのも見て驚いていました。カプセルが少量の水では指にくっつくことを体験しました。何度もカプセルを指に当てて確認していました。2つの実験を通して、薬は一定量の水で飲むことが大切だと学んでいました。

②粉薬の混合

2種の薬（フレーバー）を実際に計って、混合してもらいました。ちゃんと混ざっているか確認しながら乳鉢、乳棒使い一生懸命に混合していました。手作業で薬包紙に粉薬を包む作業は難しかったようで、薬剤師の説明を真剣に聞いていました。

③1包化調剤

模擬処方箋とカラーコーティングのミルクチョコレートを用いて一包化調剤を体験してもらいました。色の異なるチョコレートを朝・昼・夕と分けて分包してもらいました。調剤後には分包紙に用法記載、薬袋に患者氏名、調剤年月日を記載してもらい実践さながらの調剤業務をしてもらいました。

④薬の種類・吸入薬、薬剤師のお仕事

薬の剤形についての説明、各種吸入薬（デモ器）を体験してもらいました。また、薬剤師の仕事をクイズ形式で説明しました。学校薬剤師や保健所、警察署（麻薬捜査官）の仕事については初めて知ったようで、とても驚いていました。



今回の活動を通して、子ども達が持つ「薬」の認識・イメージについて学ぶとても良い機会になりました。また、「将来薬剤師になりたいです。中学生になったら何を頑張ればいいですか？」と質問にくる小学生もいました。薬剤師の仕事が認知され、子ども達の将来の「夢」になることに誇らしい気持ちになった反面、薬剤師の日々の業務・活動が注目されていることを改めて実感しました。

今回の活動で得た事を日常の業務に生かすとともに、薬の専門家として地域の方々・患者さんの健康に貢献できるよう、これからも頑張っていきたいです。

❖ “薬剤師になろう講座” 啓発活動員（順不同・敬称略）

- | | | | | |
|---------|---------|--------|---------|--------|
| ○石川 有美子 | ○神山 侑子 | ○儀間 祐希 | ○上里 美矢子 | ○宮城 勇己 |
| ○金城 春樹 | ○宮里 威一郎 | ○座覇 里奈 | ○浜元 善仁 | |

※地元テレビ局からの取材を受けニュースで取り上げられました。本会フェイスブックから閲覧できます！

啓発・普及活動

南風原町立南星中学校における 学習支援事業「職業人講話」実施報告

日時：平成28年11月4日(金) 14:25～16:15

会場：南風原町立南星中学校 2学年教室

対象：南風原町立南星中学校 2年生 5クラス



南風原町教育委員会 学校支援地域本部
地域コーディネーター 金城 尚子

私たちの町南風原町では「未来を担う南風原町の子ども達を地域で育てましょう」を合い言葉に、学校が必要とする活動について地域の方々にボランティアとして協力していただく、学校支援地域本部事業「学校応援隊・はえばる」を実施しております。

今回、南風原町立南星中学校2学年主任教諭より職場体験を前にいろいろな職業に就いている方々の生の声を聞かせたいと「職業人講話」講師紹介の依頼がありました。実際にその職業に就いている方々の生の声を聞かせる事により、将来の職業への夢や希望を持たせる事をねらいとしています。また、生徒達はそれぞれの職業に就くための進路の選択（高校・大学・専門学校）や勉強方法、仕事内容等を知り、職業に必要な適正や資質を知る事で将来の職業選択に役立てる機会としています。

アンケートの中から選ばれた10種の職業はスポーツ店経営、スポーツトレーナー、教師、パティシエ、保育士、ホテルマン、看護師、警察官、消防士、薬剤師でした。そこで薬剤師は、地域にある沖縄県薬剤師会への協力依頼をお願い致しました。お忙しい中、快くお引き受け下さり講師の方を紹介していただきありがとうございました。

講話は、各教室で2業種2名の方がお話して下さいました。薬剤師の新垣紀子さんのお話は、自身の体験談を交えながら薬の飲み方の実験を行いながら進めていきました。薬を水とお茶につけて変化を観察する実験は、多くの

生徒や先生が興味を持って見ていました。「薬を飲む時は水が良いという詳しい理由が分かったので、これからは絶対水で飲もうと思いました。」と飲み方を反省している生徒も多くいたようです。生徒にどのように説明したら分かり易いかと紙面にして薬剤師の仕事内容について説明したり、紙面での○×選択のクイズ方式で進めたりと工夫して頂き、よりイメージし易かったように感じました。

生徒の感想の中に「病院や薬局だけではなく、学校や保健所、県庁などにも薬剤師がいる事に驚きました。」の声が多くありました。また、薬剤師を目指す生徒からは「将来、薬剤師になる勉強をしたいので大学に行きたいです。」「薬を作って病気の人を助けるやりがいのある仕事だと思います。」「自分の将来について少し知る事が出来たのでとてもワクワクします。」と自分の目指す職業についてイメージする事が出来たようです。



薬剤師職の紹介をした 新垣 紀子氏

職業が多種多様化し、目にする事がほとんどない職種や、例え目にしていても実際の仕事と生徒が持っているイメージが違ったりしていることがあるので、実際にその職業に就いて頑張っている方々から直接お話を聞くことでイメージし易くなり、職業選択の幅が広がる事と思います。近年、核家族化が進み、地域の方々との交流も減り、身近に「かっこいい」とあこがれを抱く仕事をしている大人

を目にする機会がほとんど無くなってきているように感じます。そのため、このような機会を設ける事は大切だと感じています。未来を担う生徒達のためにも、地域で活躍している方々のご協力を頂き、生徒がいろいろな職業について知識を知り、その中から自分に合った仕事を見つけ、近い将来、地域で皆さんの後輩となり、皆さんと共に「かっこよく」輝いてくれる事を願っています。

月例相談会

第138回健康とおくすり相談会報告 ～浦添市健康フェスタ～

日 時：平成28年11月19日(土) 12:00 ～ 14:00
場 所：浦添市保健相談センター
担 当：那覇地区薬剤師会
相談者数：45名



写真提供：那覇地区薬剤師会

健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○川満 直紀 ○吉田 洋史 ○伊波 重宏 ○中村 正恒 ○立岡 博之
○上地みづき ○柴崎 義博

月例相談会

第139回健康とおくすり相談会報告

日時：平成28年11月20日(日) 10:00～16:00

場所：うるま市健康福祉センター うるみん

担当：中部地区薬剤師会



すこやか薬局 具志川店
我那覇 ももこ

夏の健康相談会に参加することが出来なかったのも、今回うるま市主催の健康フェア inうるみに参加しようと決めていました。事前学習にも参加しましたが、機器の説明にばかり気をとられてしまい、当日の流れや分担などがはっきり分からないまま参加の日を迎えることになってしまいました。

当日は、HbA1c測定、体成分組成、骨密度、血管硬化度、血圧計を設置していました。どのブースも測定者と相談するのではなく、測定結果を渡し、お薬相談コーナーで測定者とは別の薬剤師に相談する流れになっていたもので、次から次へと来場された方の測定を行っていききました。

午前中は、HbA1c測定のブースを担当させてもらいました。私は機器を扱う側です。他の先生方がお客さんへ説明、本人に自己穿刺してもらい試薬へ採血し、私の手元に試薬が回ってきます。機器の操作に少し不安もありましたが、結果の取り違えをしないように、それだけに気をつけて試薬を扱いました。何件か操作し測定していくうちに、不安もなくなり落ち着いて操作できましたが、慣れてきた頃に担当交代になりました。私が説明し、採血する側になりました。説明の仕方も教わりましたし、今まで目の前で先生方の流れも見ていましたが、やはり緊張しました。1人目が無事に採血できただけで達成感がありました。とても人気もあり、予定していた試

薬数をお昼過ぎには達成することができました。そのため、午後からは別のブースで教わりながら測定担当を交代していききました。実際に来場者に触れ、脈をとる血管硬化度測定が一番練習する必要があると感じました。中には、脈が弱くうまく測定場所を探せない方も居たのですが、そこでベテランの先生に交代、すぐ測れることもあれば、どうしても弱くて申し訳ないが測れない！と説得してくれたり、とても頼りになりました。

終了時間になってもまだ列があり、少ばかり延長、終わったブースでは各自次々に片付けを進めていき、イベントはどうにか終了することができました。

健康フェアに参加してみて、自分の勤める職場以外の地域の先輩薬剤師と関わったことも貴重でしたし、処方せんが無くても薬剤師にお薬相談したいと思っている方がこんなにもたくさんいることにも正直驚きました。中でも印象に残っているのは、私が見たどの来場者のHbA1c測定結果も正常範囲内だったということです。皆さん、健康に興味があつて来場しているので、ある程度生活習慣には気をつけている方ばかりでした。実際に受診勧奨になるような健康への興味薄い人にも、この活動に興味をもってもらうことが、今後の課題だと感じました。

■健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

- | | | |
|----------|--------|--------|
| ○江夏 京子 | ○蒔 初子 | ○仲座 方利 |
| ○普久原 隆 | ○高良 武志 | ○伊礼 要一 |
| ○池間 正晶 | ○山内 崇良 | ○高木 英子 |
| ○仲宗根 春美 | ○森田 勇 | ○西村 浩彦 |
| ○我那覇 ももこ | ○宮城 沙弥 | ○伊佐 常隆 |
| ○玉城 武範 | ○中塚 泰子 | ○豊世 由紀 |
| ○諸見里 めぐみ | ○福地 健治 | ○前濱 渚 |
| ○平良 奈緒子 | | |



写真提供：中部地区薬剤師会

月例相談会

第140回健康とおくすり相談会報告 離島フェアで出展

日時：平成28年11月26日(土) 13:00～17:00、27日(日) 10:00～17:00

場所：沖縄セルラースタジアム那覇 前

担当：地域保健開局委員会、那覇地区薬剤師会

今年で28回目を迎える離島フェアは、18の離島市町村が自然の文化から生まれた特産品の展示即売会や離島食堂、カフェ、伝統芸能公演などの楽しいイベントが盛り沢山で、毎年この行事を楽しみにしている方がたくさんいると聞いています。このフェアに今年初めて、健康とおくすり相談会をしてもらえないかと県からのお誘いで参加することになりました。

外のテントの中での測定だったため、骨密度測定機と体成分分析機の2つにしぼりました。当日は最終日だったのですが、あいにくの雨で、風も強く、人を呼び込むための工夫をこらしながらの設置でしたが、10時前から幅広い年齢層のご夫婦や友達同士のグループ、ご家族など多くの方が立ち寄ってくれました。

鈴木一徳先生が受付をしてくださり、中尾滋久先生が体成分分析測定を、私と事務局の長嶺勇作さんで骨密度測定をひたすらこなし、笠原大吾先生は測定結果をもとに説明と相談をされました。午後からは平良恭子先生

地域保健開局委員会
草壁 瑞恵



も加わり、測定後の結果指導をして頂きました。テントの中はずっと賑やかで、ほのぼのとした雰囲気でした。

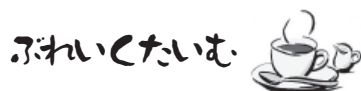
今回は年齢層の幅が広く、薬も服用していない健康な方が多かったことが特徴だったような気がします。疑問に思ったことは、那覇マラソンなどに参加しているようなアスリートの方が案外、骨密度が低いことでした。体型は細く筋肉体質なのですが、食事に少し問題があるのかもしれません。私達薬剤師は、普段は病気の患者さんを指導していますが、健康を維持していくための指導をもっと勉強して沖縄県民の健康の手助けをしていく必要を感じました。

ブースの片づけが終わった後、私ごとですが、石垣牛と宮古牛とマンゴーのドライフルーツを買って満足して帰りました。来年も是非、参加したいと思います。



健康とおくすり相談員 (順不同・敬称略)

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| ○笠原 大吾 | ○村田美智子 | ○渡具知一枝 | ○松本 圭五 | ○中尾 滋久 |
| ○草壁 瑞恵 | ○平良 恭子 | ○鈴木 一徳 | | |



宜保 匠さん & 島袋 陽子さん ご結婚おめでとう！

会営薬局とよみ
白 まゆみ



透き透った空に太陽の日差しが美しい聖なるクリスマス12月25日に、新郎宜保匠さんと新婦島袋陽子さんの結婚式・披露宴がザ・ナハテラスで行われました。

私は2年半ほど前から会営薬局とよみで勤務することとなり、そこで新婦の陽子さんと出会いお仕事を一緒にすることになりました。陽子さんは本当に真面目で優しく責任感の強い女性です。現在もそうですが、とても忙しい業務環境の中で会営薬局とよみの管理薬剤師として責任感をもって真面目に業務をこなす陽子さんの働く姿は「すばらしい！」と思う気持ちと同時に「体は大丈夫かな・・・」と心配になるときも正直ありました。私がとよみで勤務し始めた頃、宜保匠さんは輪番応援に来てくださる薬剤師の一人でした。忙しさに混乱する薬局で手際よく働かれる姿に、「気の利く働き者だな」というのが第一印象だったのを覚えています。

去年の夏ごろ、陽子さんから 宜保さんとの結婚の報告を受けた時、まさか忙しいとよみでの仕事環境の中お二人の交際が着々と結婚に向かい進んでいるとは夢にも思わず、ものすごく驚き、声を上げてしまいました。そして心から嬉しく思いました。宜保さんは、この忙しい薬局で、しかも管理薬剤師としても業務に頑張る陽子さんや私たち職員全員に頻繁に様々な差し入れを持って来てくれました。陽子さんとの交際を知らなかった頃は、こんなに差し入れしてくださって申し訳ないと思いましたが、今思えば、「宜保さん・・・陽子さんが大好きで心配だったんだな～」と思いこちらまで頬が赤くなってきてしまいます。

そんなお二人がたくさんの人々の暖かな応援と見守りの中、素敵な結婚式の日を迎えられることができて、白の着物を着た新郎宜保さんと真っ赤な着物に身を包んで式場に入場する陽子さんの姿を目にしたとき涙が出てきてしまいました。

お二人とも、それぞれのご両親からたくさんの愛情を受け立派に成長され、職場を始めとするたくさんの人たちから愛され信頼されているのを、結婚式に参加させていただき心から感じました。これからは、新しい家庭を築かれて宜保さんと陽子さんがご両家のご両親にたくさんの感謝と愛情を注がれていくのでしょうか。家庭を築き守り続けていくことは本当に素晴らしいことであり、大仕事だと思います。ですが、真面目で優しく思慮深い陽子さんと、陽子さんを大好きで誠実な匠さんなら、お互いを認め合い、足りない部分を補い支え合いながら、素敵な暖かい家庭を築いていかれると思います。

宜保さん！陽子さん！本当にお似合いのお二人です!! 心からご結婚おめでとうございます。



薬事情報おきなわ No. 243

2017年1月号 : Vol. 32 No. 1

薬事情報センター TEL : 098-963-8931

FAX : 098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 平成28年12月21日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名:適応症・効能効果
内 用 薬	デシコビ配合錠LT (GSI-210)	1錠	2,748.20	日本たばこ 産業	エムトリシタピン/テノホビル アラフェナミドフマル酸: 抗ウイルス化学療法剤(HIV-1感染症)(新医療用配合 剤)
	デシコビ配合錠HT (GSI-225)	1錠	3,934.30		



Medical News

●夜の就寝中透析 働く患者に好評 福岡天神に専門クリニック開設 (西日本新聞 12月12日)

腎不全患者約32万人が週に3回受けている人工透析。拘束時間が長く、仕事を辞めざるを得なくなるなど生活の質(QOL)の低下が指摘されている。そうした中、夜就寝中に受けられる「オーバーナイト透析」を実施するクリニックが、福岡市に開設された。仕事を終え午後10時ごろ透析を始め、翌日午前6時ごろに終了。通常の2倍近い8時間をかけるため、急激な血圧低下が少なく、ふらつきなども避けられるという。

●薬剤師業務を「見える化」一病棟で医療安全に貢献証明 (薬事日報 12月13日)

日立製作所ひたちなか総合病院は、名札型赤外線センサーを使って病棟薬剤師の行動データを測定し、電子カルテにアクセスした履歴と照合することで、急性期病棟の薬剤師業務の「見える化」に成功した。1カ月間にわたり追跡。位置情報と業務量を解析した結果、循環器病棟を対象に重要評価指標に設定した抗凝固薬・抗血小板薬の確認を全ての患者で行っていることが判明した。

●調剤医療費が8兆円目前に (薬局新聞 12月14日)

調剤医療費は8兆円に迫る状況にあることを厚労省が発表した「平成27年度調剤医療費(電算処理分)の動向」からわかった。対前年比において9.3%の伸びとなっており、直近5年でも突出した伸長傾向を示している。

●健康食品9製品から医薬品成分 日本経済新聞 (薬局新聞 12月14日)

厚生労働省は24日までに、2014年度に国内で販売されていた健康食品を調べたところ、171製品のうち9製品から医薬品成分を検出したと発表した。この成分が原因で頭痛や動悸などの健康被害を起こす可能性があるとして、厚労省は製品を購入しないよう注意を呼びかけている。厚労省によると、強壮用の9製品から性的不能治療薬の成分「タダラフィル」など3種類を検出。健康被害は報告されていないという。

●投薬ミスで入院7日間延長 尼崎総合医療センター (神戸新聞 12月26日)

兵庫県は、県立尼崎総合医療センターの男性医師が、70代女性患者への投薬回数を誤って指示したために過剰投与となり、入院が予定より7日間延びた、と発表した。県によると、女性が10月16日に急性胆管炎で入院した際、女性薬剤師が持参薬を確認し、持病の多発性筋炎治療の

免疫抑制剤について、病院での投与回数を電子カルテに反映。本来は週1日に3回だったが、医師がカルテの記載を見落として看護師に指示し、6日間続けて1日3回ずつ投与された。

●機能性食品、増加 (朝日新聞 12月27日)

「特定保健用食品(トクホ)」に陰りが見えてきた。昨年4月にスタートした「機能性表示食品」の届け出数は急増している。トクホで許可される表示は「整腸」や「血糖値調節」などに限られており、消費者にアピールできる範囲が狭かった。機能性表示食品は、トクホと違って国の審査もなく、「ストレス緩和」や「目」「睡眠」に関する効能の表示も認められている。

●産業医大病院、使用済み点滴注射薬を投与 (西日本新聞 2017年1月5日)

産業医科大病院で昨年11月、看護師が入院中の60代の女性患者に、別の患者に投与した点滴注射薬を再使用していたことが4日、分かった。内規では、投与する薬には患者名を記入しなければならないが、いずれの注射薬にも名前は記入されておらず、使用済み廃棄のルールも守られていなかった。

●ドラッグストア希望、薬学生の1割超に一葉ゼミが就職動向調査 (薬事日報 1月16日)

ドラッグストアを第1志望業界とした薬学生が全体の10%を超え、調剤薬局、病院・クリニックに続き、新卒薬剤師の進路として受け入れられつつあることが、薬剤師国家試験予備校大手「医学アカデミー薬学ゼミナール」の就職動向調査で明らかになった。また、インターンシップに参加した学生が多い調剤薬局ほど、より多くの内定者を確保しており、インターンシップを起点に、説明会、面接、内定獲得まで学生が選考に進んでもらう仕組みを構築していく重要性が浮き彫りになった。調査は、薬学生の就職活動状況の実態を把握することを目的とし、昨年8月に薬ゼミオンライン登録者2960人を対象にウェブ調査を行ったもの。

●薬用植物の国内生産確立へー熊本薬学部と地場企業が連携 (薬事日報 1月25日)

熊本大学薬学部と熊本県の地場企業は、漢方薬や機能性食品などの原料となる薬用植物を高品質で安定的に国内生産できるシステムの開発に共同で取り組む。文部科学省から得た資金をもとに「自然共生型産業イノベーションセンター」を薬学部薬草園内に新設。ここを拠点に複数の地場企業と共同研究を進め、事業化を実現したい考え。熊本県もこの輪に加わり、様々な形で支援する計画だ。

医療事故情報収集等事業

医療安全情報

No.121 2016年12月

経鼻栄養チューブの誤挿入

事例 1

医師は、気管切開している患者に経鼻栄養チューブを挿入後、気泡音を聴取し、チューブが胃内に入っていると判断した。その後、看護師が栄養剤の注入を開始したところ、患者は咳き込み、呼吸音を訴えた。医師は気管孔から気管支挿入を行い、気管内に経鼻栄養チューブが挿入されていることが分かった。

事例 2

看護師は経鼻栄養チューブを挿入後、胃内容物を吸引できなかったが、他の看護師と2名で気泡音を聴取し、チューブが胃内に入っていると判断した。看護師は、内服薬を注入する前に、再度、他の看護師と気泡音を聴取した。内服薬を溶かした白濁を注入したところ、咳嗽が出現しSpO₂が80%前後に低下した。胸部エックス線撮影を行い、右気管支に経鼻栄養チューブが挿入されていることが分かった。

事例が発生した医療機関の取り組み

・経鼻栄養チューブの挿入後、胃内容物を吸引して胃内に入ったことを確認する。胃内容物が吸引できない場合、エックス線撮影によりチューブの先端の位置を確認する。

本財団の認定病院患者安全推進協議会の「指言「経鼻栄養チューブ挿入の安全確保」(2006年3月31日掲載)では、胃内容物を確認することを推奨しています。

<https://www.psp-jqjchc.or.jp/download/649?wpdmdl=649>

総合評価部会の意見

・経鼻栄養チューブが胃内に挿入されていることを確認する際、気泡音の聴取のみでは信頼できる方法ではありません。
・経鼻栄養チューブの挿入後、胃内に挿入されていることを確認する手順を決め、遵守しましょう。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたる保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の最量の制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.med-safe.jp/>

医療事故情報収集等事業

医療安全情報

No.122 2017年1月

透析前の体重測定誤り

事例 1

ICUで患者の体重を測定し、透析を行った。翌日もICUで同じ設定で体重を測定し、透析を行った。3日目、透析室で透析を行う際に体重を測定したところ、患者の体重が目標体重より減っていた。ICUに問合わせがあり、ICUのリフト式体重計のパネルを確認したところ、この体重計はストレッチャーシートの重さとして、あらかじめ「-3kg」と設定して測定することになっていたが、「3kg」と設定されていた。そのため、ICUでは6kg多い体重をもとに除水量を計算して透析を行い、過除水になっていたことが分かった。

事例 2

透析の際、当該患者の体重には義足を含めることになっていたが、看護師はこの患者の体重には義足を含めないと思い込んでいた。看護師は、義足を装着して車椅子に乗った患者の重さを測定した。その後、車椅子と義足の重さを測定し、最初に測定した重さから差し引いた値を体重としたため、義足の重さの1.3kg少ない体重となった。その体重をもとに除水量を計算して透析を行ったため除水不足となり、翌日に追加の透析が必要となった。

事例が発生した医療機関の取り組み

・透析前の体重測定の際に、体重計の設定や測定時の条件を確認する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたる保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の最量の制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.med-safe.jp/>

11～1月に薬事情報センターに寄せられた質問から はい、薬事情報センターです。



薬事情報センターでは、会員の方々を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

【質問】 マイテラーゼ（塩化アンペノニウム）の用法は、通常成人1日15mgを3回に分割経口投与とあるが、なぜ1錠10mgの製剤しかないのか。1日15mg以上は出せないのか。（薬局）

【回答】 塩化アンペノニウムは海外での発売が先行し、日本で5mgの体内動態などのデータが取れなかったため、海外データの揃っている10mg1錠の商品でしか販売されていない。重症筋無力症の中等症患者へ症状調節を目的として使用されるが、作用が強く、約8時間の作用持続が考えられるので、臭化ピリドスチグミンで効果不十分な場合、あるいは症状の不安定化がある場合に併用される。その他硫酸アトロピンと併用されることもある。併用療法では、塩化アンペノニウム上限40mgが紹介されている。

参考：アルフレッサファーマ私信、重症筋無力症：総合臨床41（増刊）、19924

【質問】 ニューキノロン系抗菌薬にピオフェルミンRが併用されている事がある。実際に、ニューキノロン抗菌薬系にピオフェルミンRが無効であるデータはあるのか。（薬局）

【回答】 耐性乳酸菌製剤であるピオフェルミンRにはニューキノロン系抗菌薬の耐性はなく、併用による予防効果は認められておらず、ピオフェルミン製剤がノルフロキサシン等のニューキノロン系10品目とピオフェルミンRのMICを測定し検証した結果、有用であるという結果はでなかった。ちなみに、偏性嫌気性の芽胞系生菌である酪酸菌も生菌整腸剤として用いられているが、酪酸菌の芽胞は乳酸菌類と比較して胃酸に抵抗性があり、種々の抗菌薬に対して耐性を示すことが知られている。耐性乳酸菌製剤で併用効果が期待できない場合、酪酸菌製剤を選択することも対応策の1つとして考えられている。

参考：ニューキノロン系薬に対するピオフェルミンR及びピオフェルミン錠剤の耐性値の比較：ピオフェルミン製薬資料、抗菌薬のMICと生菌整腸薬の適応は？：薬局62（3）、2011

【質問】 メマリー、ロゼレム、酸化マグネシウムと併用して柴胡加竜骨牡蠣湯が処方されている。柴胡加竜骨牡蠣湯はハイリスク薬ですか？（薬局）

【回答】 柴胡加竜骨牡蠣湯は多くのメーカーから販売されているが、その中でもコタローとツムラの柴胡加竜骨牡蠣湯については、適応疾患のてんかんに限りハイリスク薬の扱いとなる。厚生省「診療報酬情報提供サービス」HPの「特定管理指導算等の算定対象となる薬剤一覧」の17006、17012にコタローとツムラの製品が掲載されている。

【質問】 全日本の大会に出場予定の選手に以下の薬剤を関節腔内に注射したいが、大丈夫ですか。

1. ヒアルロン酸Na 関節注25シリンジ（ニプロ）
2. デカドロン注射液1.65mg（アスペンジャパン）（病院看護師）

【回答】 1. は、2016WADA禁止表の禁止物質には該当しないと考えられる。

2. は、2016WADA禁止表「S9糖質コルチコイド」に該当する禁止物質ですが、関節内や関節周囲への局所注射等非全身的使用は禁止されないため、TUEも不要です。

【質問】 足指の間の水虫を見ているが、抗真菌剤のクリーム、軟膏、液剤、どれを使ってもなかなか乾燥しない。パウダータイプの抗真菌剤はないですか？（薬局）

【回答】 今のところパウダータイプの抗真菌剤は販売されていない。趾間型で、浸軟がひどく、糜爛しているような場合には外用抗真菌薬で接触皮膚炎を起こしやすいので、糜爛部には亜鉛華軟膏などを塗布し、経口抗真菌薬の内服を行ない、糜爛面が消失してから外用抗真菌薬を使用する。抗真菌剤の内服は抗がん剤との併用が禁忌であったり、相互作用も多いため添付文書を確認する必要がある。難治性であれば、皮膚科の専門医の受診を勧める。

参考：皮膚真菌症診断・治療ガイドライン

【質問】 会社の常備薬として救急箱を置いている。第2類、第3類の薬を従業員が自由に使ってもいいですか？産業医がおり、診療所開設許可を取っているのでは問題ないが、開設許可を取り下げた場合はどうなるのか？（会社）

【回答】 救急箱を設置し、使用者が自身で選び服用する場合は問題はないが、他人が薬を選択して渡すことについては、譲渡することとなり、薬事法違反となる。また、医療法上「診療所」として承認されている健康管理室や医務室等については、産業医の責任で薬の処方が許されているので、一般薬の購入、保管や提供は問題ない。診療所の認定を受けていない場所では「医療行為」を行うことは禁止されているため、産業医や保健師であっても、医療行為や診療を行うことは出来ません。また、職場で応急処置をするために必要な包帯、消毒薬などは準備しておかなければならない。

参考：労働安全衛生法 労働安全衛生規則 第9章 救急用具 第633、643条、産業保健新聞 第1121号、那覇市保健所私信

【質問】 チスタニン（エチルシステイン塩酸）とムコダイン（カルボシステイン）は併用可能ですか？（薬局）

【回答】 同じ去痰薬に分類される薬剤ですが、チスタニンは粘液の粘度低下作用と気管の纖毛運動亢進作用、ムコダインは気道粘液調整作用、粘膜正常化作用により痰や鼻汁を排出しやすくする。両者は作用機序に違いがあるため、併用は問題ないが、場合によっては疑義も考慮する。

参考：医薬品添付文書



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

11～1月の「おくすり相談室」受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

【質問】3日便が出ない時はピコスルファートを飲むが、飲んだ時しか効かない。キャベジン、1日3回飲むと毎日便通がいいので、毎日飲んでも大丈夫か。現在、降圧剤、足のむずむずにランドセン、ソラナックス、眠剤を服用中。（男性）

【回答】服用されているお薬の中には便秘の副作用が報告されているものもありますが、加齢に伴い食事の量も少なくなり、腸の動きも弱くなりますので、便秘になりやすいようです。キャベジンで便通が良くなるのは、少量ですがマグネシウムが入っているためと思われます。習慣性は少ないと思われますが、マグネシウムの量が多くなると、ぼーっとしたり、力が入らなくなったりといった高マグネシウム血症が出やすいといわれており、注意が必要です。

【質問】1日1回、朝飲む血圧の薬について。（ノルバスク0D錠・オルメテック錠）朝は、飲み忘れるので、昼、飲むようにしたいがそれでもいいか？

【回答】朝飲み忘れたときは、思い出した時に服用してください。ただし、昼に飲むように変更したい場合は、主治医とご相談ください。（男性）

【質問】今までドパリールを飲んでいたが、薬局で今日からゾピクロンという薬に変わり、会社も変わったと説明があった。同じものかどうか心配で飲めない。（男性）

【回答】ドパリールとゾピクロンはどちらのお薬もアモバンという睡眠薬のジェネリック医薬品です。どちらのお薬もゾピクロンという成分で、同価格、効果や安全性なども同程度ですので、ご心配いりません。最近は成分名と同じゾピクロンという名前のジェネリック医薬品が多く販売されています。

●安全性情報●

【質問】ホットフラッシュで2年程エストラナテープを貼っていたが、不正出血が続き医師より子宮体がんのリスクも上がるからと言われ休止した。今も夜中に3～4回着替えたり、手が冷たくなったりする。命の母Aや漢方薬も効果がなく、胃の痛みもあった。大豆イソフラボンやプラセンタとか薬局で見るとよくわからないので、教えてほしい。（女性）

【回答】更年期にみられるホットフラッシュにはエストラナテープのような女性ホルモンを補う治療が有効ですが、副作用も心配ですね。サプリメントの大豆イソフラボン由来のエクオールやプラセンタ等の製品も多く販売されています。ただ、健康食品は治療の補助的なものですので、治療目的での摂取は勧められません。引き続き専門医への相談が必要かと思われます。

●ドーピング●

【質問】国際大会へ出場するが、芍薬甘草湯の服用は大丈夫ですか？（指導者）

【回答】現在マラソン選手等に競技前の芍薬甘草

湯の服用者が増えているようですね。漢方薬には明らかに禁止物質を含むものもありますが、芍薬甘草湯の成分には禁止物質は含まれておりません。しかしながら、漢方薬を構成する生薬には、それぞれたくさんの成分が含まれており、1つ1つの成分が禁止されているかどうかを特定するのは難しく、大丈夫といった保証はできないのが現状です。

【質問】大会に薬（カロナール、アズノールうがい液、クロルフェミラミンシロップ、セネガシロップ、トーワチーム、フスコデ配合シロップ、葛根湯）を持っていきたいが、大丈夫ですか？（選手）

【回答】フスコデ配合シロップと葛根湯にはエフェドリンが含まれるため、競技内禁止物質となります。ただし、大会3日前までに服用を止めることで、ドーピング違反となる事はないと思われます。他の薬剤については禁止物質は含まれていないため、大会が近いのであれば、そちらをお勧めします。

●漢方薬●

【質問】葛根湯が肩こりに処方されましたが？（女性）

【回答】葛根湯は、初期のかぜ症候群に使用されることが多いのですが、肩こりや筋肉痛などにも使用されることがあります。葛根湯の服用により頸部等の血液循環が良くなることが理由として考えられています。

参考：「葛根湯の肩こりに対する改善効果とサーモトレーサーによる検討」：日本東洋医学雑誌 47(5)

【質問】4～5日海外に行くが、降圧薬など2種類の薬を飲んでいる。英語の説明書を持っていきたい。（男性）

【回答】検索サイトで、「くすりのしおり」と入れると、RADAR協会（くすりの適正使用協議会）の頁が検索できますので、そこで薬局からもらっている薬の説明書の英語版が入手できます。また、日本製薬工業協会や日本医薬情報センターの海外添付文書情報のリンク集から世界各国の添付文書も入手可能です。また、処方医や調剤薬局の薬剤師に英文の「薬剤証明書」を発行してもらうこともできます。

●苦情・相談●

・認知症の妻がアリセプトを6年飲んでいる。最近、外出はしていないのに友人と会って何か言われた、東京の兄弟に会った、夫婦二人暮らしなのに、子供たちの分も出したりすることがある。この症状が最近急にひどくなった気がする。

・5ヶ月も使用期限が切れた薬を渡された。

・薬局で「お薬手帳持ってきてください」と毎回言われる。なぜ毎回言うのか、他では言われないのに。お薬手帳のことなぜ聞くのですか。

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

- ◇医薬ジャーナル 52巻12号
 - *がん患者のこころを救え～サイコオンコロジーの最前線～
- ◇医薬ジャーナル 53巻1号
 - *移行期医療～小児期から成人期への円滑な橋渡しを目指して～
- ◇エキスパートナース 32巻12月号
 - *移行期医療～小児期から成人期への円滑な橋渡しを目指して～
- ◇エキスパートナース 33巻1月号
 - *意外と知らない！知ると変わる！バイタルサインの常識
- ◇きょうの健康 12月号
 - *慢性腎臓病 アルツハイマー病
- ◇きょうの健康 1月号
 - *不整脈 大腸がん
- ◇月刊薬事 58巻16号
 - *せん妄、こんなときどうする？——病棟・ICUで困るシチュエーションから学ぶ
- ◇月刊薬事 59巻1号
 - *これなら私にもできる！TDMを活かすTips教えます
- ◇産科と婦人科 83巻12号
 - *月経前症候群・月経前不快気分障害の最新知見
- ◇産科と婦人科 84巻1号
 - *産科領域における遺伝診療の最前線
- ◇総合診療 26巻12号
 - *これでパッチリ！眼の健康問題
- ◇総合診療 27巻1号
 - *総合診療の“夜明け” キーマンが語り尽くした「来し方、行く末」
- ◇調剤と情報 22巻15号
 - *見抜いて早期介入！高齢者のフレイル対策
- ◇調剤と情報 23巻1号
 - *ポリファーマシーを考える
- ◇治療 98巻12号
 - *ポリファーマシー できること、難しいこと、多職種からの視点
- ◇治療 99巻1号
 - *健康格差対策
- ◇日経ドラッグインフォメーション 229号
 - *5人の専門医が語る 処方箋の裏側 スペシャル循環器・内分泌疾患編
- ◇日経ドラッグインフォメーション 230号
 - *重複加算・相互作用等防止加算を算定しよう！
- ◇日経ドラッグインフォメーション 231号
 - *薬局サービス “+α” 大作戦

- ◇日本医事新報 4829号
 - *高齢社会で増加する加齢黄斑変性
- ◇日本医事新報 4830号
 - *そこが知りたい！インフルエンザ検査
- ◇日本医事新報 4831号
 - *外来でHIV感染症に出会ったとき、どう対応する？
- ◇日本医事新報 4832号
 - *肺癌早期発見の最前線
- ◇日本医事新報 4833号
 - *解説！三叉神経痛
- ◇日本医事新報 4834号
 - *ギラン・バレー症候群—今わかっていること
- ◇日本医事新報 4835号
 - *腰部脊柱管狭窄症の鑑別と保存的治療
- ◇日本医事新報 4836号
 - *遺伝子診断と生命倫理を考える
- ◇日本医事新報 4837号
 - *新生児マスキングの今
- ◇薬局 67巻12号
 - *地震・火山災害の医療支援～被災地最前線で薬剤師個人がもっておきたい知識とスキル
- ◇薬局 68巻1号
 - *Evidence Update 2017～最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する

【今月の論文等】

■薬物療法■

- ▶適応外使用の処方せんの読み方 [78] 好酸球性食道炎 月刊薬事58 (16) p.167
- ▶適応外使用の処方せんの読み方 [79] アニサキス症 月刊薬事59 (1) p.101
- ▶MSSA菌血症での最適な抗菌薬は、本当にセファゾリンか？を研究せよ！ 薬局 68巻1号 p.159
- ▶ポリファーマシー“処方整理力”を鍛える！ 痒みをなんとかしてください！ 薬局 68巻1号 p.188
- ▶がん患者にパンピタン……単なるビタミン補給？ 調剤と情報23 (11) p.115
- ▶誤嚥性肺炎により寝たきりの患者への抗パーキンソン病薬の意味は？ 日本医事新報 4832号 p.62
- ▶三叉神経痛の診断と内服治療 日本医事新報 4833号 p.26
- ▶PPI抵抗性GERDの原因と治療方法 日本医事新報 4836号 p.58

今月の特集・論文

- ▶ 治療用特殊ミルクの現状と安定供給上の問題点
日本医事新報 4838号 p.44

■新薬■

- ▶ 新薬くろ～ずあっぷ イムブルピカカプセル140mg
調剤と情報22 (15) p.95
- ▶ 新薬くろ～ずあっぷ ボンビバ錠100mg
調剤と情報23 (1) p.59
- ▶ 注目の新薬情報(11)ヘマンジオルシロップ小児用0.375%
医薬ジャーナル 52巻12号 p.151
- ▶ 注目の新薬情報 (12) ビムバット錠50mg, 100mg
医薬ジャーナル 53巻1号 p.155

■安全性情報■

- ▶ この嘔吐は化学療法誘発性悪心・嘔吐か
□月刊薬事 58巻12号 p.125
- ▶ この「めまい」はミノサイクリンが原因か
月刊薬事 59巻1号 p.139
- ▶ 連載・リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～ (109)
抗がん剤汚染報告から見た汚染発生要因と汚染処理
医薬ジャーナル 52巻12号 p.147
- ▶ 医薬品の微生物汚染とその対策 [8] 点眼剤
月刊薬事58 (15) p.145
- ▶ 医薬品の微生物汚染とその対策 [9] 内用液剤、含嗽液
月刊薬事59 (1) p.156
- ▶ 臨床判断 実践トレーニング PPIと酸化マグネシウムの併用で便秘が悪化
調剤と情報23 (11) p.5
- ▶ クスリとリスク・9 薬剤熱
総合診療26 (12) p.1049
- ▶ クスリとリスク・10 薬剤性肝障害
総合診療27 (1) p.84
- ▶ 副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く (56)
- 1. イピリムマブによる網膜剥離
- 2. 過活動膀胱患者に対する潜在的に不適切な抗コリン薬の使用
- 3. 重症小児において急性腎障害のリスクとなる薬物
- 4. ピンクリスチンにより重篤な神経障害性疼痛を呈したCYP3A5が非発現型の患者
- 5. マシテンタンによる呼吸困難の悪化
- 6. セルトラリン併用でオランザピンの見かけの全身クリアランスが上昇
医薬ジャーナル 52巻12号 p.144
- ▶ 副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く (57)
- 1. 入院新生児における薬物有害反応の特徴

- 2. シクロホスファミドの薬理効果や有害反応と関連するグルタチオンS-トランスフェラーゼの遺伝子多型
- 3. オルメサルタンによる吸収不良症候群
- 4. 慢性心不全患者における薬剤師の介入は臨床的に重要な薬物間相互作用を減少させる
- 5. リスペリドンとエスシタロプラム併用患者におけるCK上昇
- 6. リスペリドンにより血管浮腫を呈したリトナビル服用中のHIV患者
医薬ジャーナル 52巻12号 p.148

■産科・婦人科■

- ▶ 月経関連頭痛症
産科と婦人科 83巻12号 p.80

■臨床検査■

- ▶ 疑義照会事例でわかる検査値の読み方 検査値を活用し抗インフルエンザ薬の適正使用に貢献
調剤と情報 22巻15号 p.59

■服薬指導■

- ▶ せん妄のハイリスク因子およびリスク薬に対する薬学的介入
月刊薬事58 (16) p.83
- ▶ リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～ (110)
薬局薬剤師による認知症対応力向上について
医薬ジャーナル 53 (1) p.133
- ▶ シクレスト舌下投与後の飲食不可時間
日経ドラッグインフォメーション 229号 p. PE035
- ▶ 顎骨壊死のリスクがない骨粗鬆症治療薬
日経ドラッグインフォメーション 230号 p. PE033
- ▶ 抗精神病薬による体重増加にトピラマート
日経ドラッグインフォメーション 231号 p. PE37

■漢方薬■

- ▶ かぜ症候群、インフルエンザに対するエビデンス①
一葛根湯、麻黄湯
月刊薬事58 (16) p.149
- ▶ かぜ症候群、インフルエンザに対するエビデンス②
一小青竜湯、麻黄附子細辛湯
月刊薬事59 (1) p.161

■その他■

- ▶ 救急領域における薬剤師によるTDM検査オーダ入力支援の有用性
日本医事新報 4828号 p.40
- ▶ 避難所で被災者が訴える“一見OTCで対処できそうな症状”への対応 一薬剤師のためのDon't & Do—
□薬局 67巻12号 p.128
- ▶ ライフラインが断たれた被災地での計量調剤の実践ポイント
□薬局 67巻12号 p.151

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

糖尿病治療でよく使われる漢方薬、患者が好むサプリメントなどとその注意点は？

月刊薬事 10月臨時増刊号

サプリメントは、食品でありながら、作用は弱いものの糖尿病治療薬と類似した機序をもつものもある。医療現場では、食事療法（栄養補給）や運動療法においてサプリメントを導入することも少なくない。糖尿病予防に関与する食品には、糖尿病の口の渇きを癒す薬として中国で用いられており、ネバネバ成分に血糖値を下げる働きのあることがわかっているヤマイモの他、朝鮮人参、アロエ、タマネギ、ニンニク、グァバ、大豆、ギムネマ、アイスプラント、豆鼓（トウチ）が報告されている。また、運動療法をサポートするサプリメントとして糖代謝に必要なビタミンB1、体内脂肪改善（ダイエット）に対する運動療法では、運動前に分岐鎖アミノ酸の補給が推奨されている。これらには高血糖に気をつけなければならないものがあり、我々医療者は患者に寄り添い、診察や服薬指導時に服用内容の情報を得て、決して患者を否定することなく、アドバイスや指導を行っていかなくてはならない。

南海医療センター薬剤科
力武 隆浩

NSAIDsによる胃腸傷害の空腹時・食後服用の違いは？

日本医事新報 4815号

わが国の薬剤添付文書と同様に欧米各国のガイドラインでもNSAIDs内服時は空腹を避けることが推奨されていますが、実はNSAIDsの空腹時服用と食後服用で胃腸傷害を比較した臨床研究は存在しません。しかし、動物実験では胃潰瘍に代表されるNSAIDs起因性胃粘膜傷害は食後投与よりも空腹時投与時に明らかに強く引き起こされるというエビデンスが存在します。NSAIDsによる胃腸傷害には大きくわけてPG産生抑制作用と、粘膜上皮を直接傷害する直接作用の2つの機序が関与していると考えられています。これらのうち、直接作用が胃内に食物がある状態では軽減されと考えられています。すなわち、殆どのNSAIDsは酸性であるため酸性条件下では非イオン化し、消化管粘膜の細胞膜を通過することにより、細胞傷害をより強く引き起こしますが、食後の場合には食物の影響により胃内pHの上昇が起こるため、細胞中への移行が妨げられ直接作用が減弱すると考えられています。

大阪市立大学大学院医学研究科
灘谷 祐二 渡辺 俊雄

PMS/PMDD（月経前症候群/
月経前不快気分障害）の治療法—サプリメント

日本医事新報 4832号

本稿では、PMS/PMDDの対策を目的としたサプリメントの現状と今後の展望について述べる。2010年秋までのビタミン・ハーブ類に関連する論文（RCT）から、Dante G等の研究者が精査し、「有効」と判断されたのはカルシウムで、PMSの有症者が1日1000～1200mgを約3か月継続摂取した結果、否定的な感情やむくみ、痛みが軽減することが報告されている。その機序は明確になっていないが、排卵時のカルシウム不足に連動し、副甲状腺ホルモンの分泌過剰を防いでいるのではないかと仮説が考えられている。その他、ビタミンB6とチェストツリーが「おそらく有効」と判定された。大豆イソフラボンの活性代謝物であるエクオールには、PMSを軽減させる効果が期待されている。腸内細菌叢の個人差によりエクオールの産生者と非産生者が存在することが知られており、エクオール産生能の有無とPMS/PMDDとの関連性について多くの検討がなされている。今後、これらの効果についての科学的根拠の蓄積が望まれる。

大塚製薬株式会社
上野 友美

ピロリ菌便中抗原検査はPPIの影響を受けないか？【PPI内服中除菌判定は可能か】

日本医事新報 4835号

PPIの影響は便中抗原検査に使用するキットによって異なります。現在の保険診療上は、PPI投与の影響が少ないとされるキットであっても、検査前にはPPIを2週間休薬しなければなりません。一方、PPI内服のまま便中抗原法で除菌判定を行うことについては国産のキットの有用性を示した報告があります。尿素呼吸試験にはいくつかの方法がありますが、測定の対象はすべてウレアーゼ活性です。それに対して、便中抗原測定キットでは、キットによって使用されている抗原が異なるため、測定する対象が異なり、状況を複雑にしています。一般臨床で使われる国産のキットは、大部分が「テストメイトピロリ抗原EIA®」か「テストメイトラピッドピロリ抗原®」です。これらのキットはPPI内服の影響を受けにくいことが報告されています。一方、海外のキットについては、PPIの投与が測定結果に影響するのかどうか、ほとんど検討されていません。

弘前大学大学院医学研究科消化器血液内科
下山 克

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は県薬に見本があります。

★【日薬幹旋図書】治療薬ハンドブック 2017

【監修】高久 史磨 【発行】じほう 【発行日】2017年1月

【版型/頁】B6変形判/約1,500頁 【定価】4,752円(税込) 【会員価格】4,280円(税込)

添付文書だけでは得られない、活きた情報を豊富に掲載した医薬品情報集の決定版！

妊婦、小児への投薬情報や錠剤・カプセル剤の粉碎可否情報など、知りたい情報をすぐに探せる、臨床現場の声を反映した使いやすい1冊。

★【日薬幹旋図書】治療薬マニュアル 2017

【監修】高久 史磨、矢崎 義雄 【発行】医学書院 【発行日】2017年1月

【版型/頁】B6判/2,752頁 【定価】5,400円(税込) 【会員価格】5,000円(税込)

収録薬剤数は約2,300成分・18,000品目。2016年に収載された新薬を含むほぼすべての医薬品情報を収載。添付文書に記載された情報を分かりやすく整理し、各領域の専門医による臨床解説を追加。「使用上の注意」もすべて収録。医薬品レファレンスブックとして、医師・薬剤師・看護師ほかすべての医療職必携の1冊。

『今日の治療指針 2017年版』(デスク判 | ポケット判)とのセット購入により、電子版で2冊がリンク

★【日薬幹旋図書】Pocket Drugs 2017

【監修】福井 次矢 【発行】医学書院 【発行日】2017年1月

【版型/頁】A6判/1,088頁 【定価】4,536円(税込) 【会員価格】4,210円(税込)

治療薬を薬効ごとに分類し、第一線で活躍の臨床医による「臨床解説」、すぐに役立つ「選び方・使い方」、薬剤選択・使用の「エビデンス」を、コンパクトにまとめた。欲しい情報がすぐに探せるフルカラー印刷で、主要な薬剤は製剤写真も掲載。臨床現場で本当に必要な情報だけをまとめた1冊。2017年版では、後発品をわかりやすく表示。

★【日薬幹旋図書】今日の治療薬 2017

【編集】浦部 晶夫、島田 和幸、川合 真一 【発行】南江堂 【発行日】2017年1月

【版型/頁】B6判/1,392頁 【定価】4,968円(税込) 【会員価格】4,470円(税込)

薬効群ごとに解説と便覧で構成したベストセラー。2017年版では、多剤併用で注意したい高齢者の薬物療法に注目し、解説に「高齢者への投与」を新設。便覧は高齢者への注意喚起マーク、新規適応追加マーク、配合剤の「逆引き」表記(単剤一般名から配合剤の商品名がわかる)など、新表記でますます使いやすい。ポータルサイトでの年3回更新情報も配信。

Drugs-Note 2017

【編集】医薬情報研究所 【発行】じほう 【発行日】2016年12月

【版型/頁】ポケット判/528頁 【定価】1,944円(税込)

忙しいけど調べたいときの、ちょっとした確認なら『ドラッグノート』。白衣に入るポケットサイズ！メモ機能と医薬品情報が一体化した便利帳！簡潔にまとめた添文情報！さらに商品名でダイレクト検索可能。

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は県薬に見本があります。

★【幹旋図書】健康食品・サプリメント[成分]のすべて 2017

【総監修】日本医師会、日本薬剤師会、日本歯科医師会

【発行】(一社)日本健康食品・サプリメント情報センター 【発行日】2017年1月

【版型/頁】B5変形判/1,208頁 【定価】16,200円(税込) 【会員定価】12,750円(税込)

ナチュラルメディシン・データベースは、健康食品の成分・素材のエビデンス集として、世界各国で高い評価を受けており、わが国でも厚生労働省から「信頼できる健康食品情報源」として取りあげられ、公的な機関などで活用されている。科学的根拠に基づいた、約1200の成分・素材に関して、安全性、有効性、禁忌となる症状や医薬品との相互作用等が掲載。2017年度版ではごま、ワサビ等日本に馴染みのある食品を含む87の新規成分が追加された。

今日の治療指針 2017 (ポケット版) ★(デスク版)

【総編集】福井 次矢、高木 誠、小室 一成 【発行】医学書院 【発行日】2017年1月

【版型/頁】ポ: B6判/2,096頁/デ: B5判/2,096頁

【定価】ポ: 16,200円(税込) デ: 20,520円(税込)

毎年全面新訂。信頼と実績の治療年鑑。1,137疾患項目は、すべて毎年全面書下ろし。

2017年版は新見出し「トピックス」を主な疾患項目の冒頭に掲載し、最新情報を紹介。

日常臨床で遭遇するほぼすべての疾患・病態に対する治療法がこの1冊に。

診療ガイドラインのエッセンスと利用上の注意点を簡潔に解説。

在宅医療×感染症

【編集】遠藤 光洋 【発行】南山堂 【発行日】2016年12月

【版型/頁】B5判/179頁 【定価】3,240円(税込)

終末期がん患者の肺炎にどこまで積極的治療をする? 介護者がインフルエンザになった時の対応は? 在宅患者は独自の感染リスクを持つ集団だが、エビデンスは、ほぼない状況である。感染症と在宅医療それぞれの専門家が、臨床上の疑問について対話し、お互いの診療ロジックへの理解を踏まえ、患者を中心に両者をつなぐ道を探る。

薬局業務に役立つ 特定保険医療材料ガイド

【編集】東京と薬剤師会 【発行】じほう 【発行日】2016年12月

【版型/頁】B5判/96頁 【定価】2,160円(税込)

高齢化が進み地域包括ケアシステムの構築が進むなか、薬局は地域住民の生活・医療・介護を支える存在として期待されている。在宅医療が推進される現在、薬局薬剤師には薬だけでなく医療機器に関する知識も必須。薬局が交付できる特定保険医療材料を豊富な写真とともに例示。現場に必要な商品をイメージすることができるので、いざという時にあわてず、的確な商品選択に自信が持てる1冊。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供 (2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3)医薬品に関するお問い合わせ (4)県薬ホームページの制作・管理 (5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6)医薬品 PL センター窓口業務 (7)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は098-963-8935になります。
お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL：098-963-8931 FAX：098-963-8937

沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * 海外文献から (JAPIC 医薬情報より) * *

●催奇形性医薬品検出のシステマティックメソッド:EUROmediCAT シグナル検出 (Br. J. Clin. Pharmacol. 82(4)1110- (2016.10))

EUROmediCAT データベースを用い、妊娠第1トリメスターに薬剤曝露を受けた、奇形のある胎児/新生児 14950 例のデータ (1995 年-2011 年) を解析した。特定の先天異常について特定の薬剤曝露のオッズを、データ中の薬剤-先天異常の組み合わせ (40385 組) のオッズと比較した。最も一般的な曝露は、泌尿生殖器系治療薬および性ホルモン、神経系薬剤 (抗うつ薬、抗不安薬、催眠薬、鎮静薬、抗てんかん薬)、全身用の抗感染薬であった。14950 例のうち、52 件の関連性 (薬剤-先天異常の組み合わせ) が確認された。重複などを除いた後、39 件の関連性をさらなる調査の対象とした。これらの関連性には、催奇形性がよく知られている valproic acid (2 件)、insulin の使用 (母親の糖尿病が示唆される) (14 件) が含まれていた。EUROmediCAT 中央データベースの薬剤曝露データは、測定可能な関連の組み合わせを特定、各データセットについてテストするため、系統的な解析が可能である。催奇形性薬剤の検出は、曝露の頻度、リスクレベルおよび催奇形性の特異性に左右される。

●通常治療での Statin 誘発性ミオパチー:プロスペクティブ観察研究における性差 (Eur. J. Clin. Pharmacol. 72(10)1171- (2016.10))

通常医療においてスタチン投与を受けている外来患者 180 例 (男 91 例、女 89 例; 平均 68.1 歳、61.3 歳) を適格とし、12 ヶ月間の経過観察を行った。主要な転帰指標はミオパチーとした。その結果、17 例 (14%) にミオパチーが発現し、男性との比較における女性のリスク比は 1.52 (95%CI: 1.37-1.66) であった。大多数が自身の疼痛を「重度」と評価した。クレアチニンキナーゼ値は正常範囲内であった。ミオパチーを呈した全患者が simvastatin を投与されており、平均用量 25.3mg であった。比較して、ミオパチーを伴わない患者では 22.4mg であった。女性の 80% および男性の 43% は、筋症状が日常生活活動に中等度から重度の影響を及ぼしたと報告した。投与を中止した女性の 70% および男性の 25% では、ミオパチーが投与中止の理由であった。ミオパチーのリスクは、男性のみで用量依存性であったが、女性にはなかった。ミオパチーの患者では、76% が他の ADR を報告したのに対し、ミオパチーのない患者では 21% であった。女性の 29% および男性の 18% が他の ADR を報告した。ミオパチーを呈した患者はその他のスタチン誘発性 ADR にも感受性が高く、これは共通する機序について問題提起するものである。

●小児における Ibuprofen に関連した低体温 (Eur. J. Clin. Pharmacol. 72(10) 1239 - (2016.10))

イタリアの自発報告データベースおよび VigiBase から、小児における ibuprofen 関連の低体温が疑われるすべての症例 (2015 年 12 月まで) を抽出した。イタリアの症例に関しては比例報告比 (PRR) を、VigiBase からの報告に関しては IC (95%信頼区間下限値) を非比例性の測定値とした。報告は、女性 10 例および男性 9 例で、平均 2.5 歳であった。2015 年 12 月 31 日までに、VigiBase には ibuprofen に関連する低体温 168 症例が報告され、IC 2.05 であった。これらのうち 126 症例は小児 (男 49%) の症例であり、平均 4.4 歳であった。現在までのところ、ibuprofen の低体温のリスクに関しては不明であるが、ibuprofen は広範に使用されることから、今後の研究が必要である。

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

➤ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電 話 098-963-8930

➤ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電 話 098-963-8935

➤ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承ください。

電 話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➤ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>

医療保険

調剤報酬請求業務Q&A（第1回）

医療保険委員会では、適切な調剤報酬請求業務に努めて頂くよう、審査支払機関から査定や返戻の多い事例を本会報にシリーズで掲載していくことになりました。

第1回目は調剤料についてです。

なお、ご質問がある場合にはFAXまたはメールにて県薬事務局へお願い致します。次頁のフォームをコピーしてご利用下さい。

【調剤料】

事例 1

処方			調剤料
Rp1	ラミクタール錠25mg 朝食後	1錠 50日分	87点
Rp2	ラミクタール錠小児用5mg 夕食後	4錠 50日分	87点

算定不可

同一有効成分であって同一剤形の薬剤が複数ある場合は、その数にかかわらず1剤として算定する。
(調剤報酬点数表の解釈 平成28年4月版)

処方			調剤料
Rp1	ラミクタール錠25mg ラミクタール錠小児用5mg (朝25mg・夕20mg) 朝夕食後	1錠 4錠 50日分	87点

ラミクタールは不均等投与の1剤として算定します。

事例 2

処方			調剤料
Rp1	ロトリガ粒状カプセル2g 朝食直後	1包 30日分	80点
Rp2	ロサルタンカリウム錠50mg「テバ」 アムロジピンOD錠5mg「日医工」 朝食後	1錠 1錠 30日分	80点

算定不可

食直後は食後とみなし、1剤として扱います。

食事を目安とする服用時点については、食前、食後および食間の3区分とすることとし、服用時点が「食直後」等であっても、調剤料の算定にあつては、「食後」とみなし、1剤として扱う。

事例 3

処方			調剤料
Rp1	ホスレノールチュアブル錠500mg 朝食直後	1錠 30日分	80点
Rp2	ロサルタンカリウム錠50mg「テバ」 アムロジピンOD錠5mg「日医工」 朝食後	1錠 1錠 30日分	80点

算定可

内服錠とチュアブル錠又は舌下錠等のように服用方法が異なる場合は、それぞれ別剤として算定できる。
(調剤報酬点数表の解釈 平成28年4月版)

調剤報酬請求業務 Q&A 質問用紙

調剤報酬請求業務についてご質問事項がございましたら、下記までご質問を受付致します。
薬局名・電話番号・担当者名を必ずご記入ください。

質問受付メールアドレス
nagamine@okiyaku.or.jp

FAXにてご質問いただく場合は、このページをコピーしてご利用ください。
FAX返信先：**098-963-8932**

薬局名		電話番号	
担当者		メールアドレス	
【ご質問事項】			

第30回 暮らしの中の薬草学 身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

ギンネム：ギンゴウカン：ニブイギ

学 名 *Leucaena leucocephala*(Lam.) de Wit
科 名 マメ科 Fabceae
属 名 ギンゴウカン属 *Leucaena*
使用部位 葉、茎、種子
有効成分 ミモシン、蛋白質、セレン
カルシウム、鉄、カリウム



ギンネムの特徴

ギンネムは、銀合歡（ギンゴウカン）、沖縄方言でニブイギとも言い、マメ科の落葉低木。中南米が原産だが、世界中に移植され現在世界のあらゆる熱帯、亜熱帯のアルカリ土壌地帯に繁茂している。

鳥の羽のような葉（2回偶数羽状複葉）を持つ。小葉は20～30枚あり、長楕円、長さ0.7～1.2cmで裏面は緑白色。葉や小葉は、熱や寒さ、水欠乏により閉じる。花はほぼ通年開花し、球形、径2～5cmの頭状花序になり香りのある白花が密生する。花は自家稔性で、種子はほぼ自家受粉により得られる。1つの花から10程の莢^{さや}ができ、莢の中に約20個の種子ができる。果実は長さ12～18cmの扁平な莢で、褐色に熟す。豆果は重力散布で散布力は弱い。大量の埋土種子を形成し、種子から容易に発芽する。

樹高は日本に定着した種は1-5mと低めに留まるが、品種によっては10m程度まで高くなる。日当たりの良いやや乾燥したところを好み、深根性で、その根から水を吸い上げるため旱魃に強く、また痩せた土地も厭わない生命力の強い木である。薪は灰や煙を出さない良質の炭となる。

ギンネムの歴史

沖縄や小笠原諸島で群落をつくるが、帰化植物で、スリランカから1910年に緑肥植物として、沖縄の国頭農学校に導入されたのが最初である。八重山列島には、1932年に八重山農林学校の初代校長が、燃料用の薪材にする目的で導入したと伝えられ、小笠原諸島では、戦時中に急造の軍事施設を隠すのに植樹したことから広がった。ミクロネシアなどでは、アメリカ軍が第二次世界大戦による荒廃地を緑化するため、空中から種子を散布した。樹齢が長く、葉や莢は飼料として栄養価が高く、食用や緑肥、薪炭材など多用途があることから、1970年代～1980年代初頭にかけては“奇跡の木”として知られた。一時期、世界各地に導入されたが、在来植物種を駆逐するため、現在では排他的侵入植物として、国際自然保護連合の種の保全委員会が作成した世界の侵略的外来種ワースト100にリストアップされている。

参考 亜熱帯植物資源データベース、薬用植物一覧、日本大百科全書、鳥取大学乾燥地研究センター、株)琉球バイオリソース

ぎん茶12g当たり（熱量～ナトリウム）日本食品分析センター（リン～セレン）琉球大学農学部測定結果

熱量	蛋白質	糖質	脂質	ナトリウム	リン	マグネシウム
12 kcal	1 g	2 g	0.2 g	3 mg	16 mg	18 mg
カリウム	カルシウム	マンガン	鉄	銅	亜鉛	セレン
168 mg	30～60 mg	528 μg	132 μg	90 mg	1.75 mg	1.5 μg

ギンネムの有効成分

ギンネムは、豊富なカルシウムやリン、カリウム、マグネシウム、鉄分、セレンなどを含む。また、蛋白質含有量が高く、単位面積当たりのバイオマス生産高は植物界最大である。食物繊維も多い。ミモシンmimosineという有毒アミノ酸を含有している。

参考：琉球大学農学部

生体内のセレン (Se)

セレンはセレノシステインとしてタンパク質に組み込まれる。セレンはビタミンEやビタミンCと協調して、活性酸素やラジカルから生体を防御すると考えられている。欠乏量と中毒量の間の適正量の幅が非常に狭い。

セレン過剰症：悪心、吐き気、下痢、食欲不振、頭痛、免疫抑制、高比重リポ蛋白 (HDL) 減少などの症状がある。**欠乏症**：貧血、高血圧、精子減少、ガン（特に前立腺ガン）、関節炎、早老、筋萎縮、発性硬化症などが知られている。ただし、ヒトにおいて、セレン単独の欠乏症状は確認されていない（動物実験レベルではセレン単独の欠乏症状が認められている）。VEなどと協調して働くため、両栄養素の欠乏の相乗作用により現れると考えられる。

血液中のセレン濃度と前立腺ガンの相関性が指摘されており、血液中セレン濃度の低下は前立腺ガンのリスクファクターと言われる。セレンの補充は前立腺ガンのリスクを軽減するとの報告もある。一方、取り過ぎは前立腺ガンのリスクを軽減しないが、皮膚がんのリスクを高めると言われる。参考：wikipedia

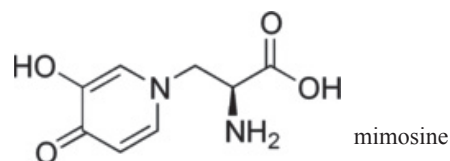
ギンネムに含まれるミモシン

ギンネムの茎や葉・芽にミモシンという有毒アミノ酸を含有していて、家畜がこれらを摂取し過ぎると脱毛、繁殖障害、成長阻害といった弊害が出る。人に対しても同様で、小笠原諸島に取り残された兵隊が本種の種子を食べ、全員残らず丸ハゲになったという逸話がある。ミモシンはアレロパシー（植物が化学物質を生産・排出し、周囲の植物に影響を与える）物質として、本種を食害する昆虫に対する忌避成分としても作用するが、ギンネムキジラミというヨコバイ亜目キジラミ科の昆虫はミモシンを分解する酵素を有しているので、ギンネムを食害する強力な天敵となっている。

ギンネム有効成分で高付加価値産物を開発

ギンネムの無毒化：ギンネム茎葉部を海水あるいは0.05N酢酸ナトリウムに浸漬すると95%以上のミモシンを溶脱させることができ、また、ミモシンをイオン交換樹脂、限外ろ過法により97%以上の純度で簡単に廃液中から精製する方法を確立した。無毒化ギンネム中の蛋白、脂肪、炭水化物などの栄養分には変化がなく、ミモシンのみが除かれることによりギンネムの総合的有効利用法が可能となった。

ミモシン分解酵素の精製法：ギンネム群落内の土壌中のミモシン資化性菌（器質を有用物質に変える）のスクリーニングを行った結果、唯一ミモシンを完全に資化する菌D6-27を選出することが出来た。この菌にはミモシン分解酵素の存在が確認され菌体内酵素であることが認められた。ミモシンの添加がない場合、本酵素活性の誘導は認められず、誘導型酵素であることが明らかとなった。



ミモシンの生理活性

- ・脱毛現象
- ・植物成長抑制
- ・チロシナーゼ阻害（美白効果）
- ・タンパク合成阻害
- ・細胞周期のReversible late-G 1 bloker
- ・DNA合成阻害
- ・ヒト肺がん細胞増殖抑制

ミモシンのインフルエンザ予防効果

ギンネムの葉の抽出液にインフルエンザの感染・発症を抑える効果（ノイラミニダーゼ阻害活性）があることを見出した。その成分も分離・分析して構造解析し、ミモシンであることを確認、さらにミモシンの小分子ペプチド合成による強力なノイラミニダーゼ阻害剤が探索され、ミモシン-FFYは高いノイラミニダーゼ阻害作用が確認された。

参考：学位論文ATUL-UPADHYAY

多和田真吉琉球大学農学部、wikipedia

抗酸化作用：ミモシン・ミモシン含有ペプチドは強い抗酸化力を持つ。参考：軒原清史論文



『なんくるないさー』

挫けずに正しい道を進むべく努力すれば、いつかいい日がある。

とくりん薬局
座覇 里奈

馴染み深いこの方言が、楽観的な‘なんとかなるでしょ’という意味ではないのだと知った時、軽い衝撃を受けました。私がこの方言の意味を思い出したきっかけは、大学入学を機に北海道で生活するようになってからです。

沖縄にいた頃は‘なんとかなるでしょ’精神の元で行動してきましたが、親元を離れて生活し、数々の失敗をしていくうちに、自分の考え方の甘さや責任感の欠け、対応力の低さを思い知らされてきました。

大学二年の夏休み「りーなー、今日空港でめっちゃ名前呼ばれてなかった？」とFacebook上にコメントが来た時の体験もそのうちの一つです。

夏休みに浮き足立つ気持ちを抑えつつ、何とか前期試験をクリアした私は、帰省するために成田空港で乗り継ぎを待っていました。しかし、長い待ち時間を持て余し、ウォークマンで音楽を聞きながら読書するというスタイルで待機。今ではこれが最大の原因だったのではと思っているのですが、空港内の呼び出しアナウンスに全く気づかず読書に励んだ結果、搭乗時間を1時間以上もオーバーしていました。ふと時計を確認した時には後の祭り、で、「え！？！？いやいや…え！？！？」と脳内大パニック、冷や汗と動悸が止まらなかった事を今でも覚えています。取り敢えず、空港スタッフに事情を説明し、次の便を予約しようとしたのですが、運の悪い事に最終

便だったことが判明。さらに最悪な事に、‘何とかかなるでしょ精神’を根底に備えていた私は、沖縄帰るだけだし…！と、所持金は100円のみ。空港のATMは朝7時からしか使用できないと説明され、その瞬間「これは何とかならないわ…。」と心底落ち込みました。

こうして空腹を覚悟し成田空港に泊まることになったのですが、この時の成田空港の第2ターミナルは、不幸中の幸いにも意外と泊まる人も多く、交番もあった為か、私が想定していた‘やたらと広い殺風景の中で、夜中の冷えに耐える’という試練のような感じはありませんでした。夜には警察官の方が宿泊する人達の名前と連絡先を訪ねて周り、毛布まで貸して頂けるという親切さ！これには物理的にも精神的にも暖まることが出来き、何処でも爆睡出来る私は何事も無く翌日を迎えることができました。

無事に飛行機にも乗れて帰省したのですが、沖縄に帰ると勿論、親・友人に叱られ（笑われ？）、本当に迷惑と心配をかけてしまったのだと再度猛省しました。

こういう失敗をする度、何とか直そうと試みていますが、改善出来ていない点も多く、未だに‘なんとかなるでしょ’精神が顔を出す事があります。その時は、‘なんくるないさー’という言葉の意味を思い出し、自分が楽観的な見通しで物事を測っていないかを考え、事前にすべき事をしているのか確認するよう心がけていきたいです。

次号には、石井 秀典 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

薬連だより

国会レポート ～平成29年度予算案～

自由民主党総務副会長・参議院議員・薬剤師
藤井 もとゆき



年明けの日本列島は穏やかな晴天に恵まれ、全国各地で初日の出を拝むことが出来たのではないのでしょうか。米国では1月20日にトランプ新大統領が誕生します。新大統領の政権運営は未知数ですが、経済政策への期待から年明けの株式市場は日米とも大幅な上昇で幕開けしました。米国の政権運営は我が国の経済・外交等への影響も少なからず、今後の動向が注目されるところです。また、新春恒例の箱根大学駅伝は、大会3連覇を狙う青山学院大学が2位以下に7分以上の差をつけて圧勝し、黄金時代到来を予感させる結果となりました。

さて、平成29年度の政府予算案は昨年末の22日に閣議決定されました。一般会計予算の歳出総額は、前年度当初予算より7329億円増加して97兆4547億円となり、5年連続で過去最大規模となりました。また、厚生労働省の一般会計予算総額は、前年度当初予算比3763億円増の30兆6873億円となりました。

このうち社会保障関係費については、医療の約11兆7700億円、年金の約11兆4200億円など、政府全体で前年度当初予算に比べ約4997億円増の32兆4735億円となりました。厚生労働省が概算要求時に示した高齢化に伴う、年金・医療等の約6400億円の自然増に対しては、経済・財政再生計画の「改革工程表」等に沿って、高額療養費や高額介護サービス費の見直し、後期高齢者の保険料軽減特例の見直しなど、世代間の負担の公平性や負担能力に応じた公平な負担とすることにより約440億円、

高額な薬剤の薬価引き下げによる医療費の適正化で約196億円、被用者保険の介護納付金に対する総報酬割りへの導入により約443億円をそれぞれ圧縮、さらに協会けんぽ超過準備金の国庫補助の負担削減分の約321億円を加え、社会保障費の伸びの目安とした5000億円以内に収める結果となりました。

また、オプジーボに端を発した経済財政諮問会議での薬価の毎年改定の議論は、厚労大臣、財務大臣、経済再生担当大臣及び官房長官による4大臣会合において、効能効果等に伴う一定規模以上の市場拡大に速やかに対応するため年4回の新薬収載を活用して見直すこと、市場実勢価を適時薬価に反映して国民負担を軽減する観点から、現在の2年に1回の薬価調査に加え、その間の年においても大手事業者対象に調査を行い、価格乖離の大きな品目（具体的内容は今年中に結論を得る）の薬価改定を行うこと、等を盛り込んだ「薬価制度の抜本改革に向けた基本方針」を決定し、12月21日の同会議に報告されました。今後は中央社会保険医療協議会において、具体的な方法等について議論が行われることとなりますが、医療の制度や実情に則した適切な結論が導き出されるものと思います。

平成29年度の政府予算案については、1月末に召集される第193回通常国会において審議されますが、医療や介護の充実等、高齢者や社会的弱者が安心して暮らせる社会を築くため、しっかりと取り組んで参りたいと思います。

藤井もとゆきホームページ <http://mfujii.gr.jp/>

日薬通達

セルフメディケーション税制（医療費控除の特例）に関して、厚生労働省医政局経済課から本税制に関するQ&A が公表されました。同Q&A では、本税制の運用に際して、一般、製造販売業者、小売業者向けに解釈が示されており、厚生労働省ホームページからも閲覧可能です。

セルフメディケーション税制（医療費控除の特例）について（厚生労働省ホームページ）

厚生労働省トップページ＞ 政策について ＞ 分野別の政策一覧 ＞ 健康・医療 ＞

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000124853.html>

セルフメディケーション税制に関するQ&A

（平成28年12月7日現在）

＜一般の方向け＞

【セルフメディケーション税制について】

Q1 セルフメディケーション税制とはどんな制度ですか。

適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、健康の維持増進および疾病の予防への取組として一定の取組を行う個人が、平成29年1月1日～平成33年12月31日までの間に、自己又は自己と生計を一にする配偶者その他の親族に係る特定成分を含んだOTC医薬品（いわゆるスイッチOTC医薬品）の購入の対価を支払った場合において、その年中に支払った対価額の合計額が1万2千円を超えるときは、その超える部分の金額（上限：8万8千円）について、その年分の総所得金額等から控除する新税制です。

Q2 創設の目的はなんですか。

国民のセルフメディケーションの推進を目的としています。セルフメディケーションはWHO において「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当すること」と定義されています。セルフメディケーションを推進していくことは、国民の自発的な健康管理や疾病予防の取組を促進することはもちろん、医療費の適正化にもつながります。

Q3 従来の医療費控除との関係はどのようになっていますか。

セルフメディケーション税制（医療費控除の特例）による所得控除と、従来の医療費控除を同時に利用することはできません。購入した対象医薬品の代金に係る医療費控除制度については、従来の医療費控除制度とセルフメディケーション税制のどちらの適用とするか、対象者ご自身で選択することになります。

【申告方法について】

Q4 確定申告はいつ行えばいいですか。

確定申告をする必要がある方は2月中旬から3月中旬の定められた期間に確定申告を行う必要があります。（確定申告の具体的な手続きについては、お近くの税務署や国税庁のホームページ等でご確認下さい。）

Q5 同一世帯の中に、従来の医療費控除により申告する人と、この税制により申告する人がいて構いませんか。

それぞれが所得控除を申告することができます。

【対象の医薬品について】

Q6 対象の医薬品はどんなものですか。

医師によって処方される医療用医薬品から、ドラッグストアで購入できるOTC医薬品に転用された医薬品(いわゆるスイッチOTC 医薬品)です。本税制の対象となるOTC 医薬品(約1,500 品目)は厚生労働省のHP で掲載しているほか、一部の製品については関係団体による自主的な取組により、対象医薬品のパッケージにこの税制の対象である旨を示す識別マークが掲載されいます。

※なお、薬局製造医薬品(薬局製剤)においても、対象成分を含有する品目がありますが、こちらは本税制の対象外となります。

【健康診査等の証明について】

Q7 「健康の保持増進及び疾病の予防への取組として一定の取組」の「一定の取組」とはなんですか。

申請者が申告対象の1年間(1～12月)に、「租税特別措置法施行令第26条の27の2第1項の規定に基づき厚生労働省大臣が定める健康の保持増進及び疾病の予防への取組(平成28年厚生労働省告示第181号)」に規定する健診や予防接種等(※)を受けることです。

(※) 具体的には、以下のものが該当します。

- ・ 保険者(健康保険組合、市町村国保等)が実施する健康診査(人間ドック、各種健(検)診等)
- ・ 市町村が健康増進事業として行う健康診査(生活保護受給者等を対象とする健康診査)
- ・ 予防接種(定期接種又はインフルエンザワクチンの予防接種)
- ・ 勤務先で実施する定期健康診断(事業主健診)
- ・ 特定健康診査(いわゆるメタボ健診)又は特定保健指導
- ・ 市町村が実施するがん検診

※市町村が自治体の予算で住民サービスとして実施する健康診査は対象になりません。

なお、これらのうちのいずれか1つを受けていればよいので、全てを受ける必要はありません。取組を実施したことの証明書類については、HPの「4 健康の保持増進及び疾病の予防への取組(一定の取組)の証明方法について」をご覧ください。

Q8 一定の取組に、任意(全額自己負担)で受けたものは含まれますか。

申請者が任意に受診した健康診査(全額自己負担)は、「一定の取組」に含まれません。

Q9 「一定の取組」の証明方法に必要な証明書類はなんですか。

Q7でお示した「一定の取組」にあたる健診や予防接種等を受けた結果、発行される「領収書」または「結果通知表」を御提出ください。

当該書類には、以下の記載が必要です。

①氏名、②一定の取組を行った年、③保険者、事業者若しくは市町村の名称又は医療機関の名称若しくは医師の氏名。

なお、結果通知表は写しによる提出が可能であり、健診結果部分は不要であるため、可能な限り、黒塗りや該当箇所の切り取りを行ってください。健診等にかかった費用に係る領収書を用い

る場合には原本提出が必要です。

また、以下の場合には、領収書や結果通知表のみでは、任意（全額自己負担）で受けたものと
の区別ができず、「一定の取組」を行ったことを証明することができないため、事業者又は保険
者に別途証明書の発行を依頼してください。

- ・勤務先の定期健康診断を受診したが、結果通知表に、「定期健康診断」又は「勤務先（会社等）」の記載がない場合。
- ・特定健康診査等を受診したが、領収書や結果通知表に、「特定健康診査」又は「保険者名」の記載がない場合。
- ・保険者が実施する健康診査を受診したが、結果通知表に、「保険者名」の記載がない場合。

※詳細は、HPの「4 健康の保持増進及び疾病の予防への取組（一定の取組）の証明方法について」に掲載のチャートをご覧ください。

Q10 健康診査等の再診査（要再検査や要精密検査等）も含まれますか。

健康診査等の結果により、要再検査や要精密検査等と判定されて受けた検査等は、対象になりません。

Q11 健康診査等は同一世帯の全員が受診しなければいけませんか。

確定申告をされる方が「一定の取組」を実施していることが必要です。

【その他】

Q12 対象の医薬品を通信販売等で購入する際、支払い日が平成29年1月1日以降の場合、この制度の対象になりますか。

支払い日が施行日以降である場合は対象となります。

Q13 控除の対象となる額は税込みか税抜きかどちらでしょうか。

実際に支払った税込み後の価格が控除の対象となります。

Q14 ドラッグストアで一律〇%引きのセールが開催されている場合、控除額はどのような取扱いになるのでしょうか。

割引後の価格が控除額となります。

Q15 購入した証明書類をなくしてしまった場合はどうすればいいですか。

セルフメディケーション税制を活用される場合は、必要事項を記載した領収書が必要ですので、購入した薬局等でレシートの再発行をしていただく必要があります。
また、証明書類に対象医薬品の目印が付けられていない場合も同様です。

Q16 平成29年1月1日以降に新たにリストに追加された品目については、平成29年1月1日以降の購入であれば、リスト掲載前の購入であっても税制の対象になりますか。

対象となります。

＜製造販売業者の方向け＞

Q17 新規登録・変更時の届出書は、毎回全品目記載が必要ですか。

毎回、全品目を記載する必要はありません。変更になった品目のみ、変更内容が分かるように記載してください。

Q18 控除の申告は5年を遡って行うことが可能ですが、発売中止となった対象品目はいつリストから削除されますか。

削除した項目を対象品目リストと別の表で掲載しておりますので、5年後も確認は可能です。

Q19 製造販売承認の承継により、製造販売元が変更となった場合、届出は必要ですか。

承継により新たな製造販売元となった製造販売業者は、当該品目を追加する旨を記した変更届を提出してください。また、承継により製造販売を中止する製造販売元は、削除の方法に従い、変更届を提出してください。

Q20 セルフメディケーション税制対象品目リストは2か月に一度更新されることとされていますが、届出から更新までの間も税制対象製品としてみなさまに周知したり、レシート等に印字してもよいですか。

この税制の該当成分を含有する要指導・一般用医薬品であれば、リスト掲載までの期間であってもこの制度の対象となります。

＜小売り業者の方向け＞

Q21 レシート等には、どのような情報の記載が必要ですか。

①商品名、②金額、③当該商品がセルフメディケーション税制対象商品である旨、④販売店名、⑤購入日の明記が必須となります。

Q22 1年分の購入リストとして、「商品名、金額、税制対象である旨、販売店名、購入日」を明記した書類を当社にて作成して提供し、そのリストを確定申告に使用していただくことはできますか。

販売した業者が必要事項を記入して作成した書類であれば申告時に使用していただけます。

Q23 レシート又は領収書の再発行の要望があった場合、どのように対応すればよいですか。

購入された店舗において、購入の事実を確認できる場合に、レシート又は領収書を発行する等の対応をとっていただきますようお願いします。

Q24 商品名等が長くなってしまう場合、レシート等に省略して記載しても構いませんか。

商品名等が長く、分量の関係からレシートに印字できない等のやむを得ない場合には、事務連絡でお示ししている必要事項が記載されている限り、レシート等に商品名を省略をして記載することは問題ございません。

ただし、「胃薬」など完全に他の用語に変更することは認められません。

※ 日本薬剤師会雑誌2017年1月号（第69巻 第1号）5～7ページに、セルフメディケーション税制について詳細が掲載されていますので、ご参照ください。

日薬通達

正会員向け 保険制度のご案内

～平成29年2月15日から補償開始の保険加入受付中～

お届けした募集のご案内にてお手続きください。(旧年度以前の各種申込用紙は使用できません。ご注意ください。)
ご案内が届かない方で、保険の加入をご希望の場合は会計・厚生課 損害保険担当(03-3353-1190)までご連絡ください。

1. 薬剤師賠償責任保険

患者・消費者から法律上の損害賠償責任を問われたときに備えるための保険です。
例えば、以下のような事故がお支払対象となります。

【補償内容】

医薬品・商品等に係わる事故に関する補償	調剤した医薬品や販売した商品によって、また、患者・消費者に対して誤った情報提供によって、患者・消費者の身体を害した場合の損害賠償金や弁護士費用
初期対応の補償	調剤の誤りに伴い、患者に健康被害が発生するおそれがある場合、患者への見舞金や見舞品購入費用等
業務遂行中の事故の補償	患者に身体障害を負わせた場合、財物を損壊した場合の損害賠償金等
施設・設備に起因する事故(薬局契約のみ)	薬局の建物・設備に起因して生じた事故による損害賠償金等

【お支払いする保険金】

- ①法律上の損害賠償金
- ②被害者に対する応急手当、緊急処置などの費用
- ③訴訟となった場合の訴訟費用や弁護士報酬(損保ジャパン日本興亜の事前承認が必要です)
- ④患者対応に要する見舞金費用(加入プランによって) など

薬剤師の先生が事故により利用者および周囲との関係がこじれることを防ぐため、また、事故による精神的な不安を解消し安心して日常業務をしていただくためにも日本薬剤師会の薬剤師賠償責任保険制度のご加入をお勧めいたします。

2. 個人情報漏えい保険

偶然な事由により個人情報を漏えいしたこと、またはそのおそれがあることに起因して、法律上の賠償責任を負担することによって被る損害に備えるための保険です。

【お支払いする保険金】

- ①法律上の損害賠償金
- ②訴訟となった場合の訴訟費用や弁護士報酬(保険会社の事前の承認が必要です。)
- ③ブランドプロテクト費用(メディア対応費用、クレーム対応費用、事故対応費用など)

薬局には、センシティブな個人情報が集積しているため、万が一個人情報が漏えいした場合の補償に備え、日本薬剤師会の個人情報漏えい保険制度のご加入をお勧めいたします。

3. 休業補償保険・長期休業補償保険

病気やケガで働けなくなった場合の収入減少に備えるための保険です。

【補償内容】

種類	休業補償保険	長期休業補償保険
補償内容	病気やケガで、就業不能状態の場合にご契約の保険金額を補償します。 ・精神障害による就業不能も補償します。 ・先生や従業員が病気やケガにより就業不能となった場合、代行者を雇い入れるため必要となる費用を補償します(加入型によって補償)。	病気やケガで、就業障害状態の場合に最長満70歳(満65歳以上の方は3年間)まで収入の減少を補償します。 ・精神障害による就業障害も最長24ヵ月補償します。 ・一部復職でも補償(所得喪失率が20%を超えている場合)します。
補償期間	1年間(支払対象外期間7日間)	70歳まで(支払対象外期間372日間)

【お支払する保険金】

種類	休業補償保険	長期休業補償保険
支払対象外期間	支払保険金=ご契約保険金額×就業不能期間	支払保険金=ご契約保険金額×所得喪失率(20%超)×就業障害期間

【補償期間】



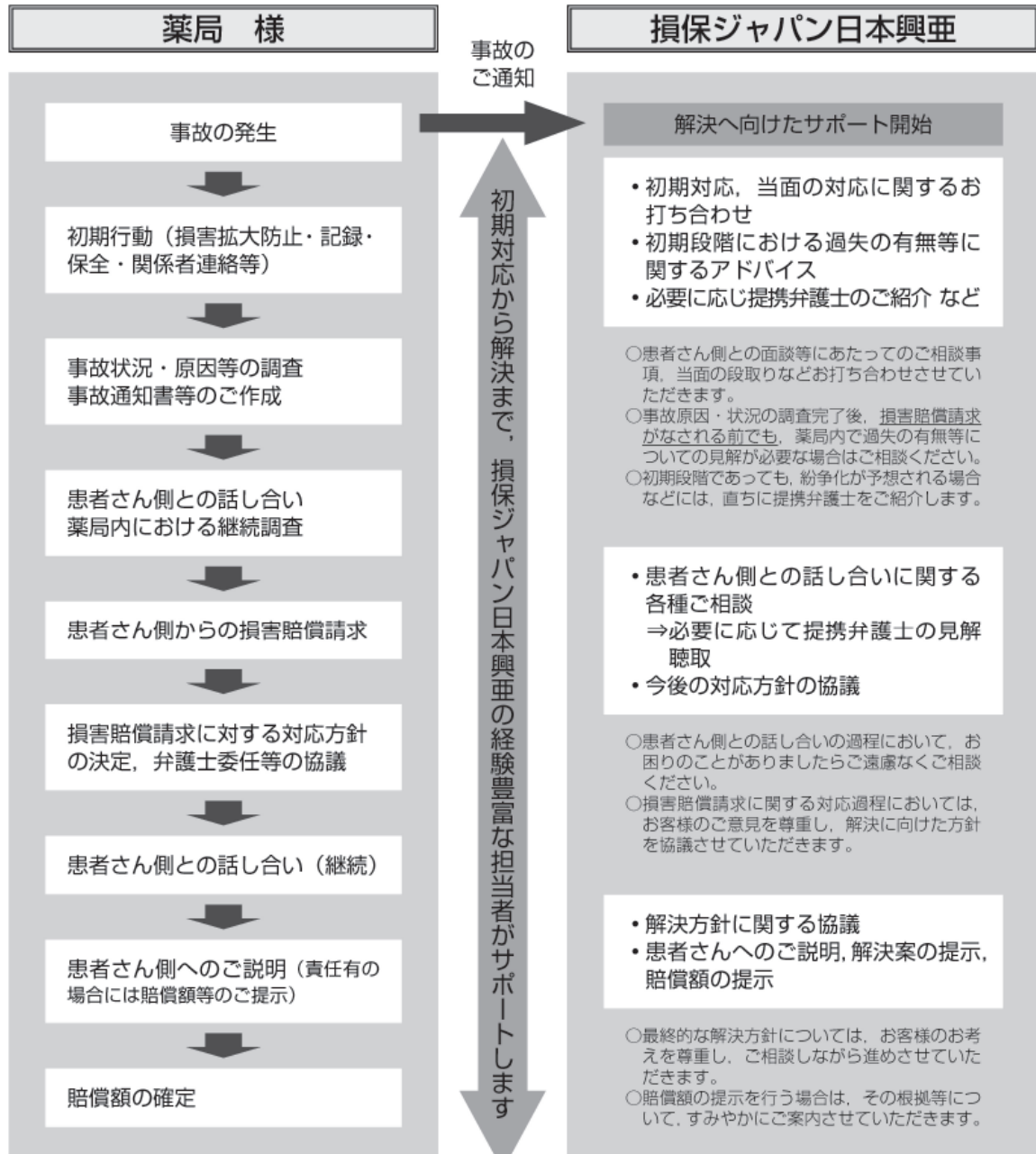
※両保険、いずれも加入した場合、補償期間が重複せず、リレー方式で支払対象となります。

薬剤師の先生が万が一病気やケガになった場合も、毎月の出費はなりません。
働くことが出来ない期間の公的補償は、必ずしも補償が十分とは言えないため、公的補償の補完として休業補償保険・長期休業補償保険制度のご加入をお勧めいたします。

事故が発生した場合の連絡先・必要書類等は、パンフレット「正会員向け保険制度のご案内」をご覧ください。

薬剤師賠償責任保険の事故解決までの流れと対応例

事故が発生しましたら、すみやかに損保ジャパン日本興亜へご通知をお願いします。
直ちに経験豊富な専任担当者が、円満解決に向けた事故解決のための対応を開始いたします。



示談終了，円満解決へ

＜本件に関するお問い合わせ先＞
取扱代理店 公益社団法人 日本薬剤師会 総務部 会計・厚生課 03-3353-1190
引受保険会社 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課 03-3349-9746

詳しい内容は、パンフレット『正会員向け保険制度のご案内』、または日本薬剤師会HP添付のパンフレットをご覧ください。

承認番号：SJNK16-10670 承認日：2016/10/21

国保・社保通達

沖縄県国民健康保険団体連合会より、平成29年度診療（調剤）報酬請求等の受付日等について、下記のとおり設定した旨のお知らせがありました。

沖縄県国民健康保険団体連合会 平成29年度 レセプト受付日と診療報酬等支払日

	レセプト受付 協力日	レセプト提出 締切日	診療報酬等の支払日	
			電子請求の 保険医療機関等	紙レセプト請求の 保険医療機関等
平成29年 4月	7日(金)	10日(月)	20日(木) (平成29年2月診療分)	28日(金)
平成29年 5月	9日(火)	10日(水)	22日(月) (平成29年3月診療分)	26日(金)
平成29年 6月	9日(金)	10日(土)	20日(火) (平成29年4月診療分)	28日(水)
平成29年 7月	7日(金)	10日(月)	20日(木) (平成29年5月診療分)	28日(金)
平成29年 8月	9日(水)	10日(木)	21日(月) (平成29年6月診療分)	28日(月)
平成29年 9月	8日(金)	10日(日)	20日(水) (平成29年7月診療分)	28日(木)
平成29年10月	6日(金)	10日(火)	20日(金) (平成29年8月診療分)	27日(金)
平成29年11月	9日(木)	10日(金)	20日(月) (平成29年9月診療分)	28日(火)
平成29年12月	8日(金)	10日(日)	20日(水) (平成29年10月診療分)	27日(水)
平成30年 1月	9日(火)	10日(水)	22日(月) (平成29年11月診療分)	26日(金)
平成30年 2月	9日(金)	10日(土)	20日(火) (平成29年12月診療分)	28日(水)
平成30年 3月	9日(金)	10日(土)	20日(火) (平成30年1月診療分)	28日(水)

※レセプトの提出締切は、10日(必着)です。(請求省令により毎月10日までと定められています)

※郵便等により送付される場合は、安全確実な方法にて毎月10日必着をお願いします。

※受付窓口は、午前9時から午後5時までです。

※12月は早期提出に御協力をお願いします。

【問い合わせ先】 沖縄県国民健康保険団体連合会 審査課 TEL 098 - 863 - 2473

国保・社保通達

社会保険診療報酬支払基金沖縄支部より、平成29年度診療（調剤）報酬請求等の受付日等について、下記のとおり設定した旨のお知らせがありました。

社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 平成29年度 診療（調剤）報酬請求書等受付 並びに返戻レセプト等発送予定日

受付月	受付締切日	備 考	返戻等発送予定日
平成29年 4月	10日（月）	8日（土）事務所を開所	4月4日（火）
5月	10日（水）		5月1日（月）
6月	10日（土）	10日（土）事務所を開所	6月5日（月）
7月	10日（月）	8日（土）事務所を開所	7月4日（火）
8月	10日（木）		8月4日（金）
9月	10日（日）	9日（土）・10日（日）事務所を開所	9月4日（月）
10月	10日（火）	9日（月祝）事務所を開所	10月3日（火）
11月	10日（金）		11月6日（月）
12月	10日（日）	9日（土）・10日（日）事務所を開所	12月4日（月）
平成30年 1月	10日（水）		1月4日（木）
2月	10日（土）	10日（土）事務所を開所	2月5日（月）
3月	10日（土）	10日（土）事務所を開所	3月5日（月）

※受付業務は、午前8時30分から午後5時30分までとしておりますので、ご協力方お願いします。

※診療（調剤）報酬請求書等の提出は、厚生労働省令により毎月10日までとなっています。

【問い合わせ先】 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 TEL 098 - 836 - 0131

平成28年度 第4回定例理事会 議事概要

日時：平成28年7月9日(土) 19:00～21:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

＜出席者＞

会 長：亀谷浩昌

副 会 長：江夏京子、外間惟夫

理 事：山里 勇、村田美智子、我喜屋美香、川満直紀、成川賢一、佐藤雅美、姫野耕一、
下地 仁、幸地良信、荒井千春、吉富弓江、吉田洋史、川上善久（南部地区薬代理）

欠 席：前濱朋子、宮城敦子、笠原大吾、石川恵市

事 務 局：大城喜仁、松堂恵美

議題

(1) 相談役の選任について（神村武之氏）

＜資料配布＞

（亀谷会長）

定款上理事経験者から3名を相談役とする。現在は金城保景先生、新垣正次先生、我喜屋宏先生である。金城保景先生がご高齢であることから、今回交代して神村武之先生にご就任頂きたいと考えるがどうか。神村先生は役員経験も豊富である。

賛成多数で承認された。

(2) その他

（川満常務理事）

那覇警察署よりテロ対策の為、爆発物の原料となる薬品の購入者がいた場合、購入者リストを提供してほしいとの依頼が那覇地区薬剤師会へあった。現在那覇警察署の方が那覇地区の薬局を個別に訪問しており、薬局から地区薬に協力依頼した方が効率的ではないかとのアドバイスがあったそうである。那覇地区薬としては会員に関してFAX一斉同報にて協力依頼をし、ドラッグストア等会員でない店舗に関しては警察署より依頼してもらったかどうかと考える。内容的に那覇地区薬だけでなく、全県対象とした方が良いので、会員向けに一斉同報をして良いか伺いたい。

（吉富理事）

警察へ提供する購入者の情報はどの範囲までか。

（川満常務理事）

氏名、住所、できれば電話番号まで。しかし、リストの提供があってもすぐに購入者を訪問することはない。内偵等を行い薬局へは迷惑をかけないようにするとのことである。

（吉富理事）

対象の薬品を見ると、必ずしも毒物劇物でないものも含まれている。毒物劇物であれば譲受書に記載してもらえるが、それ以外の薬品購入者については、どのように情報を集めるのか。

（川満常務理事）

警察署としては、テロ対策期間中であることを説明して記名をもらうなどして、そういう薬品購入者についてもできれば情報を提供してもらいたいそうである。

検討した結果、那覇警察署からの協力依頼を周知するFAXをすることとした。今後、那覇地区薬とも適宜話し合い、警察署よりさらなる協力依頼があれば、その都度対応していくこととする。

(川満常務理事)

那覇市役所より頻回受診者への訪問指導をしてほしいとの依頼があった。3役会で議論したが、那覇地区薬としては全てを丸投げされては日中の訪問等も多く難しいことから、今後も那覇市と検討を重ねていく予定。詳細が決まってきたら県薬にも報告する。

(吉田理事)

前回の総会で北部地区薬から、県薬として推薦するものは日薬版電子手帳か、またその電子手帳普及の為、使用料等の補助を出す考えはあるか、との質問があった。県薬としてはもちろん日薬版を推薦しているが、補助金等の予定はないと回答した。しかし、県内での電子手帳普及状況をかながみると、すこやか薬局グループや日本調剤グループは会社独自の手帳を使用している。無料版のものを使用している薬局もある。日薬の電子手帳を利用している薬局はほとんどない。この状態で今後日薬版電子手帳の普及をどうバックアップしていくべきか。意見を伺いたい。

補助等の件も含め、今後情報を集めて継続して検討していくことになった。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

<資料配布>

(2) 健康とおくすり相談会

6月12日(日) サンエー那覇メインプレイス

<資料配布>

(姫野理事)

これまでの相談会では相談員数が5～6人程度であった。しかし今回は昨年度の調剤報酬改定で新設された「かかりつけ薬剤師」の要件の一つである「医療に係る地域活動の取組」に相談会が該当する為、相談員が18人と多かった。相談者は58人であったが相談内容も幅広く人も切れ目なく続きさばくのが大変であった。今回の相談会を受け、先日の三役会で今後の相談会では当日の相談会がスムーズに行えるよう事前に相談員向けのオリエンテーションを開催することとした。

(3) 中部地区薬剤師会総会・特別研修会

6月12日(日) 沖縄市福祉文化プラザ

(佐藤理事)

総会へは46名参加した。前年度の活動報告及び決算報告、今年度の活動計画及び予算案について説明され、承認を得た。総会后「医療用麻薬の基礎知識」と題して中頭病院薬剤師の島袋朝太郎先生にご講演頂いた。大変分かり易い内容で、会員からも好評であった。その後の懇親会にも30人ほどの参加があり、例年になく盛況であった。

(4) 健康サポートに関する打合せ

6月15日(水) 県庁

担当理事欠席の為、次回報告とする。

(5) スポーツファーマシスト活動に関する意見交換会

6月15日(水) 県薬

<資料配布>

担当理事欠席の為、次回報告とする。

(6) 平成28年度沖縄県薬物乱用防止協会総会・表彰式

6月16日(木) 県薬

<資料配布>

担当理事欠席の為、次回報告とする。

(7) 平成28年度沖縄県警察官友の会役員会（総会）・懇親会

6月16日(木) サザンプラザ海邦 <資料配布>

(大城課長)

大城監事が参加した。

(8) 沖縄県子どもの未来県民会議第1回県民会議

6月17日(金) 県庁 <資料配布>

(亀谷会長)

沖縄県が子どもの貧困率全国1位であることより、その対策を考える会議を立ち上げる必要があるとのことで開催された。会議では沖縄県の子どもの貧困実態調査及び沖縄県子どもの貧困対策計画、沖縄県子どもの未来県民会議設立等について提案があり、賛成多数で採決された。活動については、広く寄付を募って事業を行う予定である。

(9) 沖縄県薬剤師会第74回通常総会・懇親会

6月19日(日) 県薬

(亀谷会長)

滞りなく終了した。

(10) 平成28年度「健康づくり支援事業」第1回推進委員会

6月22日(水) 沖縄県総合福祉センター <資料配布>

(事務局)

吉田久子氏が出席した。沖縄県老人クラブ連合会主催で毎年「リーダー養成講習会」が開催され、薬剤師会からも講師を派遣している。今年は南部地区薬が担当予定の為、地区薬会長の新垣先生に講師の推薦を依頼し、あにも調剤薬局の阪本崇彰先生が「薬の正しい使い方」について講演する予定である。

(11) 沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊

6月23日(木) ひめゆりの塔構内 <資料配布>

(亀谷会長)

毎年薬剤師会、医師会、歯科医師会（歯科医師会は昨年より）より供花をしている。また、県薬会員の久場トヨ先生、長田紀昭先生はご尊父の長田紀助氏が合祀されている為毎年ご参拝されている。今年も両氏及び長田先生ご子息の長田紀与志氏とともに当会より会長、神村武之氏、康江氏、宮城常務理事、吉田洋史理事が参拝、慰霊した。

(12) 医療保険委員会

6月23日(木) 県薬 <資料配布>

(川満常務理事)

7月3日にてだこホールにて開催された「平成28年度調剤報酬請求業務講習会」についての打ち合わせを行った。

(13) 日薬総会 決算委員会

6月24日(金) 日薬

(亀谷会長)

日薬総会に提出される決算報告書について審議、承認する委員会である。今回九州ブロックからは福岡県薬と沖縄県薬から委員として出席した。一般会計については滞りなく承認された。また特別会計の薬剤師年金の不足分について話が出たが、日薬の担当理事からは現時点では問題ないとの説明であった。

(14) 日本薬剤師会 第87回定時総会 6月25・26日(土・日) ホテルイースト21東京 <資料配布>

(亀谷会長)

江夏常務理事とともに出席。昨年度の事業報告のほか、決議事項として昨年度決算承認の件、理事選任の件、監事選任の件、代議員選挙管理委員会委員委嘱の件について説明、審議され、賛成多数で承認された。詳細は後日発行される日薬会報を読んでほしい。

(15) 平成28年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動

6. 26ヤング街頭キャンペーン 6月25日(土) 県内各所

(大城課長)

例年各地区薬担当地域で開催され、本部は県庁前広場にて活動していたが、本部担当箇所がなくなり、各地区薬での開催となった。今回はこの活動が「かかりつけ薬局」要件の「医療に係る地域活動の取組」に該当することもあり、例年より参加者が多かったとのことである。

(16) 北部地区薬剤師会総会

6月25日(土) ホテルゆがふいんおきなわ

(成川理事)

現会長体制になってから1年での総会であり、滞りなく終了した。

(17) 学校薬剤師部会 支部長会

6月26日(日) 県薬

担当理事欠席の為、次回報告とする。

(18) 第44回沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会総会・講演会

6月26日(日) 県薬 <資料配布>

担当理事欠席の為、次回報告とする。

(19) 無菌調剤室共同利用に関する講習会と在宅医療のための無菌調製実践講座

6月26日(日) 会営薬局うえはら <資料配布>

(荒井理事)

1回目を6月26日に開催した。同講習会2回目を7月10日にも行う。講習会後アンケートを実施しており、その結果は後日理事会に提出する予定である。

(20) 南部地区薬剤師会総会

6月26日(日) (株)アトル 沖縄営業部

(川上南部地区薬代理)

昨年度事業報告及び今年度事業計画について審議し、承認された。また昨年度は南部地区医師会と連携して研修会を開催したが、今後も続けていきたいと考えている。地区薬の法人化については今後も引き続き検討していくこととなった。

(21) 日薬有功賞伝達表彰

6月27日(月) 県薬

(大城課長)

今回は宜野座安伸先生と平尾秀子先生が受賞され、県薬総会懇親会の場で表彰式を行った。しかし当日平尾先生は参加できなかったため、後日伝達表彰を行った。

(22) 薬務疾病対策課来訪

6月28日(火) 県薬 <資料配布>

(亀谷会長)

現在「沖縄県後発医薬品安心使用促進協議会」の設立が予定されており、同協議会への委員推薦依頼があった。薬剤師会としては我喜屋常務理事を推薦したいと考えている。また先日一斉同報にてお知らせしているが、現在医療機関の重複受診による向精神薬の大量入手事案があり、その件についても話があった。県として現在該当者を内偵中であり、薬剤師会にも情報提供等協力をお願いしたいとのことである。

(23) 会報取材(大浜浩志氏へインタビュー)

6月28日(火) 沖縄県環境政策部部長室

(大城課長)

今回沖縄県の環境政策部部長に就任された薬剤師の大浜氏へインタビューを行った。

(24) 薬学生研修会(災害医療と薬剤師)

6月28日(火) 県薬

(我喜屋常務理事)

(32) も同時に報告。現在15人の学生が県内で実習を行っている。6月26日にはその学生向けに災害に関する研修会を開催し、東日本大震災及び熊本地震での活動内容等について講話した。

また7月4日には会営薬局医療センター前にて夜間救急対応の実習を行っている。

(25) 会計監査 6月29日(水) 県薬

(26) 沖縄県薬業連合会理事会・総会・懇親会 6月29日(水) 沖縄都ホテル <資料配布>
(亀谷会長)

総会では事業計画等の報告のほか次年度事業計画案等議案について審議、承認された。

(27) 個別指導 6月30日・7月7日(木) 県庁

(28) 第3回健康食品・サプリメントに関する研修会 6月30日(木) 県薬 <資料配布>
(亀谷会長)

全5回シリーズの研修会であり、好評であると聞いている。第3回目である今回は「サプリメントの種類と選択」というタイトルで当会会員の阪本崇彰先生(あにも調剤薬局・新生堂薬局琉球つかざん店)にご講演頂いた。

(29) 株式会社すこやかホールディングス 新社屋ビル 落成パーティー及び内覧会

7月1日(金) 新社屋ビル <資料配布>

(亀谷会長)

今回新社屋落成パーティーにご招待頂いた。近代的で明るい建物であった。すこやか薬局のサービスや薬局のデザイン等、県薬の会員にとっても参考になる部分が多いと思うので、注目している。

(30) 平成28年度第2回症例検討入門研修会 7月2日(土) 県薬 <資料配布>
(外間副会長)

「症例検討 開局編」と題して、大澤友二先生(福岡薬物治療研究会会長・九州大学薬学部非常勤臨床教授・元昭和薬科大学教授)にご講演頂いた。今回は76名(病薬4名、薬学生3名含む)の参加があった。昨年は40～50名だったので、だいぶ参加者が増えている。今年度第2回目であるが、1回目に基礎編を開催したことが良かったと思う。しかし1グループ約10～12名となり、この人数ではディスカッションを行うのが少々難しかった為、次回開催に向けて検討が必要だと考えている。

(31) 平成28年度調剤報酬請求業務講習会 7月3日(日) てだこホール <資料配布>
(川満常務理事)

共同指導・個別指導についてを吉田洋史理事、調剤報酬請求業務についてを仲真良重先生を講師として開催した。約1,400人の参加があり、盛況であった。今回新しく変わった部分もあり、今後質問等があれば対応していく。

(32) 薬学生 夜間救急実習 7月4日(月) 会営薬局医療センター前
報告(24)にてまとめて報告。

(33) 職場体験学習(那覇市立鏡原中学校) 7月5・6日(水・木) 会営薬局とよみ <資料配布>
(大城課長)

那覇市立鏡原中学校より依頼があり、会営薬局とよみにて3名の中学生の受け入れを行った。

(34) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 7月6日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

(35) 生涯学習フェスタ「しごとミュージアム」

7月6日(水) 沖縄コンベンションセンター <資料配布>

(大城課長)

薬剤師職能の啓蒙活動の一環として、毎年広報委員会ならびに青年部会と協同して参加している。また開催時期が薬学生実務実習期間中であることから、3年前より薬学生にも協力して

もらっており、今回も9名の薬学生の活躍があった。当日は高校生だけでも約2,700人もの参加があり、薬剤師ブースにも80余名の学生が訪れた。

(36) 未来の産業人材育成事業「職業人講話」に関する事前打合せ 7月7日(木) 県薬 <資料配布>
(亀谷会長)

沖縄県が推進している事業で、早い段階で子どもたちに職業に対する知識をつけさせ、未来を担う人材を輩出することを目的としている。7月14日に久米島町立久米島西中学校、19日に武富町立黒島中学校にて「職業人講話」(未来の産業人材育成事業)を行う。黒島中学校については八重山地区薬に依頼したが、講話が平日の日中であり講師の調整が難しかったため、今回は私が講話をすることとなり、その打ち合わせを行った。

(37) 平成28年度第1回医薬分業対策委員会 7月7日(木) 県薬 <資料配布>
(江夏副会長)

今年度の委員会の事業計画案確認のほか、開催予定の研修会等について話し合った。「医薬分業対策会議」は8月28日の開催が決定し、そのテーマとしては「診療報酬改定にともなう薬々連携のあり方」を予定している。「FAXコーナー担当者会議」は10月2日開催となった。また、「高度管理医療機器継続研修会」と、「医薬分業対策委員会主催研修会(SGD)」の開催日については調整中である。

(38) 卸勤務薬剤師会沖縄県支部理事会・総会・研修会・懇親会

7月8日(金) (株)琉薬 <資料配布>

(吉富理事)

まず理事会にて、昨年度の事業報告、決算報告、薬学生実務実習の受入報告、今年度の活動計画、予算案審議を行った。続く総会でも審議され承認を得た。不在であった幹事についても選出され、滞りなく終了した。また総会場で県薬の亀谷会長よりご挨拶を頂いた。会長が卸に対する薬の返品問題を危惧しているとの言葉があり、とても心強く感じた。卸では長年抱えている問題であり、今後何かしら改善していければと思っている。

(39) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について <資料配布>
(我喜屋常務理事)

薬剤師が不足し厳しい状況ではあるが、現場はもちろん輪番の先生方の協力もあり実習生や職場体験の受け入れを行っている。

(40) その他

(亀谷会長)

日本薬剤師会賞について、当会から推薦していた神村武之先生の受賞が決定した。今年の日薬大会にて表彰式が行われるので、ぜひ多くの会員が大会へ参加してほしい。例年日薬大会への参加補助金は出していないが、今年は九山大会が中止になったこともあり、検討中である。

報告(薬連)

(1) OCC訪問 6月14日(火) OCC
(亀谷会長)

藤井選挙への応援協力をお願いした。

(2) 参議院議員選挙 実務者会議 6月14・22・30日(火・水・木) 島尻あい子選対本部
(大城課長)

山城次長が出席した。

- |||||
- (3) 藤井もとゆき激励会 6月15日(水) 沖縄都ホテル
- (4) 島尻あい子「沖縄の子どものために」出版祝賀会 6月17日(金) パシフィックホテル沖縄
(亀谷会長)
神村顧問、吉田久子幹事長とともに参加した。
- (5) 渡嘉敷なおみ厚生労働副大臣との意見交換会 6月18日(土) 県薬 <資料配布>
(江夏副会長)
比嘉奈津美衆議院議員の企画により開催され、意見交換会を行った。
- (6) 自由民主党「一日政調会」 6月18日(土) 沖縄県歯科医師会
(亀谷会長)
OTC入手困難への対策や、離島の台風時の電力復旧優先機関の中に薬局も入れてほしい旨、要望した。
- (7) 沖縄県薬剤師連盟評議員会 6月19日(日) 県薬
(亀谷会長)
主に藤井選挙についての話し合いであった。
- (8) 都道府県薬剤師連盟担当者会議 6月21日(火) 品川プリンスホテル <資料配布>
(大城課長)
石川副幹事長及び山城次長が出席した。
- (9) 薬局訪問 6月22日(水) 北部・南部、27日(月) 石垣・宮古、7月6・8日(水・金) 那覇・浦添
(亀谷会長)
沖縄全域の薬局訪問を目標に、石垣、宮古を訪問した。地区薬のご協力を頂き、スムーズに薬局を回ることができた。
(大城課長)
南部地区薬では新垣理事と青年部会の名嘉紀勝先生が20薬局を訪問し、訪問できなかった27薬局へ電話をした。また、西原の方は川上善久先生が薬局訪問をしたとの報告があった。
- (10) 都道府県薬剤師連盟担当者会議 6月22日(水) 品川プリンスホテル
- (11) (株)薬正堂管理薬剤師会議訪問 6月26日(日) すこやか薬局ライカム店
(大城課長)
石川副幹事長と訪問した。佐藤理事にも参加して頂き、藤井選挙への協力願いをしてきた。
- (12) 島尻あい子・秋野公造 合同総決起大会 6月29日(水) 沖縄県立武道館
(事務局 松堂)
同日に薬業連合会総会があったため会長は参加できなかったが、神村顧問、城間・総務、他事務局より山城次長、大城課長とで参加した。約5,000人の参加があり、会場に入りきれずに会場の外へモニターが設置されるほどの盛況であった。
- (13) 「島尻あい子」ビラ配布 7月2日(土) 島尻あい子選対本部
(大城課長)
山城次長が参加した。
- (14) その他
(亀谷会長)
本日島尻あい子氏の打ち上げ式があり、山城次長を含め数名が参加している。

平成28年度 第5回定例理事会 議事概要

日時：平成28年8月13日(火) 19:00～21:40

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌

副 会 長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子

理 事：山里 勇、村田美智子、我喜屋美香、川満直紀、成川賢一、佐藤雅美、姫野耕一、
新垣秀幸、下地仁、幸地良信、荒井千春、笠原大吾、吉富弓江、吉田洋史

監 事：友利弘一

欠 席：宮城敦子、石川恵市

事 務 局：山城英人、大城喜仁

議題

(1) パート職員夏季賞与支給について

<資料配布>

(山城次長)

収益事業部の4月～6月までの収支状況として、4月の調剤報酬改定により、医薬品の価格交渉中であることから、赤字となっている。価格交渉後には、値引きが入り正常な収支になることが予想できるため、資料のとおり、パート職員への夏季賞与支給を提案する。

(山里常務理事)

事務局が説明したように、財務担当理事として、価格交渉後には正常な収支状況となることを鑑み、職員のモチベーションを高めるため支給したい。

支給することで承認された。

(2) 日薬学校薬剤師部会 学校薬剤師研修会について（沖縄県開催）

<資料配布>

(前濱副会長)

毎年全国3ブロックで開催されている。今回、沖縄への開催依頼がある。案内資料等はまだ準備されていないため、去年の長崎県開催の資料を添付している。開催要領によると各県が担う費用は会場費のみで、準備等については、概ね日薬が行うことになっている。例年の本土開催には沖縄県からの参加は困難であるため、本県で開催することで、会員は喜ぶと思われる。来年の1月か2月を予定したい。引き受けてよいか伺いたい。

沖縄開催することで承認された。

(3) 10月理事会の開催日変更について

10月8日（第2土曜日）→10月15日（第3土曜日）へ

※10/8が会長不在（都道府県会長会議）の為

10月15日（第3土曜日）に変更して開催することで承認された。

(4) 協会けんぽとの「健康づくり推進のための包括連携に関する協定書」締結について <資料配布>

(亀谷会長)

協会けんぽから、県民の健康長寿復活を目指して相互に連携協力した取り組みを進めること

により、県民の健康増進に資する目的として標記の協定書を締結したい旨の申し出があった。連携・協力事項として、(1) 医薬品の正しい知識の普及及び適正使用に関すること。(2) ジェネリック医薬品の使用促進に関すること。(3) かかりつけ薬局の普及に関すること。(4) その他目的を達成するために必要な事項に関することが掲げられている。本会においても相互に協力することは必要と思われるため、前向きに考えてよいと考える。

(我喜屋常務理事)

協定書を締結することに異議はないが、現在、協会けんぽの委員として、特にジェネリック医薬品の使用促進に積極的に取り組んでいるが、協定書を締結することでさらに何を求めているのか、次回の協会けんぽの会議で確認してみる。

締結することで承認された。

(5) 心臓移植のための募金への協力について

＜資料配布＞

(亀谷会長)

新聞等で報道されているように森川ひまりちゃんが拡張型心筋症と診断され、命を救うためには心臓移植の他に道はないとのことで、ひまりちゃんを救う会から募金への協力依頼があった。一年程前に、のあちゃんを救う会からの募金に協力した。今回も同様に会員、薬局に呼びかけて協力してはどうか。

募金協力することで承認された。

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

＜資料配布＞

(2) 平成28年度新任・新人薬剤師研修会

7月10日(日) 県薬 ＜資料配布＞

(外間副会長)

参加者は、薬局21名、病院34名、薬学生17名、卸2名、その他2名の計76名であった。講義前に自由参加で沖縄県立南部医療センター・こども医療センター薬局の施設見学が行なわれ、29名と多くの参加があり、同病院薬局の長田薬局長と照喜名副薬局長が対応された。最初の「医薬品情報業務について」は、株式会社琉薬の吉富先生が担当され、卸勤務の薬剤師のDI業務紹介からはじまり、情報検索の基本、検索サイト紹介や、問い合わせの内容や事例Q&Aなど多岐にわたる有益な講義であった。「薬歴の書き方について」は今回初めて病院勤務薬剤師への依頼ということで浦添総合病院浜元先生が担当された。薬歴はより良い薬物治療を提供するツールであること等、そして事例ではSOAP記載の具体例を示しながらの大変興味深い講義であった。「フィジカルアセスメントについて」は、琉球大学医学部附属病院の佐久川先生に再度担当いただき、フィジカルに興味を持った体験談、必要性、病院だけではなく薬局勤務薬剤師にも必要なこと、失敗談や症例提示そしてDMAT紹介など実践的な講義であった。後半は、各部会活動の紹介として学校薬剤師部会は上原先生、青年薬剤師部会は西川先生、女性薬剤師部会は村田先生が説明した。

(3) 無菌調剤室共同利用に関する講習会と在宅医療のための無菌調製実践講座

6月26日(日) 7月10日(日) 会営薬局うえはら ＜資料配布＞

(荒井理事)

2日間を使い会営薬局うえはらで開催した。今回テーマとして、(1) 共同利用のための手続き (2) 共同利用の体験 (3) 動画「抗がん薬」 (4) TPN無菌調製の実践 (5) 医療用麻薬無菌調製の実践の5項目を準備した。アンケートを実施し25名中18名から回答があった。

(4) 地域保健開局委員会

7月11日(月) 県薬 <資料配布>

(笠原理事)

報告事項として、①健康サポート薬局に係る研修会について ②薬剤師向け認知症対応力向上研修について ③医薬品販売制度対応に関する自主点検の実施について報告された。協議事項として、①「県民健康フェア」相談薬剤師募集について ②「患者のための薬局ビジョン」推進事業について ③お薬相談会で使用する機器の貸し出しについて協議され、機器の貸し出しの規約、価格等については、次回理事会の議題として提案したい。

(5) 平成28年度第2回都道府県会長協議会

7月13日(水) 日薬 <資料配布>

(亀谷会長)

報告事項として、「薬学教育関連事項について」平成31年度から始まる改定モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の準備作業として、今年度および来年度の実務実習において、トライアル実習を予定とのこと。「熊本地震への対応について」活動期間は平成28年4月15日(金)～5月29日(日)、派遣薬剤師数(実人数:906人延べ人数:2,774人、内、熊本県内実人数:94人延べ人数:328人、熊本県外実人数:812人延べ人数:2,446人)とのこと。「平成29年度予算・税制改正等要望事項について」かかりつけ薬剤師・薬局機能の充実・強化等11の項目を掲げているとのこと。「平成28年度日本薬剤師会賞等選考結果について」九州ブロックから推薦した本会の神村武之前会長が満場一致で選ばれた。他には、平成28年度日薬会議日程等が報告された。

(6) 平成28年度第2回学術研修委員会

7月13日(水) 県薬 <資料配布>

(外間副会長)

「認定薬剤師取得のためのセミナー参加について」「薬剤師のための症例検討入門研修会について」「平成28年度新任・新人薬剤師研修会について」について報告され、11月6日開催予定の「第30回沖縄県薬剤師会事学術大会について」は次のように協議された。(1)演題募集:開催日が11月6日(日)など県薬会員には既に会誌等で周知済みであり、今後は病薬会員への周知し、演題募集については再度、理事会でも呼びかけることとした。(2)ランチョンセミナー:既に塩野義製薬の協賛が決定している。講師、時間等詳細はこれから協議する予定である。(3)特別講演講師:委員より提案された複数の講師候補者から、特別講演講師を選定した。その結果、琉球大学医学部附属病院長の藤田次郎先生、神戸大学医学部附属病院薬剤部長の平井みどり先生、日薬・日病薬副会長の土屋文人先生が候補に残り、理事会に提案することとなった。また今回は、県薬剤師会創立90周年記念でもあり、複数の講師が可能かも幹事会に打診することに決定した。

(7) 調剤報酬請求業務講習会

7月13・20日(水) 八重山・宮古

(幸地理事)

八重山地区での講習会では43名の参加があった。

(川満常務理事)

宮古地区での講習会では50名程の参加があった。

(8) 未来の産業人材育成事業「職業人講話」

7月14日(木) 久米島町立久米島西中学校

7月19日(火) 竹富町立黒島中学校、7月27日(水) 宮古島市教育事務所 <資料配布>

(亀谷会長)

株式会社ケイオーパートナーズ(未来の産業人材育成事業)が沖縄県商工労働部雇用政策課から受託した、「未来の産業人材育成事業」の実施として、職業人講話を竹富町立黒島中学校全学年(全4名)を対象に行った。当初は八重山地区に講師依頼をしたが、平日のこの日時では、講師の手配は困難であるとのことから私が引き受けた。薬剤師の業務及び薬剤師になるた

めには等の講義をしてきた。黒島には、学校薬剤師がいないことや診療所がひとつしかないため、薬剤師と接する機会が少ないことから、生徒たちは真剣にお話を聴いて今回の機会を自分たちの将来のために役立てようとしている様子が伺えた。

(大城課長)

前項目の黒島での同様の事業として、7月27日(水) 宮古島市教育事務所では、会員の松尾はつよ先生に講師をお願いした。これまでの職業人講話の経験から子ども達へ伝えてきたことや、働くためにはコミュニケーション能力や会話することが大切であることを。また、薬の効果や副作用を知るために説明書が読めないといけないため国語力が必要なことや、仕事でグラフを見ることもあるため算数や数学がわからないといけないうこと等、今学校の中で子ども達が学んでいる教科の大切さについても触れたことが報告されていた。

- (9) 第4回健康食品・サプリメントに関する研修会 7月14日(木) 県薬 <資料配布>
(大城課長)

参加者は若干減ったものの76名(会員74名、非会員1名、薬学生1名)と多数の参加があり、西崎病院の名嘉紀勝先生が「サプリメントの種類と選択PART2」と題して講演頂いた。

- (10) 薬学実務実習に関するガイドライン説明会 7月16日(土) 県薬 <資料配布>
(我喜屋常務理事)

薬学実務実習は平成31年度から新コアカリキュラムで実施される。この説明会は、各都道府県単位で開催することになっている。「薬学実務実習ガイドラインのめざすもの～新しい薬学医療人教育の実現に向けて～」と題して名古屋市立大学大学院薬学研究科教授鈴木匡先生が講演された。

- (11) 平成28年度医療通訳ボランティア養成講座 <資料配布>
7月17日(日) (公財)沖縄県国際交流・人材育成財団
(山城次長)

沖縄県国際交流・人材育成財団主催で外国人のための医療通訳ボランティア養成講座の講師派遣依頼があり、昨年好評だった阪本崇彰先生(あにも調剤薬局)に今年も講師をお願いした。

- (12) 会計監査 7月20・28日(水・木) 県薬

- (13) 平成28年度第1回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会 <資料配布>
7月21日(木) 沖縄県後期高齢者医療広域連合
(江夏副会長)

沖縄県における75才以上の後期高齢者の医療費は平成27年度1392億円で一人あたりの医療費が102万円で全国平均の93万円より多くなっている。今後、疾病に対する予防に取り組み医療費を抑制していくことが必要で、糸満市は早速補助金を取得し取り組んでいること等が話された。

- (14) 平成28年度第1回南部地区健康おきなわ21推進連絡会議
7月21日(木) 南部保健所 <資料配布>
(新垣理事)

今回、小湾勝敏先生が出席した。かかりつけ薬局・薬剤師制度および健康サポート薬局制度が実施されることを話した。

- (15) 薬と健康の週間についての打合せ会 7月21日(木) 県薬 <資料配布>
(大城課長)

沖縄県、那覇市、県薬で「薬と健康の週間」について打ち合わせ会議をした。今回、県薬が創立90周年にあたることで、県民公開講演会を利用して横断幕や懸垂幕等に90周年記念の表記をお願いしたが3者共催であることを理由に受け入れられなかった。

(亀谷会長)

例年、県民公開講演会の新聞広告は、県薬で負担しているが、90周年記念にあたり県薬学術大会等において特別講師等に費用がかさむことが予定されているため、今年は、新聞広告しないこととしたい。

(16) 個別指導 7月21日(木) 県庁・8月4日(木) 那覇第一地方合同庁舎

(17) 第1回 薬剤師のための在宅医療教育セミナー 7月24日(日) 県薬 <資料配布>
(荒井理事)

66名の参加があった。特別講演①「小児在宅医療～繋がり的重要性～」講師に医療的ケアのある子どもと親の会・らいおんはあ～と代表の湯地三代子氏 特別講演②「沖縄小児在宅医療過去・現在・未来～客観的医療から主観的医療へ～」講師に沖縄県立南部医療センター・こども医療センター母子センター長宮城雅也先生が講演した。

(18) 沖縄県老人クラブ連合会健康づくり支援事業リーダー養成講習会「薬の正しい使い方」

7月27日(水) 南部総合福祉センター <資料配布>

(大城課長)

南部地区薬剤師会からの派遣で阪本崇彰先生(あにも調剤薬局)が講師となって「くすりの正しい使い方」と題して講義をされた。講師の阪本先生は、受講者が高齢者ということで、配布資料の活字だけの講義ではなく、写真やグラフなどを多用したパワーポイントの映像で分かり易く丁寧な講義をされていた。ユーモア溢れる講話をされ、受講者を引きつけ和気あいあいと楽しく学んでいたのが印象的だった。

(19) 藤田次郎琉球大学医学部附属病院長訪問

7月28日(木) 琉球大学医学部附属病院 <資料配布>

(亀谷会長)

第30回沖縄県薬剤師会学術大会の特別講演講師を依頼するために藤田次郎琉球大学医学部附属病院長を訪問した。快諾していただいた。

(20) 平成28年度(第30回) 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール <資料配布>

表彰式・特別記念講演・記念祝賀会 7月28日(木) 沖縄県口腔保健医療センター

(前濱副会長)

歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール表彰式があった。特別記念講演は「子どもの心と体が変わる健口食育」と題して佐世保市立広田小学校教諭福田泰三氏が講演した。

(21) なごみ会主催県民健康フェア第4回実行委員会 7月28日(木) 沖縄県医師会 <資料配布>

(笠原理事)

8月21日の県民健康フェアに向けての最終の打合せを行った。本会担当のステージイベントについて、各ブース紹介(アイモコ)対応について進捗状況の報告をした。また本会のブースは、例年どおり機器測定と健康とお薬相談を行うための準備を進めている。

(22) 琉球新報社より取材

7月29日(金) 会営薬局うえはら <資料配布>

(大城課長)

琉球新報社より「第19回こども新聞」の発行を予定しており、現在、小学生のこども記者が取材活動を進めているとのことで、当会にも「薬剤師の仕事」を取材してほしいとの依頼があった。こども記者は、宜野湾市立の小学校6年生の女子で、昨年、インフルエンザにかかり、薬局での薬剤師の対応と「薬の正しい使い方」を優しく教えてもらったことが、「薬剤師になりたい。薬剤師の仕事を知りたい。」と思ったのがきっかけで、応募したとのこと。去る7月29日(金)の午前中に、会営薬局うえはらにて取材が行われ、仲真良重薬局長と上里美矢子先生

が女子からのインタビューに対応した。終始ほのぼのとした雰囲気の中でインタビューは行われた。この取材記事は、9月1日発行の「琉球新報こども新聞」に掲載される。

(23) 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関運営委員会

7月29日(金) 福岡県薬 <資料配布>

(我喜屋常務理事)

出席者31名(8大学10名、薬剤師会9県20名日本薬剤師会1名)。H31年からの改定コアカリキュラムに基づく実務実習の実施に向けて「方略を見直した薬局実務実習の施行的実施について」と題して日本薬剤師会常務理事永田泰造先生の講義があった。協議事項として①「九州山口地区病院・薬局調整機構と各県薬の契約について」講師等の交通費、謝金等の事務代行を各県薬に委託することになるため各県薬と契約書を交わす。②「認定実務実習指導薬剤師の充足について」当県のワークショップ参加人数枠は当時3名からスタートしたが、増員を求め続けて現在6名となっている。情報提供として山口県にて平成30年に薬科大の開校(定員120名)が予定されている。

(24) 前沖縄県医師会 宮城信雄氏退任激励会

7月29日(金) ロワジールホテル&スパタワー <資料配布>

(亀谷会長)

盛大な激励会であった。沖縄県に医療に関する政策参与の配置をはじめて実現させたことや会員の悲願であった沖縄県医師会館を完成させたこと等の功績が称えられた。

(25) 平成28年度女性薬剤師部会第18回漢方講座

7月31日(日) 県薬 <資料配布>

(村田常務理事)

参加者52名。女性薬剤師部会は約7年に渡って、漢方講座を佐賀県清水医院院長清水正彦先生にご教示いただいていた。諸般の事情により今後、清水先生の講演は毎年5月に特別講演として開催をお願いすることになった。漢方講座は年3回予定しており、残り2回の講座は県内の先生に引き継ぐことになり、今回は那覇市立病院外科部長友利寛文先生にお願いし開催した。

(26) めんそーれ沖縄県民運動推進協議会総会・表彰式

<資料配布>

8月1日(月) 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ

(亀谷会長)

観光立県である沖縄県では、国際観光地の形成や観光産業の持続的発展に向けて、様々な観点から受入体制を強化する必要があることから、8月1日を「観光の日」、8月を「観光月間」と定め、県民一体となって沖縄観光を盛り上げていく気運醸成に取り組んでいる。そのため、今年度の「観光月間」のスタートにあたり関連行事として「めんそーれ沖縄県民運動推進協議会総会・表彰式」が開催された。

(27) 医療機関の重複受診による向精神薬の大量入手事案について沖縄県医師会との情報交換会

8月2日(火) 沖縄県医師会館 <資料配布>

(亀谷会長)

医療機関の重複受診による向精神薬の大量入手事案について県保健医療部薬務疾病対策課から来訪があり、大量入手することができないよう措置を講じたいとの説明があった。それを受けてFAX一斉同報で各薬局から情報収集したところ多くの情報が寄せられ、今後の展開として検討したところ県医師会に協力を得た方がよいのではないかとこのことで情報交換会を持った。県医師会においては、行政側の協力願い文書と合わせて注意喚起していくことになった。

(28) なごみ会主催県民健康フェアについての新聞社表敬訪問

8月4日(木) 沖縄タイムス・琉球新報社

(笠原理事)

8月21日開催の県民健康フェアの広報活動として県医師会の白井委員を中心に沖縄タイムス社と琉球新報社の2社を表敬訪問した。

(29) 平成28年度第3回地域医療支援病院運営委員会

8月4日(木) 豊見城中央病院

(亀谷会長)

豊見城中央病院の地域医療支援の状況等の説明があり紹介率・逆紹介率共にかなり高い数値であることや最近2名の心臓外科の優秀な医師が入職したこと等が話されていた。

(新垣理事)

豊見城中央病院のFAXコーナーの位置を少し奥の方に移動されるらしいが、南部地区には連絡がない。移動等の際には南部地区に一報いただきたい旨を県薬から伝えてほしい。

(30) 沖縄県医師会より来訪

8月4日(木) 県薬

(吉田理事)

沖縄県医師会災害医療委員会出口委員長と事務局崎原課長が、沖縄県医師会が熊本地震の時にJMATとして派遣される際の持参医薬品の調達を本会で対応したことへのお礼の来訪があった。

(31) 実務実習指導薬剤師養成・更新講習会

8月7日(日) 県薬

(我喜屋常務理事)

内容は例年と同様で、参加者の内訳は更新3名、新規22名だった。

(32) 第9回熟年の集い

8月7日(日) 沖縄都ホテル <資料配布>

(亀谷会長)

今年で第9回目になる。特別余興として唄「童神」で有名な古謝美佐子さんをお招きした。25名の熟年の先生方が参加され、和やかな時間を過ごした。

(33) 爆発物原材料の不審購入者の通報等に関して那覇署より来訪

8月8日(月) 県薬

(亀谷会長)

那覇署が爆発物原材料の不審購入者の通報等に関して全薬局を回って啓蒙していきたいとのこと。当会会報にも掲載のお願いがあり対応することとした。

(34) 協会けんぽより来訪

8月8日(月) 県薬

(亀谷会長)

本日の議題にもある協定書締結に関する打合せであった。

(35) 青年部会総会の打ち合わせ会議

8月8日(月) 県薬

(大城課長)

石川理事が欠席のため代理で報告する。青年部総会を9月11日に開催する。今回は、役員改選と特別講演を予定している。特別講演は、(株)レークケア代表取締役西村雄一先生をお招きして「お客様と共に歩む地域No. 1の薬局を目指して」と題して講演してもらう。

(36) 沖縄県公害審査会委員辞令交付式

8月9日(火) 県庁

(37) 平成28年度第1回公害審査会

8月9日(火) 県庁 <資料配布>

(我喜屋常務理事)

今回は、ある施設の騒音・低周波音・振動・煤塵等の被害についての調停を受理したことの報告があった。また沖縄でも起こりうることとして山形県の養豚業・堆肥製造による悪臭の事例報告があった。

(38) なごみ会主催県民健康フェア事前打合せ

8月9日(火) 県薬

(笠原理事)

8月21日開催の県民健康フェア参加予定の先生方50名余りに集まっていたいただき事前の打合せとリハーサルを行った。打合せ後のリハーサルは、県薬ブースのイメージを作って一通りの機器操作等の体験をしてもらった。

(39) 沖縄県看護協会訪問

8月9日(火) 沖縄県看護協会 <資料配布>

(亀谷会長)

11月開催の県薬学会大会の参加者が昨年までの実績から300名近く予想されるため、本会館では収容困難である。そこで300名収容可能なホールがある沖縄県看護協会を借用する。その打ち合わせについての訪問であった。

(40) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 幹事会

8月10日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

(亀谷会長)

定期的に開催される社会保険診療報酬支払基金沖縄支部の幹事会に出席した。

(41) ネオフィスト研究所(吉岡ゆうこ氏) 来訪

8月12日(金) 県薬

(亀谷会長)

前日に北部地区薬剤師会主催で健康サポート薬局に関する研修会の講師を務めたとのことで挨拶があった。

(42) 第6回世界のウチナーンチュ大会第4回実行委員会 8月12日(金) 沖縄ハーバービューホテル

(亀谷会長)

第6回世界のウチナーンチュ大会は、2016年10月27日(木)から30日(日)まで開催される。今回の実行委員会には141人の委員のうち98人が出席した。会長挨拶では、大会まで残り2ヶ月となった。世界各国に住む県系人が母県「オキナワ」に集い、そのルーツ、アイデンティティを確認するという、他県に類を見ない沖縄県独自の一大イベントを協力して成功させようとの内容であった。議案の「世界のウチナーンチュの日の制定について」は、母国ウチナーと海外の約40万人のウチナーンチュが「ウチナーンチュ」であることを誇れる日、そして心をつなげて喜べる日として10月30日が制定された。また、第6回世界のウチナーンチュ大会に先立って第5回世界若者ウチナーンチュ大会が今年10月20日から23日まで本県で開催される。

(43) 平成28年度第2回沖縄県がん診療連携協議会

8月12日(金) 琉球大学医学部管理棟

(亀谷会長)

沖縄県は大腸がんの患者が多いことが報告された。薬剤師会として薬局を活用して大腸がん限定して地域での健康相談・早期受診勧奨に寄与できるのではないか。検討してみたい。

(44) 平成28年度第1回地区薬剤師会会長会議

9月24日(土) 県薬 <資料配布>

(山城次長)

9月24日に平成28年度第1回地区薬剤師会会長会議が予定されている。ご案内済である。

(45) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

<資料配布>

(我喜屋常務理事)

会営薬局とよみの現場では、常勤者4名とDIの吉田先生そして輪番薬剤師の協力を得て頑張っている。

(山城次長)

9月から定期的に勤務している輪番薬剤師が産休に入るため人員不足となる。理事の皆様には薬剤師確保に積極的なご協力をお願いしたい。

(46) その他

(笠原理事)

明日8月14日に一日をかけて「健康サポートのための多職種連携研修会」を開催する。参加者60名程を予定している。本島では2回の開催を予定しており2回目は9月22日に開催する。

(友利監事)

確認事項として議題(1)のパート職員夏季賞与について、パート職員賞与支給基準表より基準に満たない職員について「但し、勤務成績が優秀で賞与を支給することが相応しいと会長が認める者についてはこの限りではない」ことで数名が会長決済で支給対象となっているようであるが、勤務成績優秀と判断した理由について、その説明がなかった。

(亀谷会長)

その理由としては、会営薬局とよみへの応援薬剤師として尽力していただいていることで支給対象とした。

(友利監事)

また今回の理事会で気づいた点として、議題事項なのか報告事項なのか不明確な箇所がいくつかあった。しっかり整理していただきたい。

報告(薬連)

(1) 國場幸之助衆議院議員との意見交換会

7月25日(月) ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 <資料配布>

(亀谷会長)

薬剤師問題議員懇談会のメンバーの國場幸之助衆議院議員と秘書の渡部氏も同席して当薬連盟執行部との意見交換会を開催した。ざっくばらんな意見交換の中で、当連盟からは、最近の薬剤師業界の話題として、我々薬剤師は、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局を目指していく旨を説明した。そして琉球大学への薬学部設置の件や会営薬局医療センター前(休日夜間薬局)への財務的な助成金の必要性等を説明し理解を求めた。國場先生からは、現在の日本を中心とした世界の関係性等のとても興味深い話を聞くことができた。今後の県民の健康を守る上でファーストコンタクトを担う薬局となるために、國場先生にも協力をお願いした。今後、西銘恒三郎衆議院議員との懇談会も予定している。

(2) 沖縄県薬剤師連盟全体会議・慰労会

7月29日(金) ラ・フォンテ

(亀谷会長)

今年最大の目標であった藤井もとゆき氏の参議院議員選挙勝利を達成したことで全体会議を開催し結果報告を行った。

(3) 参議院議員選挙結果(藤井もとゆき)

<資料配布>

(亀谷会長)

藤井もとゆき氏の都道府県単位の得票数の比較資料を参考にすると、平成22年の選挙から得票数を伸ばした都道府県は沖縄含めて14県で、九州地区では沖縄県のみである。得票数を伸ばすためにできることは何でもするという心意気で戦ってきた結果ではないだろうか。

平成28年度 第6回定例理事会 議事概要

日時：平成28年9月10日(土) 19:00～21:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

＜出席者＞

会 長：亀谷浩昌

副 会 長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子

理 事：山里 勇、村田美智子、我喜屋美香、宮城敦子、荒井千春、姫野耕一、下地 仁、
笠原大吾、幸地良信、吉田洋史、川満直紀、石川恵市、成川賢一、
普久原 隆（中部地区代理）、川上善久（南部地区代理）

欠 席：吉富弓江

事 務 局：山城英人、大城喜仁、稲福文隆

議題

- (1)「薬と健康の週間」地元紙「論壇コーナー」への執筆者&執筆内容について ＜資料配布＞
(大城課長)

毎年、薬と健康の週間中に地元紙（2社）の論壇コーナーへ、県民に向けて薬と健康に関する啓発の投稿をしている。今年度の執筆者と投稿内容を決めていただきたい。

(亀谷会長)

執筆者と投稿内容については、まだ投稿をしたことがない理事と調整して決めていただく事で了承された。

- (2) 第81回九州山口薬学大会（沖縄）開催について ＜資料配布＞
(山城次長)

2020年（平成32年）に沖縄大会が予定されている。2020（平成32）年11月22日（日）、23日（月・祝）を開催案として沖縄コンベンションセンターの仮予約をした。日薬、薬学会、九山事務局へは報告済。22日（日）の懇親会については、ラグナガーデンホテルを予定しているが、この日は大安でもあることから、ブライダルが優先とのことで、即答いただけなかった。ラグナガーデンホテルが使用できない場合の代案として、沖縄コンベンションセンター内の会議棟（500名収容）で開催。多くの参加者が遠くへの移動がなく懇親会がスムーズに開催できる。審議の結果了承された。

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等について ＜資料配布＞

- (2) 健康サポート薬局関連研修会 8月14日（日）県薬 ＜資料配布＞
(笠原理事)

午前中はA研修会、午後はB研修会と約8時間の研修会を開催した。参加人数は59名、A研修、B研修の修了ごとにレポートを提出。引き換えに、受講証を交付した。第2回の研修会を9月22日に開催する。宮古地区、八重山地区については、各地区に出向いて調整することになっている。

(3) 平成28年度沖縄県公務員薬剤師会退職激励会

8月19日(金) ダイワロイネットホテル沖縄県庁前1階Vento <資料配布>

(亀谷会長)

退職者は保健医療部 国吉広典参事監、保健医療部生活衛生課 玉那覇康二副参事の2名であった。当会と行政との関係を強化したいと挨拶した。懇談の中で、数年前から県の薬剤師募集が途絶えている。来年度から募集をするとのことであった。県薬会費について、行政職においては高いとの意見があり、今後の検討と報告された。

(4) 認定実務実習指導薬剤師養成・更新講習会 8月21日(日) 大濱信泉記念館 <資料配布>

(我喜屋常務理事)

八重山地区では初めての開催。2日間の日程で行う講習会を1日で終えた。参加人数6名、内訳は地元5名、本島から1名の参加であった。

(5) なごみ会主催県民健康フェア 8月21日(日) 沖縄コンベンションセンター <資料配布>

(笠原理事)

全体の来場者1,500名(医師会報告) 薬剤師ブースへの来場者約100名、参加薬剤師44名であった。去年はブース内の混雑があったが、前回の反省を活かし、スムーズに対応できた。健康とおくすり相談会は、かかりつけ薬剤師としての地域貢献でもあるので、継続的に行っていく。

(6) 会計監査

8月22日(月) 県薬

(7) 沖縄県Uターン希望薬学生の病院・薬局見学

8月22日(月) 那覇市立病院

(大城課長)

約40名の薬学生と就職状況等についての情報交換をメール等で行っている。今回、熊本県の崇城大学薬学生の要望で、那覇市立病院、県立病院、琉球大学附属病院への見学に同行した。その数日後に県立病院への内定が決まったとの連絡があった。

(8) 2期実務実習受入説明会及び新コアトライアル伝達講習会 8月23日(火) 県薬 <資料配布>

(我喜屋常務理事)

今回、新コアトライアル伝達講習会を開催することとなり合わせて開催した。薬学生実務実習受入委員会副委員長の佐藤雅美氏、委員の浅沼健一氏が伝達講習を行った。トライアル薬局は中部地区の2薬局となっている。

(9) 平成28年度第3回薬学生実務実習受入委員会

8月23日(火) 県薬 <資料配布>

(我喜屋常務理事)

各県単位で、新コア対応ワークショップ説明会の日程調整と、これまでの報告事項の伝達のために委員会を開催した。新コア対応ワークショップ説明会については、機構より講師派遣が難しいとの事で、平成29年2月5日に更新講習会と合わせて行うことになった。

(10) 平成28年度第3回広報委員会

8月24日(水) 県薬 <資料配布>

(宮城常務理事)

くすりと健康フェアの広報活動として、地元紙への投稿を各理事にお願いする。各理事は、執筆依頼がありましたら、お引き受けいただきたい。ホームページの管理運営等について、薬事情報センター委員会が担当しているが、広報委員会もサポートし、より良いホームページにする。ホームページに会長のページを設け、訪問者の写真などをアップする提案があった。ホームページを活用し、一般向けに広報をしていくためにもトップページの改良が必要との意見もあった。

(11) 個別指導

8月25日・9月1・8日(木) 県庁・那覇第一地方合同庁舎

(12) 沖縄県後発医薬品安心使用促進協議会

8月25日(木) 県庁 <資料配布>

(江夏副会長)

後発医薬品安心使用促進協議会は各都道府県では開催しているが、沖縄県は開催していない。後発医薬品使用全国トップの位置にあり、その必要性が感じられなかったためか、今回の大阪府が立ち上げたのと同時に沖縄県も開催することとなった。委員には医師会、歯科医師会、薬剤師会、卸業協会、沖縄県婦人連合会、沖縄県国民保健連合会、協会けんぽ沖縄支部で構成している。後発医薬品使用に関する現状について協議し、2030年までに各都道府県80%達成を目標に協議会を進めていくとの報告であった。

(13) 平成28年度第2回医薬分業対策委員会

8月25日(木) 県薬 <資料配布>

(吉田理事)

平成28年度医薬分業対策委員会主催研修会及び医薬分業対策会議のための事前会議であった。また、FAXコーナー担当者会議の日程を平成28年10月2日(日)に決定した。おきなわ津梁ネットワークについて、月額料金(5,000円)がネックとなっている。加入促進する上で、月額料金を県薬が一部負担をするか否か論議したが、予算の兼ね合から結論は保留になった。

(14) 平成28年度医薬分業対策委員会主催研修会

8月28日(日) 県薬 <資料配布>

(吉田理事)

独立行政法人国立病院機構栃木医療センター薬剤部の菅原健一先生を講師として、「ポリファーマシーの取り組みと今後の薬薬連携」についてご講演いただいた。内容としては、ポリファーマシー外来を開設したということで注目されている。外来と名前が付いているが入院患者の中からポリファーマシー対象患者を選んでいる。対象患者は多くないが今後、注目されると予想される。

(15) 平成28年度医薬分業対策会議

8月28日(日) 県薬 <資料配布>

(吉田理事)

病院、薬局向けアンケート結果について、琉大附属病院では院外処方せんに検査値を掲載している。他の病院の状況を確認するためにアンケート調査を行っている。保険薬局へも同様のアンケート調査を送っている。高度薬学管理機能に関する質問、残薬調整への取り組みについての質問など、結果については県薬会報へ掲載する。

(16) 健康とおくすり相談会

8月28日(日) サンエー那覇メインプレイス

(姫野理事)

相談員9名、来場者40名であった。広い会場だったためスムーズに来場者の対応ができた。

(17) 平成28年度沖縄県科学技術大学院大学発展促進県民会議総会

8月29日(月) 沖縄県科学技術大学院大学キャンパス <資料配布>

(亀谷会長)

OISTの概要紹介・進捗について、首席副学長のロバート・バックマン氏から報告があった。当大学の教師、生徒は多国籍で生徒は100名程、実学(特許が取れる研究)に力を入れている。去年までに160個の特許を申請している。今年新たに取得した特許は16個と来年度はさらに増える見込み。また地域貢献としての役割を担う大学でもある。

(18) 管理者会議

8月29日(月) 県薬

(19) 協会けんぽ「健康づくり包括協定」締結式打合せ

8月31日(水) 県薬 <資料配布>

(山城次長)

前回の理事会にて、「健康づくり包括協定」を結ぶことが了承されており、来る9月15日の締

結式に向けて事前打ち合わせ会議をした。当日は亀谷会長、江夏副会長、前濱副会長が参加する。
(我喜屋常務理事)

協定を結ぶ理由として、医療費の適正化、ジェネリック医薬品の推進、残薬問題、かかりつけ薬剤師等について協定を結び共有する。協会けんぽとしては、県医師会、各市町村等とも協定を結ぶとの事であった。

(20) 第81回九州山口薬学大会（沖縄）に関する打合せ

9月1日(木) 沖縄コンベンションセンター・ラグナガーデンホテル

議題(2)で審議済み。

(21) 平成28年度第1回沖縄県自殺対策連絡協議会

9月1日(木) 県庁 <資料配布>

(村田常務理事)

1. 自殺者の現状について、平成23年がピークであった。現在は280名で、横ばい状態である。
2. 自殺対策強化事業の実績報告について、平成27年度は約2,000万円の事業費であった。
3. 自殺対策行動計画について、当会は毎年ゲートキーパー養成研修会を行っている」と報告した。

地域保健開局委員会では、薬局とクリニックとの情報提供書の作成を進めている。

(22) 第5回健康食品・サプリメントに関する研修会

9月1日(木) 県薬 <資料配布>

(亀谷会長)

75名の参加があった。消費者、患者さんから、サプリメントに関する相談を適切にアドバイスができる技術を取得することが目的であり、今回の研修会は、達成する一歩になったと思う。次年度も継続する。健康サポート薬剤師に必要な研修会も開催して行く。

(23) くすりと健康フェアPR活動（那覇市自治会）

9月1・2・8・9日 なは市民協働プラザ・首里支所・小禄支所・真和志支所 <資料配布>

(大城課長)

那覇市の各定例自治会長会(5か所)で広報を行った。また、関係医療団体へも呼びかけを行っている。

(24) 沖縄県子ども生活福祉部より来訪（母子父子家庭等医療費助成について）

9月2日(金) 県薬 <資料配布>

(吉田理事)

沖縄県では、母子家庭や、父子家庭等に対し、医療費の一部を助成する。助成の方法としては、「こども医療費助成事業」と同様に、「自動償還」方式で準備を進めている。事務取扱に関して県と薬剤師会との間で契約を締結したいとの事であった。内容等については契約書が届き次第、理事会で審議していただく。

(25) 平成28年度沖縄県薬剤師認知症対応力向上研修会

9月4日(日) 県薬 <資料配布>

(大城課長)

医師向けは毎年開催しているとのことであるが、歯科医師、薬剤師も対応力は必要であることから、第1回の研修会を9月に開催した。参加人数は180名と報告。第2回研修会を平成29年1月29日(日)に開催する。すでに160名の申し込みがきている。宮古地区は、平成29年10月2日(日)、八重山地区は調整中である。

(26) 平成28年度第2期薬局実務実習オリエンテーション

9月5日(月) 県薬 <資料配布>

(我喜屋常務理事)

2期の外部実習については各担当委員より確認を行った。新規に東邦大学が加わった。

(27) 平成28年度第2回九山代表者会議・懇親会

9月5日(月) 福岡県薬・泰元本館 <資料配布>

(亀谷会長)

第77回九州山口薬学大会への費用処置について、熊本県が地震被害により、開催ができなくなった。準備の段階で費用がかかっていることもあり、各県から集めた大会負担費を提供することが決まった。熊本県が準備に支出した金額を差し引くと数万円程度残る。残金も熊本県薬に提供することになった。また、九山大会と合わせて発行される九州山口薬学会報も印刷段階に入っており、発行費用がかかる。大会参加費の中から支出していたが中止により見込めなくなった。全額は支出できないが大会運営費を充当し、不足分は、九州山口薬学会から支出することと決した。「認定薬剤師取得へ向けた継続セミナー」を開催しているが、認定薬剤師取得の成果が出ていることから、当セミナーの継続を予定している。熊本地震救援活動に参加した薬剤師への感謝状を出すことについて、日薬は未定。福岡県薬は福岡県指揮下で参加した方々に出す。熊本県薬は協力してもらった全員に出すとの事であった。

(28) 平成28年度 第1回健康づくり推進協議会

9月6日(火) 全国健康保険協会沖縄支部 <資料配布>

(我喜屋常務理事)

各委員へ委嘱状が交付された。全国健康保険協会の平成27年度収入が9.2兆円、支出が9.0兆円と報告。ジェネリック医薬品使用割合は沖縄県78.5%で全国1位、全国平均66.8%であった。薬剤師会との包括協定について、医療費の適正化、ジェネリック医薬品の対策、残薬問題の対策、かかりつけ薬剤師等で連携していきたい。各市町村とは順次締結している。

(29) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 幹事会

9月7日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 <資料配布>

(30) 平成28年度第1回沖縄県自然環境保全審議会

9月9日(金) 県庁 <資料>

(宮城常務理事)

温泉法の掘削許可申請(北谷町、竹富町)、公園事業の変更(シェラトン沖縄サンマリーナリゾート区域面積の拡大)について審議された。薬剤師も自然環境保全に関われることを実感した。

(31) 中頭病院 竣工祝賀会・内覧会

9月10日(土) 中頭病院(新) <資料配布>

(亀谷会長)

現在の中頭病院の1.5倍の敷地で、救急搬送用15部屋、救急体制に特化した設備が完備されていた。各階に薬剤師専用の部屋があり、そこから薬局へつながる直通のエレベーターが設置されており、病棟内業務の効率化が図られていた。

(江夏副会長)

中部地区薬剤師会より、FAXコーナーの設置について交渉を行っている。

(32) 沖縄テレビ主催シンポジウムについて

12月11日(日) <資料配布>

(大城課長)

沖縄テレビ放送株式会社より、県民に薬や医療について見聞を広める目的で、薬剤師には薬の果たす役割や大切さ等を伝えていただくために、講師の派遣依頼があった。当会常務理事の我喜屋美香氏にお願いをして、了承を得ている。シンポジウムの内容は、疾患と新薬について、へき地医療について、創薬と治験についてとなっている。各分野でのパネルディスカッション形式で開催。近日テレビ放送される。医師会と薬剤師会は後援として予定している。

(33) 県薬創立90周年記念事業について

(大城課長)

11月6日の学術大会終了後の懇親会を創立記念祝賀会とする。学術大会は看護協会を会場とし、創立記念祝賀会は県薬ホールで開催する。創立記念祝賀会では、前会長神村武之氏、元副会長の松山朝雄氏、元事務局長の山城志津氏の特別表彰を行う。

(34) 平成28年度薬事功労者知事表彰受賞者の決定について

<資料配布>

(稲福係長)

推薦には役員歴10年以上の規定がある。当会理事の新垣秀幸氏が該当しており推薦をしていたところ、決定通知が届いた。沖縄県病院薬剤師会からは、県立南部医療センターこども医療センター薬局長の長田茂氏が決定した。

(35) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

<資料配布>

(我喜屋常務理事)

8月より、会営薬局とよみに週1回の勤務で、輪番薬剤師1名が加入した。

(山城次長)

会営薬局うえはらに新卒薬剤師2名が職員となったことで、薬剤師不足である会営薬局とよみにベテラン薬剤師(本人了承)を異動させた。

(36) その他

(川満常務理事)

那覇市保健所より、関西で麻疹が流行しているとの連絡を受けた。沖縄県でのワクチン在庫状況についての問い合わせがあった。各問屋へ確認をしたところ、現在は特に問題ないとの回答であったが、県内で流行するとワクチン不足も予想される。

例年11月に那覇市主催「ひやみかちなはウォーク」の一環で、沖縄セルラースタジアム那覇にて、「健康とおくすり相談会」を開催している。同11月に浦添市より、「健康とおくすり相談会」の依頼があった。11月は2回の開催となる予定。

(亀谷会長)

会営薬局とよみの担当理事として努めている我喜屋常任理事より、担当理事としての任務を取り下げていただきたいとの要望があった。理由として、多忙により十分に関われなくなっている状況で、手当をいただく事は心苦しい。また、不在だった薬局長も常務しており、会営薬局とよみも依然と比べれば、若干ではあるが落ち着いている。今後もサポートは努めて行くことと了承された。

報告(薬連)

(1) 衆議院議員 ニシメ恒三郎「明日の日本と沖縄を語る会」

9月10日(土) パシフィックホテル沖縄

(山城次長)

神村顧問と吉田幹事長とで参加した。年末か年明けにも衆議院の解散が予想される。

転載記事

例 年間2万円を購入

2万円

1万 2000円

8000円が控除

課税所得400万円の人の場合

共通表示マーク

セルフメディケーション
税 控除 対象

市販薬購入で減税(イメージ)

市販薬

ドラッグストアなどで市販薬を買った際のレシート(領収書)は捨てないで保存を！。「スイッチOTC薬」と呼ばれる薬の購入費が年1万2千円を超えれば、税負担が軽減される医療費控除の特例制度が1月からスタートした。軽い病気では医療機関にかからず、自ら健康管理をするよう促すのが狙いだ。

スイッチOTC薬は、医師の処方が必要だった医療用医薬品の安全性が確認され、店頭販売できるようになった。家族の年間購入額の合計が1万2千円を超えた部分から、最大8万8千円まで課税所得から差し引く。「セルフメディケーション税制」という仕組みで、2021年12月

減税額

▶ 所得税
8000円×税率20%=1600円

▶ 個人住民税
8000円×税率10%=800円

1万2千円超で減税

レシート捨てないで

末まで5年間の時限措置。
1月1日～12月31日に対象薬を購入した際のレシートなどを保存しておき、翌年に確定申告する必要がある。予防接種や健康診断を受けるなど、疾病予防や健康増進への取り組みが条件。対象薬は16年12月末時点で、かぜ薬「パブロンSゴールド錠」(大正製薬、鎮痛剤「バファリンEX」(ライオン)など1555品目。パッケージには対象薬の目印となる共通表示がある。購入時のレシートには、商品名の横に「★」のマークや「セルフメディケーション税制対象」などと印字・手書きされる。

平成29年1月4日(水) 琉球新報

ぼくも 私も

たばこの害 まなんだよ

いは しゅんり=小2
今日、たもくてき室でたばこについてをしました。

教えてくれた人は、かさ原大ご先生です。かみしばいを見たら、たばこには、わるいニコチンや、タールが入っているそうです。はじめてしたのでぼくの名ごのじいじにいいます。

一ばんわるいのは、ニコチンです。なぜたばこをすうとやめられないりゆうがわかりました。それは、ニコチンが入っているからです。

(名護市、緑風学園)

2017・1・4 沖縄タイムス

転載記事

2017/1/5 (木曜日) 第1538号

女性のためのライフアップ情報紙

週刊 ほ〜むぷらざ



ペット生活
チャーンの美声自慢



彩職 賢美
地域医療の第一線
薬剤師 前濱朋子さん



イチから琉球料理 消化のいい料理でホッと

野菜style
食物繊維たっぷり！
ゴボウチップスをサラダに



沖縄タイムス副読紙 週刊ほ〜むぷらざの「彩職賢美」に本会の前濱朋子副会長が紹介されました。
お楽しみ下さい。(次頁へ)

2カ月に1回発行している
県薬剤師会の会報



取材が自分の勉強に

「薬剤師の先輩方を取材する機会があるのですが、以前の薬局や薬剤師の状況、先輩方の仕事に取り組む姿勢など勉強になっています」。改めて、自分の業務に対する思いを見直すいい機会にもなっている。



旅行を兼ねて行ったドイツでの記念写真。医師の夫・俊之さん(右)の留学先・ハイデルベルクにあるドイツ癌研究所での1枚で2008年のノーベル医学賞ハラド・ツァ・ハウゼン名誉教授(左)とのスリーショット



玉城中学校の生徒の前で、薬物の害について講義する前濱さん(本人提供)



「女性の翼」のメンバーと

薬局経営への思い後押し

女性リーダーの育成や女性と女兒のための支援活動を目的とする「女性の翼」「ソロブチミスト沖縄」の会員でもある前濱さん。「同会の集いなどに参加することで得た人とのつながりも、漠然としていた『いつか薬局を経営してみたい』という思いを現実のものにしてくれた」と話す。

前濱さんのハッピーの種

Q. 趣味は？

なかなか休みを取ることができませんが、旅行が趣味で、いい気分らしくなっています。旅先でお土産を貰うのが楽しみなんです。ドイツに行った際に購入した薬剤師人形や、ドイツ薬事博物館の本はお気に入り＝右写真。薬剤師が人形になるほど、身近な存在だと感じ、眺めていると「地域の人たちの身近な存在になりたい」との思いが強くなります。



前濱さんの経営する薬局内に飾られているドイツの薬剤師人形

◆つる薬局 ☎098(897)5779
宜野湾市真栄原3-7-8

に印象的だったのが「薬局は何でも相談できる、よろず相談の場所」「薬剤師は街にいる唯一の化学者」との先輩薬剤師らの言葉。薬のことだけでなく、健康のことや気軽に相談できる地域医療の第一線であると感じた。そんな活動を積み重ね、2012年には学校薬剤師部会の部会長に就任。さらにキャリアを積み、昨年、県薬剤師会の副会長に就任した。いろいろな会議に参加する機会が増え、栄養士や看護師など他分野の人とのつながりが広がった。「栄養士や看護師らと『連携して、地域医療の発展になるような取り組みをしていきたい』と、今後の展望についても具体的な話ができるようになった」と喜ぶ。

昨年2月から、宜野湾市真栄原に自らが経営する調剤薬局「つる薬局」をスタートさせた前濱さん。「特に経理面が大変」と、経営者として慣れない業務と悪戦苦闘しながらも、充実した笑顔を見せる。目指すのは地域に根ざした薬局。「最終的には地域の人が処方箋を持たなくても気軽に健康相談に来店できるような場所にしたい」と目を輝かせた。(安里則哉)

気軽に立ち寄れる薬局へ

前濱朋子さん

一般社団法人 沖縄県薬剤師会 副会長
合同会社朋友陽 たる薬局代表



学校薬剤師として小学校で環境衛生に関する取り組みを行うほか、県薬剤師会の広報委員として県内の薬局を取材し、薬剤師の活動を会報で紹介する同会副会長の前濱朋子さん(53)。薬剤師として活動30年目を迎えたことし、以前から夢見ていた薬局経営を開始。「地域に根差した薬局を目指したい」と奮闘している。

「お 体の調子はいかがですか？ 不安なことがあれば、気軽に声を掛けください。前濱さんが、調剤薬局で患者に薬をわたす際の光景で、そのおっとりとした優しい口調に安心感を覚える。

常に心掛けていることは、忙しくとも患者の声を丁寧に聞くこと。「患者は医師に診てもらい薬をもらって帰る。薬剤師は、その最後の薬を手渡すところで、患者に不安が残らないようアドバイスします。薬を受け取った患者が、笑顔で帰るのを見ると不安が和らいだと感じ、うれしい」と笑顔。患者の状態に合わせて薬を使い分けるため、患者から聞いた情報を医師に伝えたり、薬の組み合わせや効果的な使い方について医師と相談することも。多数の薬を扱うとあって安全性には細心の注意を払う。1988年から5年ほど、薬剤師



撮影/比嘉秀明

PROFILE まえはま・ともこ

1963年那覇市出身。87年名城大学薬学部卒業。88年、同大学専攻科修了。同年、県立八重山病院勤務。その後、調剤薬局で業務に従事。2010年、県薬剤師会理事。12年には県薬剤師会学校薬剤師部会部会長に。15年、県薬剤師会副会長に就任。薬物乱用防止協理理事、県薬剤師会広報委員としても活動。16年、自身で経営する「たる薬局」をオープンし、日々奮闘中。

として県立病院で院内薬局に勤めた後、院外処方調剤薬局で業務に従事。ことしで30年目を迎える。薬剤師を目指したのは高校生のころ、薬学部を受験する友人から話を聞いたのがきっかけ。「食の安全に薬学の知識が役立てられるなど、日常生活にも関連する仕事内容に興味を抱きました。薬局での業務以外に、2004年から学校薬剤師も務める。プールの水質調査や教室の照度検査といった学校の環境衛生を中心に取り組む。危険ドラッグが取りざたされるようになった2012年からは、学校で薬物乱用防止教育を開始した。

「保健体育の授業の一環として『ぐすり教育』が組み込まれ、教諭とチームで授業をしています。薬物の危険性や、ドラッグを始めるきっかけにもなるお酒やタバコの害についても話をします」と説明。生徒からは「害を知って怖くなった」「勧められたら断るようになった」などの感想が上がり、講義の成果を実感。やりがいにつながっている。

一方で、県薬剤師会の広報委員としても活動。会の活動報告や医療品の情報、薬剤師の思いなどを紹介する会報づくりも担う。取材する中で特

※発行元の許可を得て掲載しています。

平成28年12月

- 1木○沖縄県薬業連合会代表者会議 沖縄都ホテル 亀谷会長、稲福係長
 - 年末調整確認 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局前原・上原
 - 平成28年度第3回地域医療支援病院運営委員会 豊見城中央病院 亀谷会長
 - 美波セミナー in沖縄 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 共催：大日本住友製薬(株)
 - 平成28年度第3回財務委員会 県薬会議室
- 3土○日薬九州ブロック会議 福岡県薬剤師会館 亀谷会長・前濱副会長
 - 沖縄県感染症薬剤師研修会 沖縄県立南部医療センターこども医療センター 共催：MSD
- 5月○糖尿病の明日を考える会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 共催：ノバルティスファーマ(株)
- 6火○沖縄県U・Iターンガイダンス 長崎国際大学 大城課長、宮城奈津子氏、渡口由希子氏（沖縄県薬務疾病対策課）
 - (株)琉薬より来訪 県薬会長室 亀谷会長
 - 未来の産業人材育成事業「職業人講話」糸満市立糸満小学校 講師：名嘉紀勝氏
 - 平成28年度第11回定例幹事会 県薬会議室
- 7水○社会保険診療報酬支払基金幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 亀谷会長
- 8木○個別指導 八重山合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏、幸地理事
- 9金○個別指導 宮古合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏、川満正啓宮古地区会長
 - 宮古地区研修会 宮古島脳神経疾患フォーラム 沖縄県立宮古病院
 - 南風原町子ども医療費現物給付説明会 県薬ホール
- 10土○第37回全国歯科保健大会 沖縄コンベンションセンター劇場棟 亀谷会長
 - 平成28年度第9回定例理事会 県薬研修室
- 11日○沖縄テレビ放送主催公開収録講演会「命薬^{ぬちぐすい}なお話～聞いて安心 お薬について～」 沖縄県立博物館・美術館講堂 パネリスト：我喜屋美香常務理事、大城課長
- 14水○沖縄県保健医療政策課より来訪 県薬会長室 亀谷会長
- 15木○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏、川満常務理事
 - 平成28年度第2回沖縄県自然環境保全審議会 県庁 宮城常務理事
 - 試験検査センター委員会 県薬会議室
 - 第1回薬剤師スキルアップセミナー おきなわクリニカルシミュレーションセンター 共催：第一三共(株)
 - 中部地区研修会 臨床薬剤師育成研修会 (株)琉薬
- 16金○南風原町より来訪 県薬会長室 亀谷会長、事務局長嶺
 - 八重山地区消化器フォーラム ホテル日航八重山
 - 中部地区研修会 中北部循環器懇話会 中部地区医師会
- 18日○学校薬剤師部会役員会議 県薬部会室
 - 平成28年度高度管理医療機器等継続研修会 県薬ホール 講師：吉田理事
- 19月○上期監事監査 県薬会議室 亀谷会長、大城・友利両監事、山城次長・前原・上原美也子(事務局)
- 20火○管理者会議 県薬研修室
- 21水○月次会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局前原
 - 平成28年度第2回健康長寿おきなわ復活県民会議幹事会 県庁 山城次長

- 21水○平成28年度試験検査センター技術研修会（22日迄） 日本薬剤師会 小泉主任検査技師
 ○リハビリ専門職研修会 大浜第二病院 講師：笠原理事
- 22木○（有）レ・ネット訪問 （有）レ・ネット事務所 亀谷会長、山城次長
 ○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
 ○第7回沖縄県地域医療構想検討会議 県庁 亀谷会長
- 27火○社会保険診療報酬支払基金沖縄県支部長来訪 県薬会長室 亀谷会長
- 28水○月次会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局上原

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成28年12月

- 3土○平成28年度日本薬剤師連盟九州ブロック協議会 福岡県薬剤師会館 亀谷会長、前濱総務、山城次長
- 19月○2016公明党政経文化セミナー パシフィックホテル沖縄 吉田幹事長、江夏副幹事長
- 26月○ミヤザキ政久激励の集い エリスリーナ西原ヒルズガーデン 亀谷会長、山城次長

お知らせ

＜県薬が会員に販売している印刷物等＞

○国保総括票	25枚	1冊	100円	○お薬手帳カバー	1枚	22円
○市町村別請求書（その1）	50枚	1冊	160円	○薬歴カード	各1枚	5円
○市町村別請求書（その2）	1枚		10円			
○調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円			
○管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円			
○処方せん	100枚	1冊	160円			

（国保（本人・家族）青色）
 （社保（本人）白色）
 （社保（家族）桃色）

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色（薄青色）14ページ 価格 税抜き 12円

【現行リニューアル版】表紙色（薄黄色）34ページ 価格 税抜き 22円

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
 （香典・生花等の手配があります）

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願いします。

【連絡先】県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

『朗らかに笑って福を呼ぶ』

日曜日の国際通りはトランジットモールの歩行者天国で人が溢れている。ほとんどが観光客で、中国、韓国の人達であるから飛び交う言葉を聞いているとこちらが他の国にいるようである。雑踏の中を市場の方へ向かって行くと、第一公設市場の隣の銀行の2階に「ふくろうの楽園」という所がある。「本物のふくろうとの触れ合いを楽しみませんか？」と言ってきたサファリルックの案内嬢に付いて階段を上る。小生達家族3人は図鑑やテレビでふくろうには馴染んでいるが、本物は見たことがないので、これは良い機会だと躊躇^{ためら}わなかった。ふくろうとの触れ合いサロンである。室内に入ると灯りを落として暗くしている。夜行性の習性に合わせたのである。目が暗さに順応してくるとそこらの止まり木にふくろう達がチョココンと止まっている。ケージの中でないのが嬉しい。メガネふくろうは大きな目の周りに黒い羽毛が生えてメガネをかけているようである。森のふくろうはハリーポッターに登場して豪快に飛び回り人気の大型ふくろうである。室内にはコウモリと白蛇がオマケのように展示されているのである。

「どうぞ、手で触れても良いですよ。手の平ではなく手の甲で優しく撫でて下さいネ」と声がかかったので、早速、娘は森のふくろう、メガネふくろうに触れている。ふくろうは人間同様、顔の正面に2つ目があり、暗闇でも見える視力は夜行性の小動物のネズミなどを見つけるのに強力な能力がある。また、全身を覆っている羽毛はふっくらと柔らかく、スピードを出して飛んでも羽音一つしない。くちばしは鋭く、足は握力が強く鋭いので、捕らえた獲物は逃げられない。これで猛禽類のスターである。ふくろうの首は右に270度、左に270度自在に回るので後方の情景も見えることから、我が家の財務担当の妻は、月末にはふくろうの首が欲しい！と切実なる呟きが出る。

さて、野生のふくろうと出会えるのは沖縄

では何処だろう。山原の奥深い山に行けば、きっと会えるだろう。沖縄だけのノグチゲラやヤンバルクイナが取り上げられるのは当然であるが、全国区のふくろうが全く出てこないのはチョット残念かな！ふくろうに思いを寄せながら山原路に分け入ってみるかな。58号線の北の方から大国林道に入っていく。しばらく行くと深い谷間にかかる長尾橋に出る。全長130mで高さ49mの橋から見る山原の景色は雄大で、深い緑の木に覆われている。橋の上から下を見る。イジュの木やヘゴの群生林がブロッコリーのように見える。欄干に近づくと、高所恐怖症の小生は足がすくむのである。山に分け入ると開けた場所があり、そこには樹齢数百年の大きなガジュマルが立っている。沢山の枝を広げてその枝から無数の気根が垂れ下がっている。気根のカーテンである。その上の枝に大きな鳥が羽音もたてずスーッと飛んで来て止まると翼をたたんだ。ガジュマルの幹が光る。すると、そこから赤い髪の童が飛び出し、並んで枝に座る。ふくろうとブナガヤである。

ブナガヤについて少し説明するところである。山の精霊、木の精と言われる。中南部ではキジムナーとも言う。人間には大変に好意的な存在である。もう故人になられたが、大宜味村喜如嘉出身の山城善光さんという方がいた。若い頃は社会活動家として山原地区の生活改善に汗を流し、後に琉球立法院議員を務めた。一線を退いてから小生の薬局の目と鼻の先のガーブ川水上店舗の3階でビヤホールを開店したので、善光さんと親しい喜如嘉出身の同級生と連れ立って行ったことがあった。すぐにブナガヤの話になり大いに語って聞かせてもらった。ブナガヤが大好きで心から実在を信じているのだ。ブナガヤを見た、ブナガヤに会ったと言う人達を訪ね歩いて「ブナガヤ実在証言集」を発行したのである。小生も一冊いただいた。ただし、彼がブナガヤに出会ったことがあるかどうかは聞き漏ら



イラスト by Y.K

したのである。そのブナガヤが今、ここにふくろうと並んでいるのである。しばらくしてお互いに顔を見合わせて話し始めた。話はテレパシー交信である。ふくろうよ、我々の住んでいるこの山原は貴重な動植物と手付かずの自然が評価されて国立公園に指定される。また、世界自然遺産への登録を目指すというから嬉しいね。ホントに私達も安心して暮らせるのだな。

でも、これとは裏腹に東の方で大変な事が起こっている。辺野古では海上基地建設が再開されるし、陸上ではヘリパッドの建設が始まった。6ヶ所も造るという。木は切り倒され、山が削られた。地元の人達の反対の声も国には届かない。ヘリパッドが完成して嫌われ者のオスプレイが飛来すると、危険性と爆音などで私達の生存が危ぶまれる。何のためにこんな基地を造るのだろうか？極東アジアの安全保障のためという。つまり平和のためだというのである。平和のために戦争の準備をする。平和のために戦争をするのだ。人間の論理は分かりにくい。人間の歴史は戦争の歴史である。今でも中東では戦争とテロで毎日のように多数の人間が死んでゆくのだ。

日本は70年余りの平和が続いている。これは奇跡であるという。いつまでも続いて欲しいものである。1820年代に琉球に来たバジル・ホールが、琉球見聞録を発行してヨーロッパでベストセラーになったが、その中に琉球の人々は親切で親しみやすくとても素朴で、この国には武器が無いと記した。それを読んだナポレオンが、武器の無い国があるなんて信じられないと驚いたという。そんな時代が懐かしく思われる。

あれ！もう夜が明ける。互いに頷いてから、「では、また」と、ふくろうはもっと深い山の方へ飛んで行き、ブナガヤは木の幹に溶け込んでいく。アレー、夢だったか。これまで小生は十二支のトリは鶏だと思っていたが、考えるに地球上には沢山の鳥がいる。これこそ色鳥鳥だ。森の賢者と知恵の神様といわれるふくろうは、鳥類でも代表的な存在であろう。ふくろうと触れ合う機会を持ったことで心の中でふくろうが大きく膨らむ。妻が早速ふくろうのカレンダーとふくろうのデザインのペアの湯呑みを買って来たのである。我が家の今年のトリはふくろうだ。

朗らかに笑って福を呼ぶ福朗かな。

橋の下



誌上ギャラリー（裏表紙）について

平成28年誌上ギャラリー大賞



第285号（平成28年12月号）掲載 成川 玲子氏の撮影写真「黄葉眩しい並木道」

平成28年誌上ギャラリー優秀賞



第285号（平成28年12月号）掲載 伊集 智英氏の撮影写真「縁起物」

第281号（平成28年3・4月号）掲載 廣川 直子氏の撮影写真「シエナ大聖堂」

おめでとうございます！これからも会員の皆様からの多くの作品をお待ちしております！！

編

集

後

記

明けましておめでとうございます。昨年末に長崎県の薬剤師の友人から封書が届いた。紙が1枚入っているかしら？という薄さ。なんだ？？と開封すると、ふわ～っといい香りが…あれ？！グリューワインの香りだ！！確か年末号でドイツかぶれを反省したよな…と思いつつも、ドイツの香りがする。封書の中には、お屠蘇の素（と言うのだろうか）と説明書が。無病息災を願い…と書いてある。我が家では、お屠蘇の真似事はしても、本格派なお屠蘇は初めて。お国変われど、健康にいいのは同じ。日本とドイツの年末年始の香り（ハーブ）が同じだなんて感動。タンナファクルーに香辛料を加えればドイツのクリスマス菓子のリープクーヘンになるといつも思っている私。人が考える事って同じなのだな…

みんな一緒といえば年末恒例、第9合唱付きの一節「Alle Menschen werden Brüder：人々はみな兄弟になる」が浮かぶ。平成29年が、「人類みな兄弟（姉妹）」と言えるような平和な1年となって欲しい。（TOMO）

去年の11月に県薬剤師会創立90周年記念祝賀会が終わったばかりというのに、広報委員会では100周年記念事業に向けての話が飛び交っている。目の前に創立70周年の時に作成された、たいそう立派な「沖縄県薬剤師会史」がある。100周年ともなるとやはり「会史」の作成は必須であろう。「会報」もデジタル化が進んでいるので70周年以降の盛りだくさんの行事・トピックスはすぐに取り出して整理することは出来るので、これらをまとめる作業自体はそれほど大変なことではないと思われる。勿論内容についての議論はまた別問題ではあるが。ところがよくよく聞くと70周年の会史を利用して、その後の会史をくっつけて「出来上がり！しゃんしゃんしゃん」と終わるのではなく、70周年の会史も、今一度全面見直すことになりそうである。勿論、平成9年時の切り口で「70周年会史」は作成されているので、その後十人十色の異論・反論が出て至極当然なこと。これは大変なことになります。限られた資料と限りある皆様の記憶を頼りに頑張るしかありません。といっても私にとっての10年後は予測不能の年月なので、これはもう10年をひとつ飛び出来る若い人に頑張って頂くしかないだろう。（ピアナ）

年が明けて早くも1か月が経ち、冬らしい寒さが迫ってくると覚悟を決めていたが、気温が夏日を記録するなど沖縄の冬はまだ程遠いようだ。そんな矢先に嫁と娘がインフルエンザを発症！息子は元気だが幼稚園を休まさないといけず、仕方なく職場の薬局に連れていき、預かり保育園状態… 休憩室にお菓子セットとファミコンクラシックミニを持参し、受け入れ準備は完璧。だが、しばらくして事件が勃発。患者さんに服薬指導をしている際、談笑しながらも自分に対する視線が逸れているのに気づいた。ん？ふと視線の先に目を向けると、このウーマクー息子！休憩室から抜け出して、そっと背後に忍び寄って急接近し、椅子に膝立ちして斜め後ろにて待機。気がついた瞬間、丸めたカレンダーで父親の頭に「面～！」と一太刀浴びせてニンマリ。患者さんにお詫びしながらも笑われる始末… 即座に抱え上げて休憩室まで移動し、尻叩き100連発の刑を執行。次回から薬局（とくりん保育園？）への出入り禁止になったことは言うまでもない… （ごり）

ハーボニー配合錠の偽造品騒ぎにびっくり！卸さんの分割販売が中止にならないといけど。ちょっと心配…。 （みつなり）

明けましておめでとうございます。昨年は診療報酬改定など色々なことがありました。ここ数年、暗い話題の続いた業界だけに、今年は明るくいきたいものです。ここ南部地区は、正月が2回あるといえます。新旧合わせて行うのですが、地域差が大きく、患者さんによっては、新正月のみで行うところと新旧正月を行うところ、旧正月のみで祝うところで分かれており、いまだ自身もしっかり理解しておりません。ただいえるのは、正月明けは検査結果が悪化している傾向にあるということ…。コレステロール、血糖は沖縄の行事の多さの影響を、大いに受けているといってよいでしょうか。これに対する対策は鉄の意志のみ…。健康への道のりは果てしないです。 （松）

毎度新年の抱負に入り込んでくる、早起き。今年の私には心強い味方がいる、iPhoneアプリの“Sleep Meister”である。アラームをセットし、iPhoneを枕元に置いておくと、眠りの浅いタイミングでアラームを鳴らしてくれる。さらに、睡眠時間や眠りの深さ、寝つきも記録できる（寝言も録音可）。自分の生活を省みながら、健康を心がける一年にしたい。 （いさ吉）

沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp
 ■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
 ■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
 ■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
 ■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報

第286号 平成29年2月1日発行

◇次号は、平成29年4月中旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 亀谷浩昌

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／池間記世・前濱朋子・鈴木一徳・石川恵市
 伊敷松太郎・伊差川サヤカ 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
 八重山地区通信員／宮良善朗 事務局／大城喜仁

印刷：有限会社 Skill

平成28年 誌上ギャラリー大賞



「黄葉眩しい並木道」 photo by 成川 玲子
285号(平成28年12月号)掲載

平成28年 誌上ギャラリー優秀賞



「縁起物」 photo by 伊集 智英
285号(平成28年12月号)掲載



「シエナ大聖堂」 photo by 廣川 直子
281号(平成28年3・4月号)掲載